

るは之をより善本店とす、其營業科目は友仙袴、友仙帶上、帛紗、裾除、鹿子袴等にして低價と勉強とを以て顧客の呼び聲甚だ高し

●るり清本店 新島橋四條角 本店は京都市樞要の地に在りて専ら半袴、帶地、手帛紗等の優美なる物品を販賣し且つ染色、模様等は特に意匠を凝らして時代に適せしむる等用意甚だ深切なり殊に價格は低廉正確なれば地方よりの注文日に繁く商運月に旺んなり

●荒川益次郎 綾小路島丸東入 特電電話二四七番 五二會半袴部長として、別染裾袴裏地の創意者として有名なるは本店なり、業務の擴張を計れることは東京市に支店を置き各地方に取引店を設け居るによりて證明せらるべし、而して専ら薄利を旨として顧客の注文に應ずるものなれば事業は年と共に盛んなり

●赤井吳服店 四條通寺町角 特電電話三七〇番 本店の營業要目は内外の織物類を始めとし木綿物に至るまで販賣する確實なる商店にして顧客の老若に依りて掛引を爲さず一切正札を以て取引し且つ約束と迅速と丁寧と廉價とを以て理想と爲すと云へば他は談らずと雖も推して知り得べきか、商業の月に擴張を見るは偶然の事にあらざるなり

●櫻庭長兵衛 御馬場通船場 鴨の川風に身を曝らしてもまだ堪え難き夏の暑さに一陣の涼風を煽き出だして自然を人工の手に支配する團扇屋は本店なり特に紹介すべきは圖案意匠の高尙優麗

なるにありて價格も亦廉なれば商業日に盛大にして福徳の風は家中に吹き渡れり

●株式二十四銀行京都支店 烏丸通六角町北角 電話一三三六番 當行は本店を大阪に支店を京都神戸其他各地に設け特に臺灣には臺北、臺南に支店を置き資本金五百萬圓を以て銀行全般の業務を而も確實親切に取扱ひ經濟界の融通圓滑を計ることを以て主たる目的となし業務甚だ盛んなり

●澤田嘉兵衛 五條通船場西入 電話三四四五番 本店の營業科目は模様紋付、羽織着尺紋付、裏絹染絹、縮緬友禪等にして其の特色とするところは値段の低廉にして親實なると、注文期日を違へざるにありさればこそ地方の注文頻繁にして業務甚だ盛んなり

●澤渡染吳服店 西洞院六角下ル 電話一七〇五番 二百年來模様染吳服店を以て今に連綿として衰へざるは本店なり、其染出せる無地物の光澤の艶美なる模様意匠を凝らして最新なること等は本店獨特の妙なり、近頃又た盪瀾友禪帛紗に妙を致したれば祝儀用坏には至つて宜ろしとの風評高し

●北澤萬右衛門商店 東區町御池北入(南區區) 電話一〇三三番 本店創業は文化十四年八月の昔にして爾來染吳服卸賣商を營み居れり、現今の主要なる營業科目は花色絹類、長濱縮緬、羽二重斜子、仙臺平等にして勉強家として呼聲最も高し

●宮内省京都織物株式會社 京都市吉田町 特電電話百二十三番 本社は明治二十年の創立にして資本金九拾萬圓なり、殊に開業當日は畏くも 皇后陛下の御降臨を給はりたるのみならず二十四年十月には 英照皇太后陛下の御降臨を給はりし等光榮の歴史を有せり、製造品は都朱子、色縮子、英米清韓向織

○京都著名商工業者實勢案内

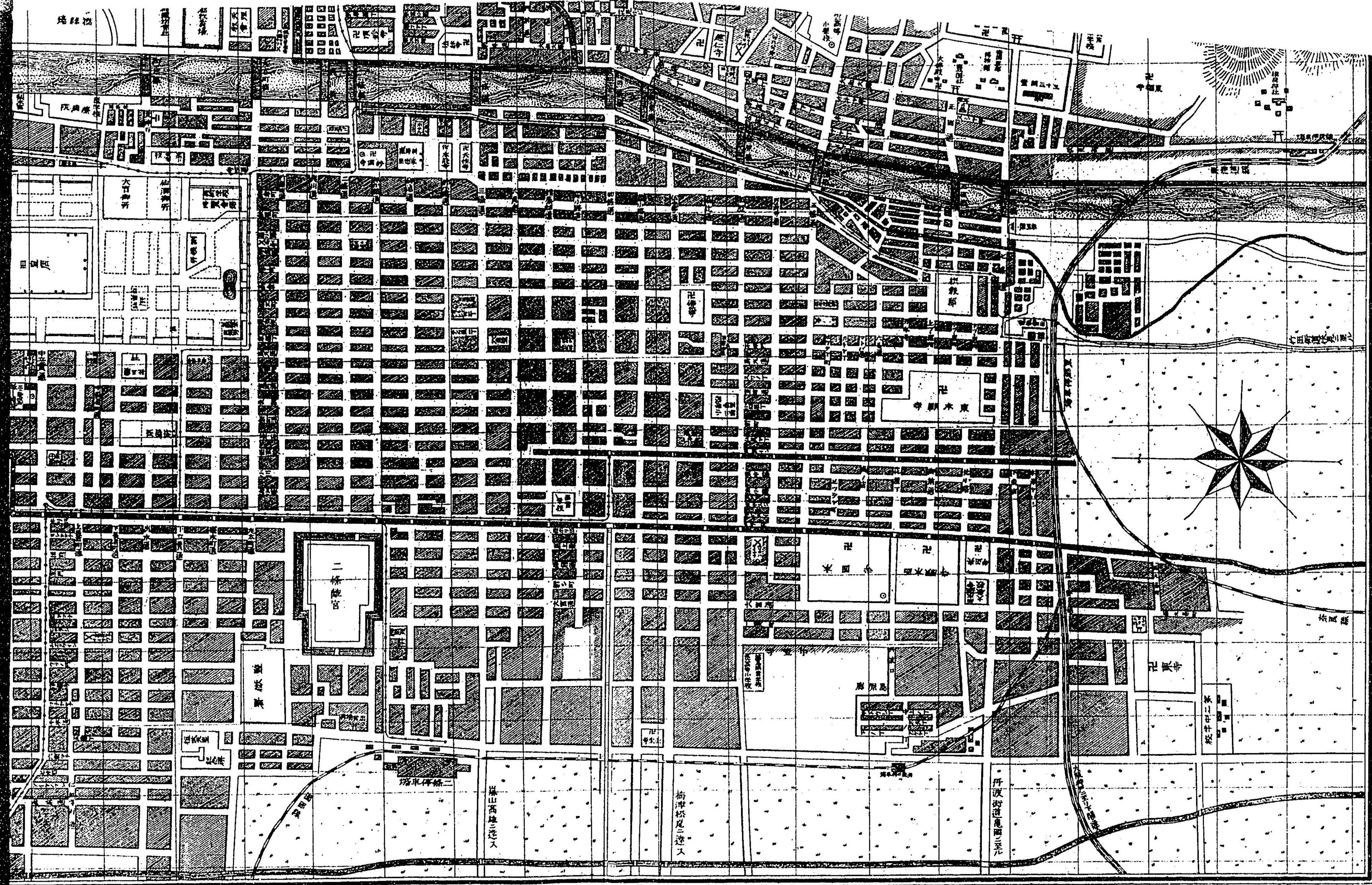
物等にして一ヶ年の製造高は壹百萬圓以上に上り、各國博覽會の賞牌を受領せる等京都市織物界の雄鎮たり

●大丸屋下村呉服店 特松原寺町四丁目一〇番 電話八二一 本店はその昔正徳年間の創業にして綿々として今日に至り東京、大阪、名古屋等各樞要の地に出張店を開設して専ら絹布織物太物及び染物、刺繡、友禪等の業を営めり、殊に本邦の弊習たりし懸値の舊慣を洗除せんとしたる始祖にして價格の正確を主とし親切を以て顧客に接す且つ營業は年一年に繁榮して現に附屬營業として糸店、扇店、金物店、染織工場等をも有せり

●島村染呉服店 不問門通松原南入 特電話五百五十番 本店は縮緬友仙、山海織友仙、紋羽二重友仙、絹モール肩掛等を織製販賣するものにして特に圖案意匠に意を用いたれば高尚優美なること他店に勝るとの呼聲高し加之ならず價格も低廉なれば業務日に盛んなり

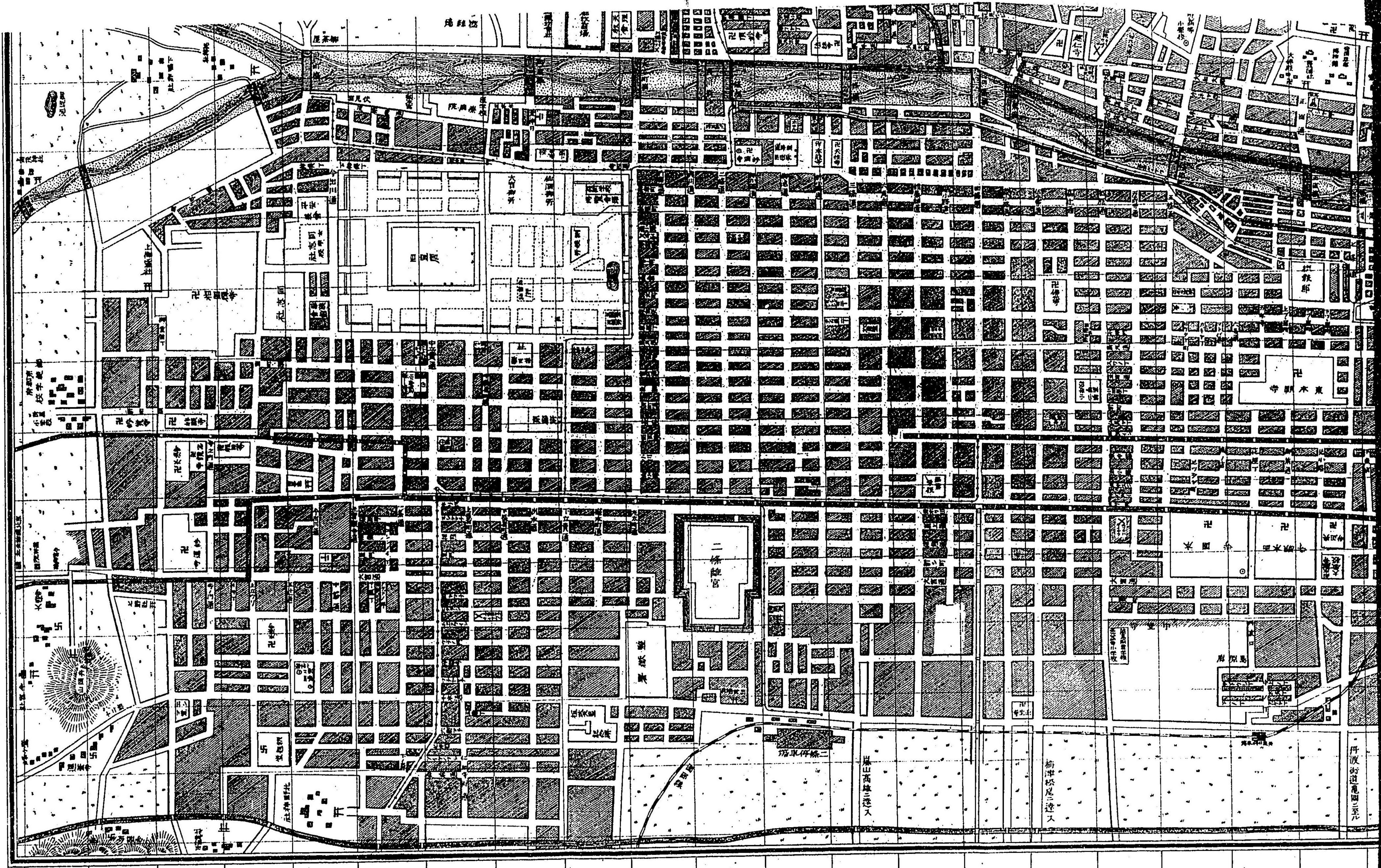
●平岡萬珠堂 五條通建仁寺町角南號傘 特電話一六〇三番 本店は西大谷より西へ四五丁目にある陶磁器販賣店にして其特色とすべきは賣品陳列所を設け一巡して種々の什器を縦覽せしむるの便と、價額の廉なると、繪模様等に嶄新なる意匠を凝らせるとにありて業務甚だ賑はへり

●廣岡伊兵衛 室町五條上ッ 電話三四〇番 無線友禪染、繪畫友禪染、光線友禪染等獨特なる新技術に依りて嶄新なる友禪染を製造販賣するは本店にして代價も甚だ低廉なり、殊に地方の顧客に對して總てに於て親切なるは、店主先天の特性にして業務の日に盛んに赴くは賀すべきことなり



七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八

十二 九十 八十 七十 六十 五十 四十 三十 二十 一十 0十 九 八 七 六 五 四 三 二 一 縱行線



六二 五二 四二 三二 二二 一二 十二 九十 八十 七十 六十 五十 四十 三十 二十 一十 0十 九 八 七 六

名勝の部

山城國

黒田天外編述

山城國は畿内の東北隅に位し、西經三度四十六分より、全四度九分に至り、北緯三十四度四十二分より、三十五度十四分に至る。東南は近江、伊賀、大和に界し、西北は河内、攝津、丹波に接す。東西十四里、南北十六里、面積五十二方里にして、一市八郡あり。京都市、愛宕郡、葛野郡、乙訓郡、紀伊郡、宇治郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡といふ。地勢は山岳起伏重疊して四面を圍繞し、中央は平地廣濶にして水流貫通し、諸川合して淀川となり攝津に入る。實に山河襟帶、自然に城をなすものと謂ふべし。

京都市

京都市は山城國の中央にありて、東北は愛宕郡に連なり、西南は葛野郡についき、東南は紀伊郡に接し、東部は近江、及び宇治郡に隣る。東西二里十四町、南北一里三十四丁、面積一方里強、

◎山城國

町數一千六百八十九、戶數七萬一千百十九、人口三十七萬五千八百四十一あり。東山一帶は蜿蜒として翠屏の如く列立し、鴨河は縹緗として素練の如く貫流し、山色水光相掩映して風景の絶佳なるいふばかりなし。而して市街を二區に分ち、三條通以北を上京とし、以南を下京とす。市街井然として宛かも非盤目の如く、南北を縦とし東西を横とす。縦通なれば北に往くを上るといひ、南に往くを下るといふ。横通なれば何通を東に入る、西に入るといふ。されば縦通横通の交叉点を以て、求むる所を尋ねれば知れざるとなし。今左に縦横大通の名を掲げむ

縦通

○大和大路 北は三條より南は伏見街道に接し、其内三條より四條まで。○川端通 北は出町橋より南は土手町通北は丸太に至る。○中町通 北は丸太町一町上より南は木屋町通北は七條に至る。○河原町通 北は出町橋より南は新橋木町通北は丸太に至る。○新島丸 通北は荒神口より南は寺町通北は鞍馬口より南は五條に至り、○御幸町通 ○秋屋町通 ○宮小路通 ○柳馬場通 以上いづれも北は丸太 ○坂町通 北は丸太町より南は綾小路まで。○高倉通 北は丸太町より南は問之町通 北は丸太町より南は錦小路に至る。○東洞院通 北は丸太町より南は盛小路に至る。○車屋町通 北は丸太町より南は又高辻より南は錦小路に至る。○竹田街道に接し伏見に至る。○室町通 北は丸太町より南は不明門通 北は松原より南は丸太通 北は上立賣より南は○兩替町通 北は丸太町より南は○佛具屋町通 北は高辻より南は衣 柳通 北は下長者町より南は○新町通 北は加賀辻より南は○釜座通 北は中長者町より南は○佛具屋町通 北は高辻より南は

○西洞院通 北は武喜小路より南は小川通 北は寺之内より南は東中筋通 北は高辻より南は○油小路通 北は元誓願寺所に至る。○西中筋通 北は魚堀より南は東堀川通 北は寺之内より南は西堀川通 北は今出川より南は○葎屋町通 北は元誓願寺より南は○岩上通 北は御池より南は○猪熊通 北は元誓願寺より南は二條城に至り、○黒門通 北は今出川大町に○新し町通 北は二條城より南は○大宮通 北は今宮御所より南は二條城に至る。○松屋町通 北は丸太町より南は通 北は中立賣より南は○智恵光院通 北は寺之内より南は○裏門通 北は一條より南は○淨福寺通 北は寺之内より南は通 北は鷹ヶ巣より南は丹波口 ○六軒町通 北は上立賣より南は○七木松通 北は五辻より南は○御前通 北は今出川より南は横通

○鞍馬口通 東は下鴨村より南は○盧山寺通 東は大宮より南は○寺之内通 東は室町より南は○上立賣通 東は寺町より南は五辻通 東は大宮より南は○今出川通 東は出町より南は○中筋通 東は大宮より南は○元誓願寺通 東は七木松に至る。○葎屋町通 東は大宮より南は○武者小路通 東は丸太より南は○一條通 東は丸太より南は○中立賣通 東は丸太より南は○上長者町通 東は油小路より南は○下長者町通 東は丸太より南は○出水通 東は丸太より南は○下立賣通 東は丸太より南は○榎木町通 東は丸太より南は○九太町通 東は日暮に至る。○竹屋町通 東は土手町より南は○夷川通 東は御前通に至る。○二條通 東は廣道より南は○押小路通 東は寺町より南は○御池通 東は神泉苑町に至る。○三條通 東は東海川に至る。○六角通 ○船場通 ○錦小路通 以上いづれも東は大宮に至る。○四條通 東は入道神社西門より南は

山城國

○綾小路通 東は寺町より四 ○佛光寺通 東は寺町より四 ○高辻通 東は寺町より四 ○松原通 東は清水坂より四 千
○萬壽寺通 東は木戸町より四 ○五條通 東は西大谷より四 ○雪踏屋町通 東は東洞院より四 ○鍵屋町通 ○的場通
以上いづれも東は東洞院 ○魚棚通 東は下寺町より四 ○萬年寺通 東は下寺町より四 ○上珠敷屋町通 東は御影堂新道よ
り西は新町に至る ○花屋町通 東は新町より四 ○正面通 東は大佛より四 ○中珠敷屋町通 東は間之町より四 ○御前通 東は新町より
○下珠敷屋町通 東は東洞院馬場町東 ○北小路通 東は新町より四 ○七條通 東は大和大路より西千本末末末末末末末
○塩小路通 東は東洞院より四 ○八條通 東は大宮より四 ○九條通 東は大宮より四
○十條通 東は大宮より四 ○十一條通 東は大宮より四 ○十二條通 東は大宮より四 ○十三條通 東は大宮より四
○十四條通 東は大宮より四 ○十五條通 東は大宮より四 ○十六條通 東は大宮より四 ○十七條通 東は大宮より四
○十八條通 東は大宮より四 ○十九條通 東は大宮より四 ○二十條通 東は大宮より四
○二十一條通 東は大宮より四 ○二十二條通 東は大宮より四 ○二十三條通 東は大宮より四
○二十四條通 東は大宮より四 ○二十五條通 東は大宮より四 ○二十六條通 東は大宮より四
○二十七條通 東は大宮より四 ○二十八條通 東は大宮より四 ○二十九條通 東は大宮より四
○三十條通 東は大宮より四 ○三十一條通 東は大宮より四 ○三十二條通 東は大宮より四
○三十三條通 東は大宮より四 ○三十四條通 東は大宮より四 ○三十五條通 東は大宮より四
○三十六條通 東は大宮より四 ○三十七條通 東は大宮より四 ○三十八條通 東は大宮より四
○三十九條通 東は大宮より四 ○四十條通 東は大宮より四 ○四十一條通 東は大宮より四
○四十二條通 東は大宮より四 ○四十三條通 東は大宮より四 ○四十四條通 東は大宮より四
○四十五條通 東は大宮より四 ○四十六條通 東は大宮より四 ○四十七條通 東は大宮より四
○四十八條通 東は大宮より四 ○四十九條通 東は大宮より四 ○五十條通 東は大宮より四
○五十一條通 東は大宮より四 ○五十二條通 東は大宮より四 ○五十三條通 東は大宮より四
○五十四條通 東は大宮より四 ○五十五條通 東は大宮より四 ○五十六條通 東は大宮より四
○五十七條通 東は大宮より四 ○五十八條通 東は大宮より四 ○五十九條通 東は大宮より四
○六十條通 東は大宮より四 ○六十一條通 東は大宮より四 ○六十二條通 東は大宮より四
○六十三條通 東は大宮より四 ○六十四條通 東は大宮より四 ○六十五條通 東は大宮より四
○六十六條通 東は大宮より四 ○六十七條通 東は大宮より四 ○六十八條通 東は大宮より四
○六十九條通 東は大宮より四 ○七十條通 東は大宮より四 ○七十一條通 東は大宮より四
○七十二條通 東は大宮より四 ○七十三條通 東は大宮より四 ○七十四條通 東は大宮より四
○七十五條通 東は大宮より四 ○七十六條通 東は大宮より四 ○七十七條通 東は大宮より四
○七十八條通 東は大宮より四 ○七十九條通 東は大宮より四 ○八十條通 東は大宮より四
○八十一條通 東は大宮より四 ○八十二條通 東は大宮より四 ○八十三條通 東は大宮より四
○八十四條通 東は大宮より四 ○八十五條通 東は大宮より四 ○八十六條通 東は大宮より四
○八十七條通 東は大宮より四 ○八十八條通 東は大宮より四 ○八十九條通 東は大宮より四
○九十條通 東は大宮より四 ○九十一條通 東は大宮より四 ○九十二條通 東は大宮より四
○九十三條通 東は大宮より四 ○九十四條通 東は大宮より四 ○九十五條通 東は大宮より四
○九十六條通 東は大宮より四 ○九十七條通 東は大宮より四 ○九十八條通 東は大宮より四
○九十九條通 東は大宮より四 ○百條通 東は大宮より四

今京都の沿革を略記せんに、桓武天皇延暦十二年正月、藤原小黒麻呂、紀古佐美、僧賢理等に勅
し、山背國葛野郡宇多村の地を相せしめ玉ひ、定めて帝都となし、延暦十三年十月廿二日舊都乙
訓郡長岡より遷御あり。同十二月詔して山背を山城と改め、新都を平安城と名け玉ふ。實に山
河襟帶、四神擁護の靈地にして、万代不遷の帝都となり、其規模極めて宏大にして、宮殿の雄麗、
市坊の整正、そらに宏議を仰ぎ奉るに餘りあり。自後三百年間、平安京最も隆盛を極めたるが、
王室漸やく衰へゆきて、藤原氏の榮花も夢の如く散り、源平の合戦、承久の騷亂、南北の争鬪等
干戈相つき、應仁の大亂に至りて京都は全く荒廢し、たゞ一面の荒野原となりしが。永祿十一年織
田信長、正親町天皇の密勅を奉じ兵を提さげて京都に入りしより再興の運兆し、ついで豊臣秀吉

皇宮

皇宮は上京區御苑の中央にありて、東西百三十七間、南北二百四十六間あり。宮門は四方に建禮
門、南面建春門、東面宜秋門、西面朔平門北面あり。内廷に承明門、日華門、左掖門、月華門、右
掖門あり。紫宸殿は中央に位し、賢聖像、負文龜の繪此とこにあり。即ち大典を行なはせ玉ふ
處にして、中央に玉座を設く。殿の南階左右に左近の櫻、右近の橘あり。全殿の西に清涼殿あり、

○山城國

式の常御殿にして、昔は此殿に御住居ありしなり。荒海障子、昆明障子等あり。南階の砌には御溝の水流れ、庭上には吳竹漢竹の莖あり。宣陽殿は紫宸殿の南方にあり、大臣宿所、公卿坐、次將座、議所などあり。其他東部に常御殿あり、東北に小御所あり、御學問所、御涼所、御三間殿、迎春殿、皇后殿等尙多きも、一々細録するは恐れあれば之を略す。林泉は嘉木芳草多く、仙鶴瑤禽咲きて、雲上の神風、人間の想ひはかる處にあらずといふ。

仙洞 附大宮御所

皇宮の東南にあり、地積二万二千五百六十二坪にして、徳川幕府が後水尾上皇の爲に造進して仙遊の所となせしものとす。櫻町宮と稱す。其後延寶元年を初め、天明八年、安政元年等三回の炎上あり。隨て焼れは隨て造進せしが、最後の炎上には當時上皇の在まさりしかば、幕府はその外垣を修せしみにて宮殿造營の事なくして今日に至りしが、林泉は依然として舊時の觀を改ためず、飛泉清池は茂樹密林と相掩映して深山大澤に入るが如く、實に希有の大林泉となす。仙洞の西北隅に大宮御所あり、寛永中幕府女院の爲に造進せし處にして、仙洞と長廊を以て相通せしが、之また數回の回祓にかかり、其後幕府の再造せしものは、維新後常御殿等を存じ、其他は撤去せられたり。

御苑

御苑は舊九門の内にして、皇宮、仙洞皆其中にあり。東は寺町より、西は烏丸に至り、北は今出川より、南は丸太町に至る。四面繞すに石垣を以てし、其上に樹木を植ゆ。南面に堺町御門あり、東面に寺町御門、清和院御門、石薬師御門あり、北面に今出川御門、西面に乾御門、中立賣御門、蛤御門、下立賣御門あり。苑内は一面に青芝を植へ、縦横に廣衢を開き、梅柳櫻桃の諸樹を交へ栽たり。池水あり、清泉あり、四時の眺望佳ならざるはなし。舊公卿の邸宅は多く此苑内にありしが、維新遷都と共に之を撤去し、今は開て廣漠たる苑地となれり。皇宮仙洞の外、桂宮は皇宮の北にあり。其南に祐井あり、舊中山家の邸地にして、今上天皇御産湯の井なり。車返の櫻は中立賣御門内にあり。久邇宮は皇宮の西南にあり。其南に主殿寮出張所あり。白雲神社は久邇宮の東北にあり。宗像神社は久邇宮の南にあり。測候所は堺町御門内の東にあり。其東に京都博覽會場、京都圖書館あり。又其東南に美術工藝學校あり。

二條離宮

上京區二條堀川四にあり

二條離宮は即ち舊二條城にして、慶長年間築造し、徳川家康初めて入城あり。寛永三年後水尾天皇の行幸を仰ぎ、天下の諸侯を率ひ御前に盟ひ、全十一年には將軍家光三十万の兵を率ひ上洛し

てこしに駐諭し、二百餘年後家茂上洛の時またこしに入り、維新前將軍慶喜が大政返上の表を草せしも、明治元年 今上天皇の親征の詔を頒ち玉ひしも皆此處にて、明治十七年離宮となりぬ。宮殿宏壯崇峻にして、彫刻繪畫等皆一時の名工を賜使し、林泉は加茂川の水をひき、奇石怪岩を點綴し、樹木を用ひず別に一偉觀を呈せしが、近年は雜樹を叢植し、面目少しく變せしといふ。

修學院離宮 愛宕郡修學院村にあり

比叡山雲母坂の西麓にあり、徳川幕府の後水尾天皇の爲め造營せし處にして、分つて上御茶屋、中御茶屋、下御茶屋となす。上御茶屋は最も大にして、隣雲亭、洗詩臺、楓橋、窮途軒、紅葉谷等の勝あり、中御茶屋は上御茶屋の西南にありて、宮殿雅澹に、楓杉戸の繪は皆當時の名家なり。下御茶屋は最西部にあり、壽月觀、藏六庵等あり、いづれも樹木鬱蒼、池水澄々とし、實に點塵を絶つて仙宮となす。

桂離宮 葛野郡下桂村にあり

桂離宮は其初め豊臣秀吉が、其猶子に請ひまつれる八條宮智仁親王の爲め造營せしものにて、書院林泉共に小堀遠州の作になる。相傳ふ秀吉の遠州に命じて之を作らしむるや、遠州約するに三事を以てす、一に曰く、勞費を吝む勿れ。二に曰く、成功を急ぐ勿れ。三に曰く、成功に至るま

で來り觀る勿れ。と、秀吉之を誦す。遠州即ち其徒と共に經營慘憺、數年の工役を勞して之を成就せり。今に至り數百年、樹は益々蒼く、石は益々古に、亭榭臺殿林影水光と相映發し、其眺望は東桂川に俯し、西は西山一帶を望み、北は嵐山、龜山等を見る、四境幽閑にして實に天下匹儔なかるべきの名苑とす。明治十六年離宮に定めらる。

附記 皇宮離宮拜觀の資格あるものは、皇族、高等官、華族、有位官、從六位以上、勳勳者、勳六等以上、各國公使、及び其家族並に公使館員等にして、外國貴族、及び學者、美術家等の特別拜觀を得るものは、宮内大臣の特許あるものに限る、すべて御苑内主殿察出張所に至り掛員の指揮に従ひ拜觀すべし。

東 北 部

三條大橋 三條通鴨川に架す 京都三大橋の一にして、天正十八年豊太閤が初めて造營せしめしものにかゝる。その橋の銘に曰く、

洛陽三條之橋至後代一化一度往還人磐石之礎入地五尋切石柱六十三本蓋於日域石柱橋濫船乎

天正十八年庚寅正月日

豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

自後二回の改造修築にも、擬寶珠は當時のものを襲用し、銘文等尙存す。本橋は東海、東山、

北陸等諸街道の起點にして、里程元標亦ここに在り、諸道の旅客輻湊して晝夜往來絶へず。

三條の大橋にて

知 紀

ふる雪に加茂のかはらを見渡せばみなしらなみとなりける哉

平安神宮三條大橋より十町 祭神は桓武天皇にして官幣大社也。明治二十八年京都市に於て平安遷都一千一百年祭を興行するや、殿社を造營して神靈を奉祀し、また大極殿、應天門を構築し、一に延暦の舊製に倣ひ、明治二十六年十一月工を起し、全二十八年二月全く竣工し、宏壯華麗京洛の一偉觀を添へぬ。應天門は二層樓にして、高さ六十四尺壇上に立ち、碧瓦朱楹、巍然として聳ゆ。全門より北三十三間に於て龍尾壇あり、其北は即ち大極殿なり。殿は南面にして高さ五十五尺、中央を身舎とし、之を周りて入側あり。屋頭の二樓は東を蒼龍といひ、西を白虎といふ、いづれも碧瓦朱楹にして、棟の兩端には金銅の鸚尾燦爛として耀く。本殿は破風造り檜皮葺にして、總て檜の白木を用ゆ。社後に神苑あり、樹石清楚にして二大池あり、又應天門前の兩側にも神苑あり、多く萩を栽へ、三秋の眺めは京洛第一となす。

時代祭 は平安神宮の私祭にして、毎年十月二十二日之を行ふ、こは桓武天皇が延暦遷都以來、千百年間に於る文物制度の變更せし時代を區別し、當時の行装を撰し出して祭典を粧飾するものにして、其行列は第一徳川城使上洛式、第二織田公上洛式、第三城南流鏑式、第四藤原文官參朝式、第五延暦武官凱旋式、第六延暦文官參朝式にして、列外に山國隊、弓筋隊あり。燦爛たる古代の甲冑より、古雅の衣冠、整肅の社袴、さてはヒーサーイの槍奴まで、走馬燈の如く市議事堂より市中を行列して平安神宮に還り、風華も全しく神幸なるにて、實に日本無比の奇觀なり。

武徳殿平安神宮の西にあり 本殿は其昔桓武天皇が大内裏に武徳殿を造營し、専ら武技を奨勵し玉ひたる宏談を仰ぎ、明治二十八年志士相談で武徳會を設立し、全三十二年に建築竣工したるものにて、毎年五月四日平安神宮に於て武徳祭を執行し、之と全時に全國の武術家を武徳殿に會し、各種の武術を演せしめ斯道を作興する處とし、建築宏壯輪奐なり。附近に競馬場、遊泳場等あり。

美術館平安神宮の東にあり 本館は第四回内國博覽會の美術館を京都市に請受けたるにて、近來更に優待室、倉庫等を新築し、庭園を改修せり。本年は第五回内國博覽會開會中古美術博覽會を開き書畫、彫刻、蒔繪、陶磁器、金屬、織物、刺繡、染物等の優秀なる古美術品を展觀せしめ、場

内の鞠坪にては蹴鞠の技も観覧せしむといふ。蹴鞠は普通五錢特別十錢
 博覽會廳天門の 本館も全しく第四回内國博覽會の工業館を京都市に請受け少しく構造を變更せしにて、本年は第五回内國博覽會開期中、本館に於て京都特有物産陳列大會を開き、京都の特産物は悉く蒐集する上、織物、染物、陶磁器、金屬、刺繡、扇子、團扇、漆器、絲組物の八種は境内に於て製作し、入場者に観覧せしめ、尙ほ注文品の製作もなし、又開期中四月十六日より七月三十一日まで毎日午後十一時迄夜間開場をなすといふ。観覧料は一人貳錢
 相輪標の北 紀念相輪標は、桓武天皇奠都の際傳教大師が相輪標を王城の鎮護たる叡山に建しに倣ひ、明治二十八年遷都祭執行の際、平安神宮の畔に建立するととなり、全三十五年六月落成せり。標の高さ六十一尺にして、上面に青銅の九輪を嵌し、頂上に鍍金寶珠を安んず。正面なる平安遷都紀念標の七大字は、小松彰仁親王の染筆なり。
 動物園の東南 動物園は明治三十三年に組織せし東宮殿下御慶事奉祝紀念會の紀念事業として設置するに決定せしにて、四方は石垣を築み、園中には丘をつくり池を穿ち、壯大なる噴水を設け、樹木花草を雜栽し、多くの珍禽奇獸を其間に飼養する計畫にて、目下工事中なり。
 南禪寺 上京區南 隨濟宗の本山にて、開山は大明國師なり。初めは龜山法皇の離宮なりしを、

國師に賜ひ伽藍となし、後に五山の上と定め玉ふ。山門は五鳳樓といひ、寛永年中藤堂高虎の再建なり。世俗傳て石川五右衛門此樓上に潜伏せしといふ 佛殿は明治二十八年一月焼失し、目下再建工事中とす。方丈は下賜の清涼殿と、桃山城の建物にして、襖の繪は狩野諸家の名筆とし、殊に探幽が水呑の虎はいと名高し。南禪院は佛殿の南にあり、即ち龜山上皇上宮の跡にして、徳川時代の再建にかり、襖子は狩野常信とす、林泉またよく。中門の西南なる金地院には東照宮廟あり、全庭園は鶴龜の庭と稱し、小堀遠州の作にて有名なり。南禪寺は三月一日より五月三十日まで、金地院は四月一日より六月三十日まで寶物展覧あり
 第二橋頭雨後泥。村圍門巷路東西。遇人休問南禪寺。一帶青松路不迷。
 頼 山 陽
 松陰の間は寒き小春かな
 芹 舎

永觀堂 南禪寺の北 來迎山禪林寺と稱し、淨土宗西山派の本山なり。本尊は願盼の阿彌陀佛と稱し世に高名し。寺傳に云ふ、永觀律師長朝行道の時、本尊佛壇を下り律師に先ち共に行道し、左に顧みて永觀蓮と宣ふ、律師の請により其相を改ためず云々と。境内に辨天池あり、池畔は楓樹殊に多く、晩秋の候は恰かも錦繡を晒すが如し。四月二十六日より一周回寶物展覧あり
 永觀堂觀楓

うるはしく染し色には佛さへかへりみすらん庭のみち葉
若王子神社（永觀堂の北） 後白河天皇の創立にして、紀州熊野神社を勧請す。山上櫻楓樹多く、
溪間に三箇の瀑布あり、三の瀧、二の瀧、一の瀧といふ。四邊幽邃にして、晚秋楓葉の候と共
に遊人群集す。

若王子茶亭圖合作

東山多勝概。此境別成天。新樹最堪愛。殘芳誰不憐。七層林外塔。一曲戸前泉。卒爾
廣酬句。留爲後日緣。

小野湖山 有功

名にたかき瀧の白糸されはこそ花の錦もおりいたしけれ
熊野神社（上京熊野） 全じく後白河上皇が紀州熊野神社を勸請し帝都の守護神となし玉ひしに
て、京洛三熊野の一なり。昔時は神殿壯麗なりしも、應仁の兵火に悉く蕩盡し、現今はいと物
寂たり。後の森を聖護院の森といふ、老樹鬱蒼たり。
聖護院（聖護院町） 智證大師の開創にして、本尊は不動明王なり。中世以後法親王の住し玉ふ處
となり、世に聖護院宮と稱す。即ち三井の長吏にして、熊野三山の別當とし、天台流修験道を

總管せらる。殿堂宏壯なり。

黒谷（上京區同時） 紫雲山金戒光明寺と號す、淨土宗鎮西派の本山なり。昔上法然上人が叡山西
塔の黒谷より、移つてこゝに幽栖せしより新黒谷と稱し。後には單に黒谷と稱す。本堂には法
然上人自作の像を安置す。堂前に一株の老松あり、鐘懸松といふ。相傳ふ熊谷直實法然上人に
つき髪を薙す時、其着せし鍔を池水に洗ひ、此松が枝にかけしよりかく名くと。東、蓮池を過
ぎ熊谷堂、勢至堂、並に熊谷眞實、平教盛の二塔あり。又全石階の上なる山の半腹に文珠塔あ
り、日本三文珠の一と稱す。紫雲石は塔の北半町許の小堂にあり、傳へ云ふ、法然上人此石上
に踞し佛法有縁の地を祈りしに、忽ち紫雲霧靄として石下より起る、依て驚喜して本山を開く、
即ち常山第一の靈蹟なり。と、反古庵は西翁院にあり、一に淀見の茶室と稱し、藤村庸軒の作
にて有名なり。三月十五日より五月十
五日まで寶物展覽あり

黒 谷

遊山雲如 蕪村

華鯨一吼晚涼微。想像英雄剃度時。放下屠刀即成佛。清風蕪徹白蓮池。
黒谷のとなりは白し蕎麥の花

眞如堂 眞如堂の北 鈴聲山眞正極樂寺と稱す、本尊阿彌陀佛は慈覺大師が江州志賀郡苗鹿明神より授かりし神木を以て彫造せしものなり。と、本堂の外元三大師堂、藥師堂、三重多寶塔等あり。境内は楓樹多く、三秋の眺めは幽麗畫の如し。四月一日より五月二十日まで寶物展覽あり

眞如堂

梁川星殿

半山樓閣影重々。紅樹白雲多麗容。中有故人新墓在。眞如堂下假停輜。

全

去

來

すしらは野山にみつる念佛かな

吉田神社 吉田町神樂 官幣中社にして、貞觀三年中納言藤原山陰始めて祀る處とし、祭神は武甕槌命、齋主命、天津兒屋根命、姫大神の四座を鎮す。殿舎壯麗にして境地幽邃、神さびていと尊とし。

神樂岡

岩垣月州

松陰爭座坐斜陽。羅綺滿山雲樹香。都是洛陽城裡客。却臨三城裡賞烟光。 本殿は八角造の寛政にして、日本最上日高日宮の大額は嵯峨天皇の宸筆、ト部家齋場あり

大元宮元本八神殿の小額は後土御門天皇の宸筆なり。八神殿は本殿の後にあり、神産日神、高御産日神等の八座を祀り、其他外宮、内宮、及び日本國中總攝社三千六十三神の各國別の社祠駢列せり。境内いと神々し。

兼 瀬

万代を早四かへりの霜をへてたへぬ吉田の神祭かな

安樂寺 上京區鹿谷 住蓮山といふ、淨土宗にして、在昔法然上人の徒弟住蓮安樂の二僧此處にて一向専念の念佛を唱へしに、後鳥羽上皇の二寵姫松虫、鈴虫發心なし、潜かに大内を忍び出で二僧に従ひ尼となりたるにぞ、上皇大に怒りて二僧を死罪に處し、其師法然上人を土佐に流し玉ふ泉より庵室久しく廢せしを、後人再建せしなり。住蓮、安樂二師塔は北の門側にあり。

二師は共に江師、松虫、鈴虫塔は堂前東の丘上にあり、境内幽寂なり。 法然院 安樂寺の北にあり 往古法然上人如法念佛修行の遺跡にして、中頃久しく廢絶せしを、延寶年間知恩院の高無上人、其徒弟忍微和尚に命じて再興せしむ。本堂に恵心僧都作阿彌陀佛、法然上人自作像等あり。方丈は桃山御殿の遺物を移し、前庭の錫杖水はいと清冽なり。地藏堂は東山麓の高處にあり、右龜にして立像五尺四寸の紫銅地藏尊は忍微和尚の作なり。經藏は門内西面

にあり、明本北藏大藏經を藏す、五年の歲月を経て校正せしものにて天下稀有の善本なり。阿育王塔は門前東山腹にあり、巨大の石塔巍然とし、四邊は青苔黴の如し。境内は鐘磬幽かに響き、無比の清淨界なり。

忠 秋

はげしくも風吹おろすしが谷吼るや松のひらきなるらん
如意岳谷町の東方にあり 一に大文字山といふ、東山の首峰にして、比叡山と相對し別に一山脈をなす。此山に著名なるは大文字とて、毎年八月十六日大字形の精靈送り火を焚く、大字は元弘法大師の筆なりしが、後世に至り其痕の埋もれしより、足利義政の時横川和尚に命じ元の如く作らしめたりと。光明赫々として京洛を照し頗る偉觀なり。山中に樞門瀧あり、其上方に談合谷あり、即ち往昔法勝寺の執行俊寛僧都の山莊ありし處にして、僧都が藤原成親、平康頼等と平家討滅の密議を凝せし舊跡なり。山上より近江國三井寺に出る路あり、之を如意越と云ひ行程二里なり。

鹿 加 谷

重 伴

むすひつゝ鹿か谷間の岩清水もれすは遠く流れらまし

大 文 字

雪 臣

ふみはみなやきし代もあるを東山名におほ文字は火もて造れり
銀閣寺上京區淨土寺町にあり 禪宗にして慈照寺と號し、夢窓國師の開山なり。舊は足利義政の山莊なりしが、薨去の後遺命により佛寺となす。銀閣は二層閣にして、上層を心空殿といひ、下層を潮音閣といふ、閣の壇上に運慶作の觀世音坐像を安んず。林泉は相阿彌の作にして、後方の山を月待山といふ。洗月泉あり、落照岡あり、銀沙灘あり、向月臺あり、橋には分界橋、迎仙橋、濯錦橋、臥雲橋等あり、石には天柱峰、回雁峰、北斗石、落星石等あり。一樹一石皆園藝の妙致を盡し、築庭の摸範を示さるるなし。又東求堂には義政の像を安置し、其東端に茶室あり、即ち抹茶室に於る四疊半の濫觴なり。實に東山の名刹にして、京洛に来る者は必らず一遊せざるべからず。常に寶物其他の邪觀を許さる

遊 銀 閣 寺

太 幸 春 堂

大平時節守成難。豈料兵才起宴安。兩腋風生銀閣上。憐君盡日倚欄干。

我庵は月まつ山の麓にてかたふく庭のかけをしを思ふ

白川

銀閣寺の北にある一村落にして、名所三白川の一なり。此地は京都より近江の滋賀坂本への往還にて、白川越、または志賀山越といふ。又此嶽山の無動寺へは此山はづれより北に入るなり、此遊り風光いとよく、古來和歌多し。

長 家

東路の人にこは、やしら河の關にもかくや花は匂ふと

俊 頼

白川の春の梢を見渡せば松こそ花の絶間なりけれ

百万遍

長徳山知恩寺と稱す、淨土宗鎮西派四個本山の一なり。開基は慈覺大師にして始めは天台宗なりしが、後法然上人これに住し遂に今の宗旨となりぬ。その後善阿上人の時、元弘元年國中疫癘大に起り死者其數を知らず、後醍醐天皇深く之を憂へ、善阿に勅して之を攘はしめしに、善阿七日を限り、専心念佛すること一百万遍に及び、惡病忽ち止む。天皇敬感殊に深く、當寺に百万遍の號を賜ふ。本堂には元祖開光大師の坐像を安んじ、本師堂には慈覺大師作の釋迦牟尼佛を安んず、其他講堂尙多し。境内は櫻樹數十株ありて、花時はまた美觀なり。

下鴨神社

官幣大社の一にして、祭神は火雷神、並に玉依姫を祀る。欽明天皇の御宇創祀なし、天武天皇の白鳳五年始て殿社造營あり、桓武天皇遷都以來歴代の天皇崇敬いと厚く屢々行幸の事あり。殿社、櫻門なる如る壯麗にして古代の式を存す。境内老松古杉陰鬱として幽邃清潔なり。社頭に糺森あり、靈泉涌出す、下流を御手洗川といふ、夏時納涼によし。毎年七月中旬より日を撰て三周の間御手洗會あり、即ち古代修禊せし遺風なり。

慈 圓

君を祈る心の宮を人とはいたすの宮とあけのたまかき

葵祭

は我國第一の高尙優美なる大祭にして、古來たゞ祭と稱するは葵祭に限るなりと。

毎年五月十五日勅使奉行以下數十人京都御所に參集し、夫より行列美々しく加茂上下鴨兩神社に參着していと壯嚴なる祭典を執行するにて、紅袍紫衣、白馬金鞍互ひに相輝映し、行列整々として長橋の上、神樹の陰など度る處、そらに繪巻物を見るの心地あらしむ、當日拜觀の群集は兩側に列立して殆んど塔の如し。

賀 茂 葵 祭

後 一 條 關 白

もろかつらまた二葉よりかけ初ていくよかへぬる加茂のみつかき

本涌寺 愛宕郡松崎村

法華宗にして、寺内に傳教大師作なる大黒天を祀る。松崎大黒天とて最も名高く、甲子の日には参詣の人群集す。境内垂糸櫻多く、花時は頗る美觀なり。

妙禪寺全

本涌寺より西方にて山下にあり、全しく法華宗にして開基は日像上人なり。毎年八月十五六の兩夜、一村の男女堂前に群集し、法華の題目に節づけて踊りをなす、之を松崎の題目踊といひ、本堂を踊堂と稱す。又毎年八月十六日夜、本寺の後山に於て妙法の二字を焚火に現はす、火光燦々たり。

詩仙堂 愛宕郡松崎村

石川丈山の隠栖せし山莊にして、表てに小有洞の額あり、中門の額は梅關、路次の額は回出窠とし、樓上の額は嘯月樓、下は蜂要とす。丈山嘗て漢晉唐宋の詩人三十六家を撰み狩野尚信をして其像を畫かしめ、自ら其詩を題し堂に掲ぐ、故に詩仙堂と名く。建築古雅にして風光幽邃寂寥なり。丈山墓は碩仙祠と稱し、詩仙堂の東南山上にあり、此處風光極てよし。

丈山

金福寺全

わたらしなせみの小川のおさくともおひの波みふかけみはつかし
佛日山と號す、貞觀年中慈覺大師の草創にして、年代の久しき殆んど荒廢に歸

せしを、貞享年中僧鐵舟之を再興せり、禪宗なり。庭園寂寥として古色掬すべく、後丘に芭蕉庵あり、蕉翁かつて之に閑栖せり。山上に與禪菴村、吳月溪、吳景文等の墓あり、俳人畫家の來遊する者多し。

芭蕉

うき我をさひしからせよかんこ鳥

曼珠院全

天台宗にして延暦年間傳教大師の開創なり。元は叡山西塔にあり東尾坊と稱せしが、天仁年間曼珠院と改め、中古より法親王の住持となりしが、明暦二年良尚法親王今の地に遷し、竹内御門跡と稱す。堂殿宏壯にして、襖の繪は狩野探幽の筆とし、庭園は小堀遠州の作にて雅趣饒し。境内は櫻楓樹多く辨天祠畔風光最も美なり。

林丘寺 愛宕郡修平村

開基は後水尾天皇の皇女光子内親王にして、一に音羽御所と稱し、禪宗臨濟派に屬す、本堂、開山堂、方丈等あり。又境内に楡垣の塔と稱する石造三層の塔あり、製作奇古なり。北に望風亭あり、眺望廣豁にして、花時は嵐山の白雲を望むべし、因て名を得るといふ。また本堂の東方に清泉あり、古來著名なり。

中院 通茂

山水のすむやいかなるみるからに心をあらふ瀧津岩なみ

赤山神社全上 修學院村の東方山下にあり、承和年間慈覺大師入唐歸朝の際、此神天台守護の誓約ありて來朝あり、大師の遺誠により其徒弟こゝに勧請す。境内廣嶺にして樹木森々とし、頗る清境なり。

比叡山 京都の東北に聳へ、山城、近江兩國に跨る高山にして、桓武天皇奠都の時、傳教太師に勅して伽藍を此山上に建てしめ帝都の鎮護となす、延暦寺即ち是にして、根本中堂、講堂、戒壇堂、相輪標等古昔の建築尙存せり。山中最高所を四明嶽といひ、海面を抜く二千七百余尺あり、絶頂の眺望は壯大云はん方なし。京都より此山に登るに三路あり、一は白川道、無動寺よりづよりし、一は雲母坂下に出づ此間一里、一は走出道、龍寺に出づ此間十八町。雲母坂よりするには赤山神社より直に全坂を上るべし。
山頂 山端は若狭街道なる八瀬大原の咽喉にあたり、山麓掩映して高野川は其傍らを環流す、酒樓あり平八といひ、十一屋といふ、共に遊客多し。
三宅八幡宮 祭神は應神天皇にして、推古天皇の朝小野毛人朝臣の當地に勧請せしなりと。小兒の病に祈願すれば靈驗赫灼たりと稱し、遠近より參詣する者極めて多し。

御蔭社 御蔭社は叡山の西麓にして高野川の東にあり、下鴨皇太神宮降臨の地なるを以てまた御生山といふ。毎年五月十二日下鴨神社にては明神御生の地なればとて、宮司小目代等一全御蔭神社に参向し、莊嚴なる祭典を執行するといふ。

雅 經

かけて祈るそのかみ山の山人と人もみあれのもろかつらせり

八瀬 叡山の西麓高野川の北にあり、八瀬川は中央を貫流す。在昔天武天皇大友皇子と戦ひしが、天皇軍敗れて落ち玉ふ時、流矢來つて天皇の背に中りしより、自后矢背と稱し、又八瀬と背す。此地に寇風呂あり、天武天皇之にて矢疵を療し玉ひしよにして、現今尙は其遺制を存し、風呂は窟状をなし、青松葉を以て之を焼き、諸病に効驗ありといふ。

大原 大原は八瀬の北にあり、若狭街道にして比叡山小野山の西麓八瀬川の上流に沿へる一村落なり。古より北浴の一名物とし番にも文にもものする大原女は此處より出づ。其風体は異様にして、紺衣に御所染の帯を纏ひ、白の脚絆を穿ち、頭と頭には縫模様の手拭をかぶる、頗る雅趣あり。

定 家

秋の日に都をいそぐ賤の女のかへる程なき大原の里

魚山諸院全よ 八潮の入口より凡そ一里にして魚山に至る。魚山は即ち大原の諸名區を包括せる總稱にして、三千院、來迎院、勝林院、西林院等皆有名の古刹とし、其他名勝尙ほ多し。今順次之を記せむに、呂川、律川は音無の瀧の下流にして南北に分流し、南を呂川と云ひ、北を律川といふ、兩岸は櫻楓栴を交へ、春秋の風光共によろし。魚山に入るには先づ呂川を渡るべし。

三千院は一名圓融院といふ、呂川の北にあり。開基は傳教大師にして、貞觀二年承雲和尚清和天皇の勅を奉じて規模を大にし、自后天台座主の住院となりしにて殿舎雅潔なり。極樂院園寶は三千院境内の佛堂にして、花山天皇の勅を奉じ恵心僧都の建立せしものとす、其建築は古式破風造にして、壁畫は恵心の筆なり。本尊丈六の阿彌陀佛、並に脇士觀音、勢至全じく恵心の作にして世に有名なり。

呂川に沿て上る、石橋あり羅漢橋といふ、昔此橋上に十六羅漢現はれしと云ふ、此邊楓樹尤も多し。淨蓮華院趾は三千院の東二丁許にあり、即ち融通念佛の開祖聖應大師の住院なりしが、明治六年に焼失してたゞ鐘樓をあますのみ。

來迎院は淨蓮華院の東半町許にあり、本尊藥師佛は行基の作、左釋迦、右阿彌陀佛は恵心の作なり。本寺は辨明普律の本山にして、堂宇の規模悉く支那天台山に則たり、建築見るべし堂傍に獅子石あり、良忍和尚文珠の法を修せし時、此石獅子と化し吼へたりといふ。

音無の瀧は來迎院の東四丁許にあり、高さ凡そ二丈にして、一條の瀑布岩壁を傳ひて靜かに流れ降る、因て音無と名く。四邊は樹木鬱蒼として夏日避暑によし。西行の歌に「小野山のうへより落る瀧の名の音なしにのみぬるゝ種かな」とあり。

後鳥羽順徳二天皇陵は、三千院實光坊の北東にあり、全一區域にして石柵を繞らす、淨潔なり。勝林院は其北にあり、長和年間寂源和尚の創立する處にして、本尊阿彌陀如來は世に證據の彌陀と稱す。昔し法然上人山門の座主顯眞法印及び諸宗の碩徳と問答せしが、法然の議論に對しては本尊光明を放ちしといふ、世に之を大原門答と稱す。律川の畔に熊谷鉞捨の藪といふあり、こは法然が宗論の時、熊谷直實法衣の下に鉞を隠し不慮に備へしを、師上人の制止によりこゝに投捨しなりと。

西林院は勝林院の東南にあり、大原迎講式の本所なり。前に極樂橋あり、造惡不善の輩は此橋を渡るを得ずといふ。三千院に實物展覧あり

寂光院生村にあり

魚山より四十町許を隔つ、弘法大師の開基にして、本尊地藏菩薩は聖徳太子の作なり。文治の頃建禮門院ここに閑居し玉ひしより、今に至り尼寺となる。寺内に建禮門院の木像、及び阿波内侍張子の像あり。院の後なる翠黛山といへるに建禮門院の御陵あり、また臚の清水といふは院の東にあり、古來いと名高し。

建禮門院

思ひきや深山の奥にすまゐりて雲井の月をよそに見んとは

東南部上

蹴上南都寺の東

東海道大津より京都に至る入口なり、之より粟田口、白川橋を経て三條通に接す。蹴上南都寺あり、疏水大津行船乗場あり、八錢一船買切金等四十錢とす乗合船また興味多し。

疏水運河

疏水は近江國琵琶湖の西岸大津三保崎より、長等、日岡等の諸山を開鑿し、其流水を導びきて京都に送し、蹴上舟溜所にて幹支の二線に分れ、幹線は急勾配を以て大鐵管に流注し、水利工場にて諸種工業の原動力を起し、終て鴨川運河に流注す。支線は蹴上舟溜所より再び陸道に入り、南禪寺の背後より如意山麓を繞り、高野川、鴨川の河底を潜流し小川頭に至る。また鴨川運河は鴨川の東岸を南流し、伏見墨染インクラインを過ぎ、遂に宇治川に合流す。

す。總延長一万六千四百二十一間、町四十二間明治十八年八月工を起し、全二十七年九月に至り

落成す、實に九年の歳月と、百三十九万圓の資財を費やし始めて成りたる大工事にして、其水力を利用して電氣鐵道、電氣燈、織物、紡績、繅絲、其他百般工業の原動力を生じ、併せて運搬、灌漑、防火、除疫等諸般の利益を起せしと枚擧に暇あらず。此大工事の企畫成功者は當時の京都府知事北垣國道氏にして、其銅像は疏水中島の畔に屹立し、銅造鑄造者は鑄金家平野英青堂とし、實に京都に於る銅像の嚆矢なり。

粟田口

蹴上より白川橋までをいふ。此邊は京都有名な粟田焼の産出地にして、左右に陶器師軒を連ね、各種の器皿を製し、また年々海外に輸出するもの夥多なり。錦光山宗兵衛、伊藤陶山等最も名工の譽れ高し。

粟田神社上京區粟田口

元は感神院新宮と稱し、祭神は建速素佐雄尊、大己貴命にして、外に十座の神を配祀す。例祭は九月十五日にして、神輿渡御の外鉾十二本あり、中に阿古太鉾と稱するは古來よりの神寶なりといふ。境内は高爽にして眺望頗るよし。

植髮堂粟田口町

青蓮院に屬す、本尊阿彌陀佛の右に親鸞上人植髮の立像あり、長三尺にして、

小葵の直衣に薄紅梅の衣、紫の指貫を着す。こは上人九歳にして慈鎮和尚につき剃髮の時、和尚その容貌を摸しおき、剃落せし髮を像の頭に植して之を植髮の尊影と號し、眞宗門徒の渴仰する處とす。

青蓮院植髮堂の天台座主法親王住持の舊地にして、世に青蓮院宮といふ。開祖は傳教大師にして、其後尊圓法親王之に住せられ、大に書道に精し、世人粟田様、または御家流と稱す。宸殿は莊嚴にして、襖核戸の繪は皆名家の筆とし、熾盛光堂には本堂熾盛光佛を安んず。玄關の傍に親鸞上人車止の松、並に全胸繫の櫻あり、庭園は相阿彌の作にて有名なり。

知恩院南にあり華頂山大谷寺と稱し、東山第一の巨刹にして、淨土宗の總本山なり。山門國寶に掲ぐる華頂山の金字額は靈元天皇の宸筆にして、閣上に寶冠釋迦佛、及び十六羅漢等を安置す、閣上の眺望頗るよし。拜觀を本堂宏壯にして、東椽端の鴨居に傘あり、知恩院の傘とて有名なり。こは當山靈上人、山内の白狐に佛號を著し廻廊三百間は、窓張にして、左甚五郎の作なりといふ。方丈の建築は善美を盡し、襖の繪は狩野野家の名筆とす。全しく寶物と共、鐘樓は東南の山上にあり、高さ一丈八寸、徑九尺、厚さ九寸五分、重量は十餘万斤に及び、宇内有數の巨鐘にして、四月御忌の際之を敲く、境内は櫻楓樹多く、また有名の淺黃櫻あり。

東山春音即事

頼山陽

寒盡香堂春未生。冷雲殘雪護華鯨。一聲撞破千家夢。勾引綺羅爭出城。

景樹

おほ空の色の淺黄にさく花を篋の袖のうらかとぞみし

圓山公園知恩院の南にあり圓山公園は舊比叡山に屬せる安養寺の境域にして、現今は京都唯一の公園となり、綠樹芳艸四時の美をそなへ、花紅楓さては雪景など一年の眺め盡るはなし。殊に有名なるは中央小丘の上にある垂絲櫻にして、毎年四月の初め花を開けば万條の垂絲は恰ながら瑤綺の空にかゝる如く、其美觀言語に絶す。されば夜に入れば其下に篝火を燒き、四邊の茶店酒舖は紅燈を幾千となく点しつらね、其下には遊人群集して醉歌觀賞殆んど狂する如し、之を祇園の夜櫻といふ。此他旅館、酒樓、寫眞店、楊弓店、其他の遊技場多く、其中旅館酒樓の重なるものは也阿彌西洋料理及左阿彌日本料理平野屋日本料理並に祇園南門外の中村樓和洋料理並に旅館を兼ね等とし又公園の高處に人造鑛泉あり、それが爲め設けたる席食數樓あり、各樓上より眺むれば京都は一眸の下に萃まり風光絶佳なり。

◎東南部

老か身も花にうかるたのしさを思へば御代のめぐみなりけり

長樂寺山上公園の 傳教大師の開基にして、唐土の長樂精舎に似たるを以てかく名く。その後年を経て頽廢せしを、國阿上人之中興せり。本尊は千手八臂十一面觀世音師の作にして、寶什に安徳天皇御衣の幅あり。御母建禮門院西園より御歸洛の後、當寺に於て御浴飾あり、其時御布施として天皇の御衣を賜ひしなりといふ。當寺の北なる山上に頼山陽、及び春琴居士の墓あり。

將軍塚長樂寺の後 桓武天皇都を平安城に定め玉ひし時、八尺の土偶を作り、甲冑を着せ、弓箭を持たせ、西向にして此山上に埋め、永く京都の守護神となし玉ふ。されば天下に災害あらんとする時は、此塚必らず鳴動すと、山上の眺望極めて廣濶なり。

東大谷山上公園の 眞宗大谷派本願寺の廟所にして、同宗門徒の遺骨を納むる處なり。堂宇壯麗にして、門前に松林あり、翠嶽瀾らんとす。親鸞上人の廟所は後の山腹にあり、境内清淨にしてまた佳境なり。

雙林寺東大谷の西 傳教大師の開基にして其初め天台宗なりしが、後國阿上人之に住して時宗

となれり。本符薬師佛は傳教大師の作なり。本堂の傍に平康頼法名を中央に、西行、阿の三塔相並ぶ。西行庵は當時の傍にあり、即ち西行、頼阿二法師の住せし蔡華園院の舊地にして、壇上に西行、頼阿二法師の像共にを安置す、また庭内に西行櫻あり。芭蕉堂は西行庵の西に隣る、蕉風宗匠の住する處にして、五老并許六の刻せし芭蕉翁の像あり。大雅堂は芭蕉堂の北にあり、齋家池大雅の没後其門人相謀り、靈山にありし木下長嘯子が歌仙堂の遺材を移しこゝに建築せしにて、堂後に其遺墨を埋めたる塚等あり。

蔡華園院にて

西行

頼阿

ねかはくは花のもとにて春しなんその二月のもち月の比

あとしめて見ぬ世の春を忍ぶかなそのきさらぎの花の下陰

八坂神社山上公園の 祭神は素盞鳴尊にして、稻田姫、八王子を合祀せり。殿舎壯麗にして、拜殿、神樂殿、給馬堂、攝社、末社等いと多し。南門を南大門といふ、其南に石鳥居ありて八坂神社の額を掲ぐ。西門を西大門といふ、左右に隨身を安んず。石階を下れば即ち祇園町なり。

◎東南部

境内は廣大にして、神威の赫灼たるを、東山勝區の中心なるを以て 参詣の士女日夜織るが如し。

忠 起

昔よりみいつかしこみ諸人のつとふ八坂の神の園かな

祐 順

天の下照すかすみか須佐のをの神のみまへは千代もくもらじ

祇園會

は八坂神社の私祭にして、古來京都祭禮中第一華麗なるものとし、毎年七月十七日と、同二十四日の兩日に執行す。十七日に神輿本社を出御、四條御旅町の御旅所に神幸あり。此處に七日間駐籠二十四日に至り再び還幸せらる。兩日とも市内各町より錦織珠玉を以て美麗に粧飾せる多くの山鉦を曳出し、山鉦の数は十七、また神輿の供奉には古代武者の粧ひせる行列あり、氏子の町々は繰幕を張り、種々の屏風を陳列し、繁華優美の觀人目を驚ろかす。因に記す毎年十二月三十一日は削掛神事、正當は元日湯殿に又はおけら詣と稱し、参詣の人群集し、火蠅に神社内篝火の火を移し、歸つて元日雑煮をたくの料となす、終夜いと賑はし。

其 角

鉦に乗る人のきはひも都哉

祇園町

八坂神社石壇より大和大路の東にいたり更に近傍敷いたる地なり。京都第一の遊廓にして、兩側は青樓娼家軒を並べ、美女の往来繁く、終夜の聲絶ゆるとなし。其中古來有名なるを「力亭」又「万草」と稱し、忠臣蔵の演劇にて都鄙の人々知らざるものなし。一方亭の南北見小路に歌舞練場あり、毎年四月上旬より三周、若くは四周間有名の都踊を興行す。舞臺の構造裝飾善美を盡し、地方十一人。囃子十人、踊子三十二人、いづれも華麗なる揃への衣装を着し、年々新作の歌曲に合せ、地方の「都踊りハ」の聲につれ、「ヨーイヤサ」との如き聲音にて兩花道より徐々と練出し、金鉦華簪は燦爛たる電燈に映じ、花顏柳腰の美女入乱れて立舞ふさま、嬌艶きといはん方なし、何人も必らず一見せざるべからず。

四條橋

石柱にして鐵欄を設く、長さ五十四間、幅四間あり。橋東は祇園新地に連なり、橋西は先斗町に接し、四條通に通す。京都繁華の中心にして、橋上人馬の往来織るが如し。毎年七月に至れば、橋下の川原一面に床を架し、涼棚を構へ、料理店、茶菓店、氷店、観物興行、借馬等あらずといふとなく、又兩岸の青樓、旅亭、席貸等は水に臨みて涼臺を設け、燈火は千点万点、人聲終音いと賑はし、之を四條の納涼と稱し古來有名なり。

川風や薄かき着たる夕すいみ

芭蕉
蕪村

丈山の口が過たりゆふすいみ

蛭子社大和郡大坂四條南にあり

祭神蛭子命の像は、昔し建仁寺の開山榮西禪師入宋の時隨身し、此像に祈りて途上風波の難を逃れしを以て、歸朝後この處に勧請せしといふ。毎年一月十日庚子十月二十日庚子には都人群集して雜踏を極む。

建仁寺全上

禪宗臨濟派五山の一にして、建仁年中源頼家の建立、榮西禪師の開基なり。佛殿には本尊釋迦牟尼佛を安んず。方丈は其北にあり、堂宇壯大にして境内廣闊なり。東方にある鐘樓の鐘は無銘にして獨鈷の形を彫る、傳へ云ふ往時河原左大臣が其創建せし佛閣に懸しを後此處に移せしにて、昔は毎夜陀羅尼經を誦しつゝ此鐘を撞しより、陀羅尼鐘といふ。中門圓實は南向世に矢立門といふ、舊は門脇宰相平教盛の第弟にて、扉に軍箭の痕あるよりかく名く。全門の傍に摩利支天あり、清拙和尚宋國より將來の土を以て造りしにて、靈驗著るしく參詣の人絶へず五月一日より全月二十一日まで殿舎寶物無難無礙あり

建仁寺

藤原光興

招提合在三白雲隈。何向三花街柳陌開。九乳似憐人醉夢。孟筵二百八聲來。

安井神社廣道通松原上三丁 此地は古來藤花の名處にして、崇徳天皇離宮を造り、寵姫阿波内侍を住せしめ玉ひしが、保元の乱天皇讚岐に遷幸あり、遂に全國行宮に崩御ありしにぞ、此に本社を建立して其靈を鎮す。祭神は中央崇徳天皇、左金足羅、右源三位頼政とす。境内靜寂なり。

天曆御製

まどめして見れともあかぬ藤浪のたまく惜しきけふにもあるかな

高臺寺下河原町双林寺の南にあり

鷲峰山と號す、豊太閤の夫人北政所高臺院の建立にして、堂宇輪奐たりしが、數度の回祿に罹りて大半烏有となる、されど開山堂、並に太閤及び夫人の靈舎は尙存じ、壯麗云はん方なし。靈舎に太閤及び夫人の木像あり。また後山に時雨亭、傘亭といへる有名の茶亭あり、境内萩多く、三秋の候は遊人極めて多し。四月五日より全月二十

鳥丸光廣

東南部

庭の面をのれとそよ萩原は秋風よりや生始げん

靈山高峯寺東山 舊と傳教大師の開基に於ける正法寺の境域なりしが、全寺は荒廢して僅に一宇を餘し、其大半は招魂場となり、維新前後愛國殉難の士、及び勤王戦死者の靈を祭る。全處に木戸孝允、並に藤本鐵石、梁川星巖等の墓あり、眺望は廣濶にして頗るよし。靈山を下り下河原通に出で、南に往けば庚申堂、八坂塔なり。

庚申堂下河原通 延命院と稱し、本尊青面金剛を安す。大阪天王寺、東京淺草寺の庚申と共に日本三庚申と稱す。

八坂塔庚申堂の東 法觀寺と稱し、聖德太子の創立にして日本寶塔の嚆矢なり。昔は堂宇伽藍頗る莊嚴なりしが、現今は荒廢して僅かに五重塔、國寶のみ屹然として存す。○此坂路を上れば清水町に出で、左折清水寺に至るべし。

清水寺清水町一丁 大同二年將軍坂上田村麻呂の創立にして、大和の僧延鎮靈夢に感し、異人行叙より授かりし靈木を以て刻める十一面千手千眼觀音大士の像を安んず。堂宇は檜皮葺殿舎造にして懸崖により建築し、前に舞榭を架す、世に之を清水の舞臺といふ。其他奥院、地主權現、三重塔、田村堂、朝倉堂等の堂宇あり。音羽瀧は奥院の下にあり、三條に分れ、水質清冽

にして世に名高し。境内廣濶にして、舞臺より眺むれば山城の西南一帯、淀川の長流より八幡山崎、さては河内、攝津の山々に至るまで一眸の中に収むべし。近年寺の下に新高雄といふを開き、楓樹の眺め得も云はれず。また寺の北にも櫻樹萩を増植し、春秋の風光共に畫の如し。四月一日より三十日に至るまで寶物展覽あり。

景 樹

いにしへの花の影さへみゆる哉車やどりの春のよの月

宗 祇

水かほり花いささよき深山かな

清閑寺清水東四丁 延暦二十一年紹繼法師の開基にして、中興は佐伯公行の時の人なり。初め天台宗なりしが、後ち眞言宗となり、本尊は千手觀音立像三尺許像になり。寺内に六條高倉兩天皇の陵、並に高倉天皇の寵姫小督局の墓あり。また本堂の傍なる郭公亭といへるは、西郷隆盛月照上人と國事を密議せし處とす。境内靜寂にして清閑の名空しからず、新緑の候杜鵑を聞くに最もよし。

鳥部山北は清水坂南は小松谷を隔る また鳥部野ともいふ、古來有名の墓地にして、有名の人の墳墓多く。淨

瑠璃、演劇等にて人の知る處なり。清水寺の下より鳥部山を過れば西大谷に出づ。

西大谷五條橋邊東 泉宗本派本願寺の廟所にして、親鸞上人の本願なり。本堂には阿彌陀佛を安んず。廟所は本堂の上のみにあり、左右に石垣を繞らし、顯如上人以來代々の墳墓あり、門前の池を皎月池といひ、中央に架するを圓通橋といふ、世に眼鑄橋と稱す。池には蓮花多く、夏秋の交には紅白乱れ咲て清香飄郁たり。其他櫻柳も多く、四時の風光佳絶にして洛東の名境なり。

種 案

すみなれし月のかたみかあさなく咲てすしき池のはちす葉

五條坂四町

五條坂は清水坂清水寺門前町と共に陶器に名高き地にして、其兩側は大平陶磁器を鑄ぐ家とす、されど清水坂は錦籠物、若くは各種の土偶など參詣人の土産となるもの多く、五條坂は名工の淵藪にして、いづれも高雅貴重陶磁器を製し、其名を海の内外に轟ろかす。今其重なる人々を擧れば、清風興平、清水六兵衛、眞清水藏六、高橋道八、三浦竹泉、治村松雨等とす。

若宮八幡宮五條橋東五丁目

本社は後冷泉天皇の勅願により源頼義の勸請なりしが、現今の社殿

は承應三年後水尾天皇の勅命により造營ありしものなりといふ。

小松谷正林寺馬場町東南小松谷にあり

淨土宗にして惠空上人の開基なり。此地は往古月輪殿下實公の松殿と稱せし第趾にして、當時の本堂は其舊殿を喜捨せしなりと。又法然上人遺蹟の一にして、上人流罪に處せられし前、この月輪殿下の許にありしと、堂殿輪奐たり。本寺の西に小松内府平重盛が建し燈籠堂の遺趾あり、今も此邊を小松谷と稱す。

妙法院下京區妙法院前町にあり

天台宗延曆寺の別院にして天台座主三院の一とし、本堂は寶篋造にして本尊は普賢菩薩なり。近時有名なりし暹羅國王より日本佛徒に分贈ありし釋迦牟尼佛の佛骨は三年間此處に奉安せしなり。書院は幽庵にして種子の繪は名家の筆とし、林泉は小堀遠州の作なり。又北部に積翠園といふ名園あり。開張會開期中百二十日

新日吉神社妙法院の東南阿彌陀が峯のより口にあり

永曆年中後白河上皇江州日吉の神を當地に勧請し玉ひ、社地は幾轉して明治三十年今の處に鎮座す。樓門、殿堂華麗にして拜殿、神樂殿、繪馬舎等備はる、社格は府社なり。

豊國廟新日吉神社の東南阿彌陀が峯にあり

豊太閤の廟所なり、太閤慶長三年八月十八日伏見城に薨じ阿彌陀が峯に葬ひりしが、翌年朝紅は正一位を贈り豊國大明神の諡號を賜はりしかば、新に社殿を造營し

宏壯華麗を極めしが、徳川氏の世に至り破壊せられ、自后二百余年間荒廢に委せしを、有志者之を慨し、相謀て廟築を修築するとし、明治三十年四月工を起し、翌三十一年三月に至り竣工せり。廟築は阿彌陀峯上にあり、高さ三十尺なる五輪の大塔屹然として聳え、前に一對の花瓶、石造階一基の大香爐全あり、周圍に石欄を繞らし其勢儼然たり。此處は地勢高爽にして眺望絶佳なり、別に拜殿、唐門等あり。

智積院妙法蓮華の 眞言新義の總本寺にして、本堂には大聖不動明王師作と安んず。客殿書院の襖子は共に長谷川等伯の筆にして名畫なり。庭園またよし。

耳塚大佛正面 豊太閤朝鮮を征せし時、諸將敵の首を獲ること幾万といふ數を知らず、依て其耳鼻をそぎて日本に送りしをここに埋みしなり、往時朝鮮人來朝してここに至り皆々哭せしといふ。

大佛殿伏見街道正面 方廣寺と號す、豊太閤の建立にして堂宇佛像共に壯大なりしが、慶長元年地震にて悉く崩壊し、其後秀頼再建せしも寛文二年また地震の爲め崩壊し、寛政十年再び雷火の爲に焼失せり。現今は只大佛の半像ありて舊時の形を遺存するのみ。鐘樓は大鐘あり秀頼の鑄造する處なるが、銘文より物議を生じ、遂に豊臣家滅亡の因となりしは世の知る處なり。境

内萩多し。寶物展

豊國神社大佛殿の 豊太閤の靈を祭り、明治十年別格官幣社に列せらる。表門圍裏は桃山城より移せしにて、社前の鍬燈籠は名工與三郎の鑄造なり、境内萩多し。

京都帝室博物館豐國神社の 明治二十五年六月起工し、全二十八年十月に至り落成す。總面積一万余坪にして、間口四十二間、奥行二十五間余あり。女關正面の上には帝國京都博物館三の七大字を刻し、其上に技藝天女と、毘首彌摩の兩像を刻す。本館は十七室に分ち、繪畫、彫刻、武器、圖書等數十室に區別す。庭園も淨潔に、建築は輪奐とし、實に帝室の博物館たるに耻ずといふべし。

三十三間堂佛物館の南一 蓮華王院といふ、後白河法皇の建立なりしが、建長元年三月炎上し、全三年八月再建上棟式あり、文永三年に至り落成供養式を行はる。現在の本堂は建長三年の造營にして、今を距る六百五十年許とし、落中古建築の優等なるものとす。其構造は東南南北の長棟にして、凡そ六十六間あり、二間を隔て柱を建るが故に三十三間堂と稱す。本堂は千手觀音の坐像にして、脇立二十八部衆の外千手觀音一千体あり。大佛師蓮華王院、瓦屋間柱にして内部は繪くに五彩を以てせしも、今は概ね剥落せり。古來本堂の裏にて大矢數といふ

射式を行ふとあり、貞享年中紀州の和佐壘八郎通矢八千百三十三なるを第一となす。又堂前に燕子花あり、初夏の眺望甚だ美なり。

泉涌寺 伏見街道一の 開基は弘法大師にして初め眞言宗なりしが、齊衡三年左大臣緒嗣公再建して天台となり、其後俊徳法師中興してより天台、眞言、禪、律の四宗を兼修す。麓に清泉涌出するを以て泉涌寺と稱す。當寺は四條天皇以後歷朝の御廟所にて、後山には歷代の天皇、皇后及び皇族の御陵墓多く安んず。又當時の佛牙の舍利は世に有名にして、二重の金塔に藏め、佛殿の後なる舍利殿に安置せり。境内の風景頗る幽靜にして、老松古杉鬱蒼とし、殿宇樓閣其間に掩映せり。

泉涌寺

伊藤長胤

開説靈泉涌此中。更沿河徑到琳宮。五陵七廟栖眞處。遺澤尙思松柏風。
東福寺 伏見街道二の 濟家禪宗にして、開山は善一國師とす。本堂法堂とも前年焼失せしが、山門、圓寶傳衣閣、其他古建築多く、殊に有名なる通天橋は深溪の上に架し、四邊皆楓樹にして、霜葉の候橋上より下瞰すれば、兩崖錦繡をかけて清溪に映照し、絶景いふべからず。當寺僧什

極て多く、其中尤も世に名あるは兆殿司の斎ける涅槃像の大幅横三丈九尺と、五百羅漢の像にして涅槃像は毎年三月十五日之を佛殿に掛て參詣人に雜覽せしむ。四月十日より五月二十星ならで紅葉のはしの往來かな
脚もとに雨ふきおこる紅葉かな
信 徳
貞 室

東南部下

稻荷神社 社址伊賀伏見町 東福寺より南に十余町を距つ、官幣大社にして祭神は倉稻魂神、素盞鳴尊、大市比賣神、大己貴尊、外四大神なり。和銅四年二月午日、倉稻魂神始て本社の後山なる三が峰に垂跡し玉ひ、延喜八年藤原時平社殿を修造し、其後永享十年三が峰より今の地に遷坐せりといふ。殿舎樓門頗る壯麗にして、談國より參詣の人常に絶へず。殊に毎年二月初午の日は群集雜遝を極む。又稻荷祭は毎年五月七日に執行し、神輿五基伏見街道を北に過ぎ、九條村御旅所に神幸あり、儀式殿肅にして行装甚だ華美なり。

神 詠

われ頼む人のねかひをてらすとて浮世にのこるみつの燈
石峰寺 稻荷神社の南二 百丈山と號す、禪宗黃蘗派にして開基は千景和尚なり。表門は後山に上

東南部下

る小門と共に漢門に擬し形状奇巧にして、本堂にも掛聯多し。後山に齋家伊藤若冲が自ら書き
て石に彫らしめし五百羅漢あり、山下には若冲墓、全筆塚、並に門前南方に茶碗子と名くる
名水あり。

寶塔寺石塔寺の
境内あり 日像上人の開基にして法華宗に属す。背後の山に七面社、及び七面の瀧等あ
り、境内頗る幽閑なり。

瑞光寺寶塔寺の南
數町あり 當寺は舊極樂寺なる樂師堂の遺跡なりしが、元政上人之を中興して今の名に
改む、一に元政庵と稱す。本尊は二尺許なる釋迦佛の坐像なるが、胎中の五藏六腑まで彫刻
し、刀法極めて精緻なり。元政上人の墓は方丈の西にあり、碑碣なし、只竹三竿を植るのみ。

元政舊庵にてこの沙門日蓮宗なれど常の佛の數もならべす

たゞ釋迦のみたふとく見へたもふを

鬼 貫

宿のない釋迦に深しや秋の色

藤森神社伏見町子島前あり
伏見稻荷を隔る十餘町 祭神は舍人親王、早良親王、及び伊豫親王の三座にして府社と
す。例祭は六月五日にして、母衣甲冑を着け、旗幟を懸へせる騎馬武者の行列頗る美麗なり。

吾國端午の節句に武者人形を飾り、菖蒲太刀を帶るは當社祭禮の行装をまねびしより起りしと。
古昔は藤花多かりしも、今は其名残を留むるのみ。

墨染寺藤の森の
南にあり 法華宗にして日秀上人の再興なり。庭内に墨染櫻あり、此地は寛平の頃藤原
基經薙去の時、上野岑雄が之を悼み「深草の野邊の櫻し心あらば今年ばかりは墨染に咲け」と
詠せしに、一株の櫻花墨染の色に咲しとあるに因み、後世屢々嗣植せしなりといふ。

欣淨寺慶應寺の南
境内あり 禪宗道元和尚の開基なりしが、現今は淨土宗となる。相傳ふ、古昔深草少將
の宅地ありし地にして、此處より小町の許に通ひしなりと。境内に少將井、並に少將塚あり。

伏見町和伊部の東南部にあり
條大路より一里十一町 古は蒲條たる村落なりしが、文祿年中豊太閤此地に城を築きし
より飛宮宮盛となり、徳川氏の世に及び伏見奉行を置き、現今尚ほ山城第二の都會なり。東西
十四五町、南北一里に亘り、市街二百六十有餘あり。官衙、郵便電信局、銀行、諸會社等備は
り、又奈良鐵道の停車場あり、電氣鐵道の京都に聯絡するあり、淀川汽船會社あり、交通頻繁、
運輸至便の地たり。

御香宮伏見町字御
香宮門あり 古は御諸神社と稱す。祭神は神功皇后、仲哀天皇、應神天皇の三座にし
て府社なり。境内に正殿、拜殿、神樂所、及び幾字の攝社あり。貞觀年間社傍に香水湧出せし

より清和天皇御香宮の勅號を賜はりしといふ。境内神殿て宮殿壯嚴なり。

桃山 伏見町の東にあり。古昔此山に桃花多かりしより桃山と名く。文祿年間豊太閤ここに城を築きて金殿玉樓、高城深池、之を繞らすに諸大名の邸宅を以てせしが、慶長年間關原戰後徳川氏は之を毀ち、自后山林と畝地となりぬ。山上に金城閣あり、舊西の丸の上にて眺望廣闊なり。また北方に梅溪あり、二月の候は疎影横斜、暗香浮動、滿山恰ながら雪の如く頗る清觀なり。また桃花も多し。

桃山城墟

伊藤東涯

叱陀時移霸業空。百年葵麥動春風。金湯變作桃花塢。遠近霞蒸千里紅。

はせを

我衣にふしみの桃の雫せよ

桓武天皇陵 桃山に宇三軒屋と稱し、人家數軒並べる處あり、これより西一町余の處にあり、四周石壁を築きて兆城頗る廣く、松樹蒼鬱たり。前年修繕を加へ頗る壯嚴を加へぬ。觀月橋 伏見町の東、豊後橋と稱す。宇治川に跨がり長さ百四間半、幅四間半あり。古來觀月の名所にして、月夜橋上の眺望殊に佳絶なり。橋北の東岸に指月の森あり、西本願寺の別墅なる三

夜莊あり。觀月橋を渡り右すれば巨掠湖に至り、左すれば宇治に至る、宇治へは、また船便あり。

巨掠湖 觀月橋の東、宇治川の水注て湖をなす、周囲四里余あり。水面渺茫として水禽昔間に遊泳し、遊獵者の好んで趣く處とす。以前は蓮花多く頗る美觀なりしが、數年前の洪水にて蓮根流失し、未だ舊に復せざるは惜むべし。

宇治 北にあり。京都を距ると四里十一町、奈良鐵道の停車場あり。前面は宇治川の清流に臨み、朝日山の晴翠に對し、四時の風光佳ならざるなく、殊に新緑の候、螢火の節には來遊するもの多し。又此邊は茶の名所にして、五月の候村女の歌を誦ひながら茶を摘るさま頗る雅趣あり。宇治川の兩岸に料理屋あり、北にあるを萬屋と稱すとし、南にあるを菊屋と稱す。石樓宇治といふ、樓上の眺望いづれも絶佳なり。

宇治山の木の芽はる雨いそかれて雲の晴間もまたぬころかな
直好

木かくれて茶摘もさくや子規
はせを

宇治川 は源を近江國琵琶湖に發し、上流を勢田川となす。石山の麓を通る頃より、岸壁り流れ急にして千曲万折奇勝多く。宇治橋の上流に至り山開け流漫く渺々たる大川となり、伏見を過て淀川に合す。宇治橋は大化二年僧道登、道昭の勅を奉じて始て造りしものにて、自后幾度か造營す。橋の西詰に橋姫祠あり、初めは橋の三の間に奉祠せしと。今も尚ほ三の間は悪縁を斷つに靈驗ありとて、遠近より參詣の人多し。又元暦の役槻原景季、佐々木高綱が二騎並んで渡りたる橋、小島崎は、宇治橋北二丁の邊なりといふ。

定 類

朝明宇治の川霧絶く、に顯れわたるせりのあしる木
 平等院宇治橋の南 當寺は其初め河原左大臣の別業なりしが、薨去の後陽成、宇多、朱雀三帝の離宮となり、長徳年間藤原道長關白の山莊となりしが、其子頼通の時之を寺院となし平等院と稱せり。本堂は有名なる鳳凰堂國寶にして、全体の結構を鳳凰に象ざり、更に屋上に金銅を以て造れる雌雄の鳳凰を置き、天風一たび吹けば泛として舞ふ。堂内は五彩を以て飾り、佛壇は寶玉螺鈿を鏤ばめ、莊麗なる壁畫あり。本尊は丈六阿彌陀佛の作にして、周圍の小像五十余体と共に非常の名作とす。本堂は内務省の封鎖となり、現りに拜觀を許さず。 堂前の池を阿字池と稱し、岸邊には山吹を栽へ、

また蓮花多し。釣殿國寶は鳳凰堂の北にあり、之また八百余年の古建築なり。扇の芝は釣殿の傍にあり、源三位頼政が自殺の處なりといふ。寶物屋
縣神社宇治町宇上 平等院の後門の前、縣の森にあり。祭神は木葉開耶姫にして、社宇狹小なれども賽人常に絶へず。殊に六月五日の例祭には、京阪其他より參詣の人群集し、夜間の祭禮とて喧敷太甚し。

宇治神社宇治郷宇山 離宮八幡宮と稱し、上下二社あり。下宮は宇治川の畔にあり、菟道稚郎子尊を祀る。上宮國寶は下宮の奥桐原山の麓にあり、應神天皇、仁徳天皇、稚郎子尊三座を祀る。境内幽邃にして櫻樹多し。寶物屋
興聖寺宇治神社の南にあり 禪宗曹洞派にて道元禪師の開基なり。石門は宇治川に臨み之を設く。門内を琴坂といふ、左右に山吹を栽へ、西崖を紅葉山といひ楓樹に富む。本尊は釋迦佛にして、開山堂、其他堂宇多く、境内清幽にして躑躅花また多し。後山を朝日山といひ、此邊有名の陶器朝日焼を出す、雅致饒し。

三室戸寺宇治三室戸山 天台宗にして行表和尚の開基、智澄大師の再興なり。本尊は八寸二分の二臂千手觀世音にして、菟道山の奥、志津川の水源岩淵より出現せし靈像とし、本堂の外不

動堂、鎮守祠等あり。境内櫻樹多く、閑雅清浄の一境なり。山下は左傍に浮舟塚あり、源氏物語宇治十帖中の名所なり。

黄蘗山万福寺宇治郡宇治町五箇 禪宗黄蘗派の總本山にして、隠元和尚の開基なり。樓門を入れば山門、天王殿、大雄寶殿、法堂、祖師殿、選佛場、開山堂、舍利殿、其他の堂宇總て支那風にて、聯額の文字は隠元、木庵、即非等諸名僧の筆になり、宏壯雄麗頗る偉觀なり。俳句に「山門を出れば日本の茶摘歌」といへるは、境内に在ては全然支那に遊ぶが如きの意を咏じたるなりといふ。寶物屋あり。

日野薬師宇治郡日野町 法界寺といふ、日野薬業の建立にして、本堂圓寶佛壇の内陣、天井並に柱楹の壁畫は有名なり。本尊薬師佛は傳教大師の作金剛七寸にして、婦人の乳汁に乏しき者此薬師に祈願すれば必ず靈驗ありといふ、其他有名の古佛像多し。此地は眞宗々祖親鸞上人が誕生の地にして、境内に本願寺別堂あり。また當寺の東北五丁許を隔てし平重衡墓あり。重衡木津川にて誅せられ、首を此處に埋むといふ。

醍醐寺醍醐寺 深雪山と號す、醍醐天皇の勅願により創建せし寺にて、開祖は理源大師なり。山上下伽藍多く、山上にあるを上醍醐とし、山下にあるを下醍醐とす。下醍醐には山門、金

堂、開山堂、五層塔等あり、金堂には本尊薬師佛を安んじ、豊太閤の再建なり。開山堂には弘法大師理源大師の像を安んじ、五層塔 圓寶には佛言説相の曼荼羅を畫く、有名の壁畫なり。上醍醐は麓より三十余町の坂路を登り山上にあり。觀音堂、五大堂、如意輪堂、祖師堂、薬師堂等の古建築あり。關伽井は觀音堂の下にあり、昔し理源大師始て此山上に登りし時、白髮の異人現はれ此水を掬し、醍醐味なりと示せしものなりといふ。此邊山勢峻峻にして、老松古杉道の左右を掩ひ、氣味頗る幽邃なり。三寶院 圓寶は下醍醐山門の外にあり、醍醐寺門跡の住院にして、堂宇壯麗に林泉奇趣あり、豊太閤の築造にかゝる、古寶什枚舉に暇あらず。また下醍醐の東北凡そ四丁許に花見山あり、慶長年間豊太閤が觀花の盛宴を張りしは此處なりといふ。

秀 吉

あらためて名をかえてみん深雪山うつもる花もあらはれにけり
隨心院醍醐村大字 眞言宗にして仁海僧正の開基なり。本尊は如意輪觀音にして、外に小野小町が籠書を貼て作りたる小町地藏あり、また當院竹林中に小町の水、附近に深草少將通路等あり、此地は小町が第宅の跡なりといふ。
勸修寺醍醐村字勸修寺 眞言宗の大本山にして、醍醐天皇の勅願所とし、本尊は全天皇等身の千手

觀世音を安置す。本堂の外宸殿、書院、靈明殿等あり。庭園は古の栗栖野氷室の池にして十五勝あり、結構巧妙風光絶佳なり。本寺より十町許距離る山科村字栗栖野の南に坂上田村麿あり。

岩屋寺山科村字西野山 本尊不動明王は智澄大師の作にして、大石良雄の念持佛なり。當時境内に大石良雄の宅跡あり、即ち元祿年間良雄が隠棲せし處にして、木像堂に四十七士の木像を安置す寶什に護士の遺物多し。

法嚴寺山科村大字 牛尾山と號す、世に洛東清水寺の奥の院と稱し、延鎮法師の開基にかしる。本尊は千手觀音の御作といふにして、左右に不動明王、毘沙門天大師の作を安んず。當山は幽邃無双にして櫻楓樹多く御經岩弘法大師遺經、鏡子口、仙人洞、蛇の淵、天狗杉等の名勝あり、眞に塵外の淨境なりといふ。

山科本派別院山科村字東野 世に山科御坊と稱す、眞宗僧俗の渴仰する處にして、實如、證如兩上人墓は當院の東方松林中にあり。また蓮如上人墓は西野の東小字大手先にあり、四方は石垣を繞らし前に拜堂を設く、壘上は古木鬱蒼として參詣の人絶へず。

山科大谷派別院山科村字竹鼻 世に東御坊と稱す、享保年中眞如上人の遺營する處なり。庭前の

の小丘に茶亭あり、往時蓮如上人の建設にかしる南殿の舊亭を移したるものにして陽秋亭と名く、參詣の人常に多し。

毘沙門堂山科村字北大字 文徳天皇大寶年間の建立にして、本尊毘沙門天は傳教大師の作とし世に有名なり。中門、御成門、方丈等あり。近古以來法親王の入室あり、毘沙門堂門跡と稱せり。

天智天皇陵山科村字御陵 古來御廟野と稱しき、兆域周圍七百七十五間余あり、極て崇嚴なり。日の岡山科村字北大字 宇治郡の北端に位し、三面皆山にして唯一面明豁に、日光を受ける最も早きを以て名を得つ。之にて東南部はぐるりと一周せるなり。

中央部

三條小橋大橋の西中町 橋下の流を高瀬川といひ、鴨川の支水にして、南の方伏見に達し淀川に入る。即ち慶長年間角倉了意の開疏せし處にして、百貨運輸の通路たり。此橋の東詰より高瀬川の東に沿ひ南北を木屋町といふ、旅亭、食席、割烹店等軒を並べ、いづれも鴨川に臨みて風光絶佳に、また一箇の銷金窩たり。

瑞泉寺 本屋町三條小橋 豊臣秀次の母瑞龍院日秀尼公、秀次追福の爲め建立せしものなり。堂前に一古墳あり、其上に碑石を建て、表に秀次悪逆縁と題す。即ち文祿年間秀次讒せられて高野山に自害し、其首を三條坂に梟し、其前に於て夫人以下婢妾三十余名、並に其幼穉を斬り同穴に埋みしものにて、世に畜生塚といふ。本寺に夫人嫡妻辞世和歌十八幅あり、其表装は其人の着たる衣裳の切れなりといふ。

先斗町 三條大橋の鴨川の西岸に沿ひ、四條大橋に達する狭小なる巷路なり。此地文化年度より初て藝妓を置き、自後幾回の變遷ありしが、現今は青樓娼家櫛比して、東側は悉く鴨川に臨み、風光の明媚なるは祇園町に勝る。毎年四月鴨川師を催ふし、祇園町の都踊と東西其艶美を競ふ、其光景等は都踊とほい相同じ。

新京極 三條小橋の西二丁余り三條通を南へ入り四條通に達す。この地もと誓願寺の境内に屬せしを以て誓願寺と稱したりしが、明治維新の後道路を開通し更に呼で新京極といふ。即ち京都第一の熱鬧場にして、演劇、音曲、輕技、軍談、落語の興行場、並に種々の飲食店、玉突、空氣銃、其他いろくの商舖多く、遊人肩摩して晝夜雜踏を極む。寺社には誓願寺に新嘉祥六角にあり、淨土宗誠心院、泉式部塔、並に律師百水の墓あり、全通齋師にあり、本尊前藥師は八葉の蓮華を倒にせる華蓋に安んじ、錦天満宮全齋師の石造にして傳教大師の作といふ。安養寺、本尊阿彌陀佛は八葉の蓮華を倒にせる華蓋に安んじ、世に安養寺の蓮華といふ。

御影堂 五條通御幸 天長年間桓林皇后の本願により、弘法大師の開基せし處なり。本尊は信州善光寺の阿彌陀如來を換したる影像なれば御影堂と稱せしが、現今全像は坊中の善光庵に遷し、本堂には別に安阿彌作の如來を安せり。元暦の頃平教盛の室蓮花院尼公當寺に閑居し阿古女扇を製せしより、坊中の僧之に倣ひ扇を製して之を贈ぐ、之を御影堂扇といふ、今も尙ほ林阿彌等二軒あり。

五條大橋 五條通 此橋古へは今の松原通に架せり、これ舊の五條通にして、現時大橋のある處は六條坊門通りなりしが、天正年中豊太閤五條橋を此處に移しより、舊により五條大橋と呼び、遂に六條坊門の名を云はずして五條通といひ、元の五條通は松原通となせり。木造にして擬寶珠を附し、舊制を存せるはよし。

佛光寺 佛光寺通高 眞宗佛光寺派の本山にして、建暦年中宗祖親鸞上人山城國山科に創建し興隆正法寺と稱し後其徒弟に附したるものにて、後寺基を東山澁谷に移し、喜曆年間佛光寺と稱し宸に映するの異あり、因て後醍醐天皇より阿彌陀佛光寺の號を賜ひ。豊太閤の時更に澁谷より

今の地に移る。本堂には親鸞上人自作の像を安んじ、阿彌陀堂には慈覺大師作の阿彌陀佛を安置す。境内廣裕にして堂宇輪奐とし、殆んど兩本願寺に彷彿たり。

因幡薬師 松原通島丸 本尊は日本三如来の一 總持寺如來、善光寺如來、及び本堂の如來を合せて三如来と稱すにして、天徳三年因幡國賀留浦の海底より出現せし靈像なるが、國守橘行平之を奉じ京師に歸り、其第宅を以て佛殿として之を安置す、今の薬師即ち是なり。靈驗著るしとて參詣の人多く、香火いと盛んなり。

空也堂 新羅國通津川 開基は空也上人なり。本堂に空也上人自作の像、脇土地藏、毘沙門を安んず。當寺に踊念佛と稱するものありて、有髮の僧數人禪衣を着け、鐘或は瓢箪を叩き、住持の颯經に隨ひて踊念佛す、其狀頗る奇なり。また古昔は空也堂の鉢藏といふもこしより出でたり。

神泉苑 御池通大宮 桓武天皇以來歷代天子遊覽の林苑にして、古は二條以南三條以北、大宮以西壬生以東に跨がり、封疆頗る廣大なりしが、其後大に荒廢し、元和年間には舊跡殆んど滅絶せんとせしを、僧覺雅深く之を惜み、幕府に請ひて漸く其一部を修補し眞言の靈場を開けり。

門内碧池あり、池中に島あり、善女龍王と辨財天女を祭る。ひかし弘法大師、小野小町雨を祀りたる故事ありしも皆この林苑なり。今は僅かに其面影を存するのみ。

宗 時

ちはやふる神の泉のそのかみや花をみゆきのはしめ成けり

壬生寺 野郡大内村 正暦年間江州三井寺の僧快賢僧都の開基にして、本尊地藏菩薩は定朝が一刀三禮の作なり。世に壬生狂言といへるは、當寺中興の祖圓覺上人の創始せし大念佛にして、

毎年四月二十一日より十日間之を施行す。桶取、花盗人、紅葉狩等二十五番の猿樂あり、無言にして少しも言語を用ひず、形容手振を以て意を示す、いと古風素朴のものなり。境内は頗る雑踏して、假面、刀、槍等の玩具店、飲食店櫛比し、近郊は菜花黄にして、カンデンくくの鉦の音の響くなどいと面白し。

本派本願寺 細川通七條 眞宗本派の本山なり。文永三年親鸞上人の女孃信尼、始て勅許を蒙り

上人の廟舎を知恩院境内に造營せしが、その後屢々戦乱に遭ひ、大津、山科、難波、紀州霧森、泉州貝塚等に轉移し、天正十九年第十一世顯如上人の時、攝津天滿より此地に遷りて終に大伽藍を建立せり、本堂は東西二十一間余、南北二十二間余にして、本尊阿彌陀佛 春日作 立像三尺を安んじ、眞影堂は東西二十四間半、南北三十一間半にして、中央に親鸞上人骨肉の眞像 座像二尺五寸 二跪の時の自作にして、上人示寂の後遺骨をを安んず。堂殿宏壯、雄麗無比なり。其他經藏、鐘樓、鼓樓、細抹にして、漆に和して之を塗れるものなり。

◎中央部

等あり。又四脚門、大玄關、白書院、黒書院、國寶等あり、いづれも豊公が伏見桃山城の遺構を移せしにて、金碧燦爛人目を眩す。庭園を滴翠園といふ、園あり飛雲閣、國寶といふ。これまた豊公が聚樂第の遺物にして、建築の高妙なる驚ろくに堪たり。園中十勝あり、油水濺々、樹影参差、恰かも仙境に入るが如し。本寺は法門の隆盛なる、信徒の多大なる日本第一にして、毎年春秋の彼岸會には参詣者日に數萬を以て數ふ盛んなりといふべし。

飛雲閣

九條尙實

開臨三滴翠園中一徑。欄入三滄浪池上浮。寫字止時何限興。逍遙無日不風流。

大谷派本願寺

北にあり。慶長七年本願寺第十一世顯如上人の子教如上人、徳川家康の命により後陽成天皇の勅許を得て本刹を創建し、之を大谷派本願寺と號す、世に東本願寺といふ。殿堂は數回回祿に罹り、現今のものは去る明治二十八年に再建築工せしものなり。本堂は東西二十一間、南北二十六間にして、本尊阿彌陀佛立像四尺四寸安國親作を安んじ、大師堂は東西三十二間、南北三十五間にして、中央に親鸞上人自作の木像を安んず。建築宏壯、粧飾莊嚴にして人目を驚ろかす。其他大寢殿、小寢殿、白書院、黒書院等あり。沙成園は當寺の別莊にして、本寺の東

枳殼馬場東玉水町にあり、此地は河原左大臣菟苑の遺趾にして、庭園等は石川丈山、小堀遠州の作になり、十三勝あり。亭榭樹林の排置巧妙を極め、仙鶴珍禽も多く、上品界に遊ぶが如し。本寺は本派本願寺と雁行して門徒極て多く、毎年春秋の彼岸會には諸國の参詣者境内外に充滿せり。

沙成園印月池

中島棕隠

歴三過繁華一水始分。一泓清樹翠成紋。半宵來照真如月。無復人間煩惱雲。

本國寺

松原通南端、日蓮宗の大本山なり。初め日蓮上人相州鎌倉松葉が谷に於て一精舎を設け法華堂と號し、日明、日印等相尋で其堂に住せしが、日靜の時に及び勅願所となり、貞和元年光嚴上皇の勅を奉じ遂に此地に移れり。本堂は法華經日助禱の筆を以て本尊とし、祖師堂には高祖上人の眞影を中央に日明、日印、日靜、日傳の像を脇壇に安せり。羅刹堂は細川晴元の再建にして、番神社は太田道灌の創立あり。別に加藤清正祠、松永久秀廟等あり、境内廣裕なり。島原花屋町千本、俗に傾城町といひ、中之町、太夫町、中堂寺町、上之町、下之町、揚屋町の六町を總稱す。四周園むに壁垣を以てし、別に一廓を構ふ。東門口の柳を出口柳といふ。往時

中央部

封建の世には諸國の豪富來りて一擲千金の豪遊をなせしが、維新後はやく衰微せり。毎年四月二十一日太夫の道中を行ひ、娼女の姿色艶美なるもの盛粧を凝し、小艇を従へ廊中を練行、其艶麗繁華なること比類なし。廊中第一の舊家を角屋といふ、今より二百五十年前六條よりここに移りし時の建築にして、樓臺の結構莊飾より、器物に至るまで皆善美を盡くし、綴子の間、青貝の間等あり、名人の書畫多し。

小 紫

吉野さぞ廊あたりの花葉咲く

花 咲

男なき寢覺はこはい蚊帳かな

東寺九條四條 教王護國寺と稱す、延暦十五年桓武天皇朱雀門の東西に兩寺を建設せしが、その後嵯峨天皇弘仁十四年に至り、西寺を守敏に賜ひ、東寺を弘法大師に賜ふ、今の東寺即ち是なり。門には南大門、慶賀門、蓮華門、八足門あり。堂には金堂、講堂、食堂、大師堂等あり。五重塔は金堂の東南に登え、瓢箪池は慶賀門の内に入り、燕子花多く境内廣縁にして堂殿宏麗に、老樹鬱茂して風景蒼古なり。毎月廿一日大師には遠近の參詣群集し、殊に例年四月の御影

供、及び春秋の彼岸には最も雜踏を極む。五月二十五日日六之より途を轉じ重に上京區に屬せるものを紹介す。

六角堂六角通鳥丸 頂法寺と號す、天台宗にして聖德太子の開基せし處なり。本尊如意輪觀音は一寸八分の黄金佛にして、ひかし淡路國岩屋浦の海中より獲たるものなりといふ。眞宗の宗祖親鸞上人が叡山より一百日間此堂に參詣し、本尊の靈告により法然上人に隨侍し、遂に一宗開發の因をなせしは世の知る處なり。堂の構造は六角形にして、元治兵燹後の再建にかゝる。當寺に池の坊あり、立花の祖家にして其名世に高し。

本能寺寺町通小 法華宗にして日隆上人の開基なり。初め六角南油小路東にあり、天正十年織田信長明智光秀の爲に弑せられしは其處なるが後今の地に移れり。昔時は堂塔巍然たりしが、數回の回祿に罹り今はやく荒廢せり。墓地に信長形塔あり。

妙滿寺寺町通二條下 法華八本山の一にして、日什上人の開基なり。本堂、祖師堂等あり。又境内に中川の井といふあり、足利義政の時茶人能阿彌が撰みし洛陽七名井の一なり。

革堂寺町通竹屋 行願寺と號し、本尊十二面觀音を安す。開基行圓上人常に寶冠を頂き身に華衣を着しより、世人呼て革上人と云ひ、遂に當寺を革堂と稱するところなれり。京都觀音廻りの

一にして、西國巡禮札所の一に數へられ著名なり。
 下御靈神社 寺町通丸太 貞觀五年始て祀る處にして、早良親王、伊豫親王、藤原吉子、文屋宮田麻呂、橘逸勢、藤原廣嗣、吉備大臣、火雷神の八靈を鎮座す。府社にして堂殿宏壯なり。
 天理教會河原町分教會 丸太町川端 大和國にある天理教本部の分教會にして、神殿中央に奉教主神を祀り、靈殿には全教祖を祭る。本村は悉く尾州村の良材を川此地は故山階親親王の舊殿ありし處にして、全殿は儼存し、三密觀音、松蘿洞茶室、有頂天、樓上等あり。庭内には又全親王御手殺の楓あり、參詣の信徒非常に多く、世人は之を佛徒の兩本願寺に比すと云ふ。
 護王神社 島田通下長 本社は初め高雄山神護寺にあり、全寺の鎮守なりしが、明治十九年今の地に遷座す。祭神は和氣清麻呂公にして別格官幣大社なり。境内は花木多く清潔なり。
 梨木神社 寺町通廣小 別格官幣社にして、贈右大臣三條實萬公を祀る、此地もと三條家舊邸宅のありし處にして、梨木町と呼しにより社號となす。境内に全公の頌徳碑あり。
 相國寺 今出川相國寺 禪宗の大寺にて、京都五山の一なり。永徳三年足利義滿の創立にして、夢窓國師の開基なり。本堂には釋迦、阿難、迦葉、達磨、大元等の像を安置す。其他寶塔、祖堂等あり。又塔中林光院に然宿梅あり、普光院に藤原定家の墓あり、境内廣潤なり。

上御靈神社 馬口通御 祭神は下御靈社と全じ、拜殿、繪馬堂、其他悉く具備す。應仁の亂には島山政長此森に據て激闘せしと古史に見ゆ。
 妙顯寺 小川頭 開基は日像上人にして、京都に於る日蓮宗最初の名利なり。本尊釋迦佛は日蓮上人の持佛にして、長三寸の黄金佛なり。境内に尾形光琳の墓あり。
 妙覺寺 新町頭 法華宗の本山にして、開基は日實上人なり。宗祖日蓮像の面貌は自作にして、他は日像の補作なり。境内に狩野古法眼元信の墓あり。
 本法寺 小川寺の内 開基は日親上人なり。開祖は同宗弘通の爲め最も苦難を冒せし人にて、世に銅冠日親の名あり。本寺はまた本阿彌光悅の檀寺にして、寶什に名品多し。また方丈の林泉は光悅の作にて、世に三巴の庭と稱し有名なり。

西北部

上加茂神社 養老郡上加 官幣大社にして賀茂別雷神を祀る。下鴨社と全じく天武天皇白鳳年間鎮座にして、今の殿舎は寛永五年の修造なり。樓門、中門、廻廊、本殿いづれも丹青彩畫の美を盡し、壯麗云はん方なし。昔國寶社前を繞るを御手洗川の清流とす、境内古木鬱蒼た

◎西北部

り。例祭は下鴨神社と全日にして、奉幣使先づ全社に越ひき、それより行装を整へ更に本社に参拜するを例とす。又六月五日には鞍馬の神事あり、堀川天皇の御宇より始まりし舊式にして、其行装等頗る古雅に、よく繪畫にもする處のものなり。

ちはやふる賀茂の社の姫小松

敏行

萬代ふとも色はかはらし

さくたひに頼む心そすみまさる

定家

加茂の社のみたらしの聲

鞍馬寺愛宕郡鞍馬 三條大橋を距ること凡そ三里、鞍馬山の山上にあり。寶龜元年鑑真上人の開基にして、延暦年間藤原伊勢人堂宇を造營せり。本尊は毘沙門天にして、天降の靈像なりと。山内古跡多く、牛若丸の師東光坊の坊跡、涙の飛泉、九折阪、關伽井等、其他諸堂あり。又西の方僧正谷は牛若丸が劔を學びし處にして、傍らに魔王堂あり、俗に太郎坊といふ。全山松杉鬱蒼として其尚ほ暗し、此處より貴船に下る捷徑あり。

遊鞍馬山

長戸讓

不辭鞍馬遊。來訪古招提。閑宿千年火。山懸百丈梯。怪禽啼絕谷。驚鹿走幽巖。欲問

牛郎跡。喬杉夕日西。

住なるく都の月のさやけきに

秋院中務

なにかくらまの山は戀しき

貴船神社愛宕郡鞍馬村 官幣中社にして、祭神は高麗神を祀る。古へより雨を請ひ晴を祈るに應驗著るしといふ。社殿二あり、下の社、奥の社といふ、相距ること五町餘あり。境内は老松杉杉蔭蒼として極めて幽邃に、貴船川は其麓を環り流る。瀑布四あり、又名石多し。近年本社に至る左右の山林に櫻楓樹數千株を栽へ、うたゝ風致を添たり。

貴船川玉散る瀬の岩波は

俊成

氷をくだく秋の夜の月

今宮神社全上 素戔鳴命、及び稻田姫命を合祀す。初め正暦五年疫神を舟岡山に祀り、長保五年に至り現今の地に移す。若狭川の流を前にし、森林を背にす。正殿、拜殿、齋院、神樂殿等あり例祭は毎年五月十五日にして、船岡山の東方なる御旅所に神幸あり。又四月十日には夜須禰祭と稱し、華麗なる花傘の下に赤毛黒毛の冠を被り、鐘鼓を鳴し歌を誦ひつゝ踊りゆく。古來有名の祭禮にして、近傍は群集雜沓せり。

◎西北部

長能

今よりはあらふる心ましますなはなの宮古にやしうさためつ

大徳寺全上 神宗臨濟派の大寺なり。開基は大燈國師にて、後醍醐天皇の本願、正中元年の創建なり。境内は喬松深く寺院を鎮し、幽邃の景いふべからず。山門は蓮歌師宗長の建造にして、千利休その樓閣を修補し、巴れの木像を置き、剛らず罪を豊太閤に得て遂に終を令せざりし。法堂及び佛殿は赤松圓心の建營せし處にて、方丈の門は明智光秀の寄進なり。又一休禪師の舊居は寺内の眞珠庵にして法堂の左にあり。千利休墓は聚光院にあり。當寺並に塔中諸院の名壽古器枚擧に暇あらず。四月一日より五月三十日まで寶物展覧あり

大徳寺

寺門良

回し頭世事片雲浮。山色依然歳月流。多少英雄骨皆朽。聲聲冷響法堂秋。

建勳神社愛宕郡大宮村にあり

舟岡山の半腹はんぼくにあり、織田信長を祀る。社殿清靈にして、別格官幣社なり、後山は高爽にして眺望に富む、圓融天皇讓位の後、この山にて子の日の遊を催ふし玉ひしとあり、和歌また多く古來より名所なり。

舟岡のふもとに立て見わたせばむらさきの野ぞなかばくれゆく

舟岡

建勳神社

成章

あつち山くまなくてらす月影のあはれ都にかくれけるかな

建勳神社

通禱

北野神社御前通一 村上天皇の天曆元年初て北野に奉祀し、現在の神殿は慶長十二年豊臣秀吉の改造する處なり。本殿圓寶は八棟造にて、檜材を以て造營し、丹楘金碧甚だ莊嚴なり。祭神は菅原道眞公を祀り、官幣中社とす。境内は紅白の梅樹多く、春初はるはつの候は清香馥郁極めて佳觀なり。十月四日は當社の私祭にして、三月二十五日は茶種御供の神事あり。また毎月二十五日は露店櫛比、参詣者群集し其賑はしきといはん方なし。四月一日より三十日 同寶物展覧あり

北野天満宮

河野鐵兜

西都風月附長嗟。回首浮雲是帝家。一去騎龍仙跡香。空留正氣在三梅花。

慈圓

◎西北部

くもるへきうきよの末をてらしてやあら人神は天降けん

平野神社葛野郡表笠村字 官幣大社なり。本社五棟相並び、第一殿に今木神、第二殿に久度神、第三殿に古開神、第四殿に比咩神を祭り、南なる別殿を縣社といふ。本社、拜殿とも巧みに接木を符合し、建築家の横絶とする處にして、拜殿楯上に掲ぐる三十六歌仙の額面は近衛基前の書、海北友徳の畫とし世に名高し。古來境内に多く櫻樹を栽へ、奇葩異種八十餘種あり、花時には士女群集して宴飲し、平野の夜櫻とて世に著はる。また燕子花、花苧蒲、萩ともに多し。

能 宣

千早ふるひら野の松の枝しげみ千世も八千世も色はかはらし

金閣寺葛野郡表笠村字 鹿苑寺と號す、足利義滿の山莊にして後ち寺院となる、開基は夢窓國師なり。林泉は廣裕幽麗にして、三層の閣あり、即ち金閣にして、下層を法水院といひ、中層を潮音洞といひ、上層を究竟頂といふ。天井は三間四方なる楠の一枚板にして、閣の四方には金箔を貼りしも、今は概ね剝落して僅に殘痕を認むるのみ。其他神雲廟、殿下水、龍門瀑、銀河泉、虎溪橋、安民澤、夕佳亭等の勝あり。夕佳亭の床柱は南天樹を用ひ、遠棚には胡枝花の枝を編みたり。また本堂の襖繪は狩野探幽、伊藤若冲等の筆とし、又ワビスケ椿の名花あり、何

人も必らず一覽せざるべからず。昔拜觀を許さる

等持院葛野郡表笠村字 足利尊氏の建立にして、夢窓國師の開山なり。佛殿に利運地藏尊に於て釋尊の念持、達摩、夢窓の像を安んじ、別に尊氏以下足利歴代の木像を排列せり。寺内に足利尊氏墓あり、安永の頃高山仲繩が其罪狀を數へて鞭らしは即ち是なり。庭園は夢窓の作にして、幽邃閑雅なり。

龍安寺葛野郡花園村 細川勝元の建立にして、義天和尙の開基なり。本堂は舊と東福寺の昭堂を移せしものにして、天井の蟠龍及び、迦陵、頻伽の畫は兆殿司の筆なり。方丈は勝元の居館を以てこれに充て、庭園は五六の奇石を排し、虎の子を率ひて溪水を渡るに似たり、虎の子渡と稱し相阿彌の作なり。境内鐘谷池には水鳥の來つて游泳するもの多く、古より龍安寺の鶯鶯とて洛北の一勝景たり。

妙心寺葛野郡花園村 初め清原左大臣夏野の別業なりしが、花園上皇比地の風景を愛し離宮を營み玉ひ、後伽藍となし關山國師を開基とし、正法山妙心寺と名け玉ふ。寺内の一洗玉鳳院は當時上皇の隱栖し玉ひし故跡なり。又萬里小路藤原卿通世して此寺に入り、授翁と號し關山國師の法脈を繼ぎたりといふ。法堂天井の極彩色蟠龍は狩野探幽の筆にして、稀世の名畫と稱す。

又大法院に佐久間象山あり、當寺並に塔頭諸院には資什極て多し。博覽會開期中寶物展覧あり
雙岡全上 南北に亘りて三丘相連なる、故に雙の岡といふ。別に一の岡、二の岡、三の岡の名あり。兼好法師がこゝに草庵を結びて徒然草を著せしは人の知る處なるが、其舊蹟は二の岡の西麓にありしを、中世東麓の長泉寺内に移せしといふ。満山松樹蒼鬱として、蒼翠滴るが如し。

仁和寺葛野郡花園村 眞言宗の大寺なり、光孝天皇仁和四年の創建にして、宇多天皇御落飾の後當寺に入り、宮殿を造營し玉ひしより御室、又大内山の稱あり。自來法親王を以て代々御繼紹あり、以て維新の際に及へり。金堂、御影堂、觀音堂、五重塔等あり、いづれも建築雄麗なり、宸殿は前年火災に罹りて燒失し、目下假殿なり。境内廣濶にして櫻樹多く、枝幹蟠屈して花は皆重瓣とし、艶麗他に異なり、御室の花見とて古來世に名高し。博覽會開期中寶物展覧あり
○仁和寺より宇多村を過ぎ、平岡村、妙善寺、梅畑村等を経て高雄に至る、道程凡そ一里半とす。

九重にたつしら雲と見えつるは大内山の櫻なりけり

出 雲

高雄神護寺葛野郡梅畑村 和氣清麻呂公の草創にして、始め河内國にあり神願寺と號せしを、後此地に移し、淳和天皇天長年中之を弘法大師に賜ひ神護寺と改稱せり。二王門、本堂、講堂、大師堂、明王堂、鐘樓等あり。全樓の鐘は日本三絶といひ、橋廣相の序、菅原是善の銘、藤原敏行の書なり。又二王門前坂路の傍にある額書石は、弘法大師勅を奉じ、清瀧川の暴漲を隔て、筆を飛して對岸に捧げる額面に四大字を現はしたる處なりといふ。奥の地藏院は境内第一の佳景にして、清瀧川は其下を繞り、兩岸の紅楓は鮮艶燃へんとす、實に紅楓の大觀なり。月四一日より十五日間寶物展覧あり

槇尾西明寺全上 高雄より深流に沿ひ進むと三三丁、對岸の山腹にあり。弘法大師の徒弟智泉法師の開基にして、明忍上人の中興なり、律宗にして眞言宗を兼ね。三尾高雄、槇尾の内楓樹最も少しといへども、樹木陰森として頗る幽邃なり。

槇尾高山寺全上 尊意僧正の開基にして、舊と天台宗なりしが、明惠上人之中興して華嚴宗となる。本宗、明惠上人廟、禪堂院等あり。入口なる白雲橋より北は兩岸の楓樹清瀧川の溪流に臨み、深紅淡黄燦然として水を照し山に映じ、恰ながら錦繡をかけたる如し、實に絶景といふべし。國寶あり

◎西北部

唐錦いろこそまされくるし日をはるかに残す宿のみみち葉
○高雄より再び東南に歸りて宇多村に出て、更に西行せば上嵯峨に趣くべく、又南にゆけば太
秦に出づべし。

太秦廣隆寺葛野郡太秦村にあり 推古天皇十二年、聖德太子秦川勝に命じて創建せしめたる處にして、
開基以來殆んど一千三百年の星霜を閱し、世に稀なる古名刹とす。樓門の金剛力士は鳥佛師の
作とし、假金堂の薬師如来、向日明神の神作といふ百濟國より進献の金銅救世觀音、新羅國より進献の金銅
彌勒菩薩いづれも有名の古佛とし、太子堂には聖德太子自作の木像、三十三歳の時を安んず八角堂は
又奥の院といふ、即ち聖德太子創建當時のまゝにて、一回の火災に遭はず現存し、平安第一の
古殿堂とす、毎年十月十二日牛祭を執行し、奇異の觀人目を驚ろかす。當寺資什極て多し。月
五日より全月二十
五日まで寶物展觀
廣澤池葛野郡嵯峨村に有 宇多天皇の皇孫寛朝僧正の開墾する處にして、周廻二町あり、古來より觀月
の勝地にして、月夜の眺望最も佳絶なり、古人の題詠多し。

住人もなき山里の秋の夜は月の光もさびしかりけり

大澤池全主 舊と嵯峨天皇離宮の境内にて奇石多かりしが、後世閑院の内裏に移されたりとい
ふ。池中に一島あり菊島といふ、其西北に屹立せるは庭湖石と稱し、巨勢金岡が勅を奉じて排
置せしものなりと、櫻樹あり。

一本と思ひし菊を大澤の池の底にも誰かうえけん

大覺寺葛野郡嵯峨村大澤池西にあり 舊と嵯峨天皇の離宮なりしを、清和天皇改めて寺となし、恒寂法親王を
以て開基とす。爾後代々法親王の住所となり、其由緒他に異なり、宗旨は眞言なり。殿堂は幽
雅にして、境内松樹鬱茂し風光極めてよし。

清凉寺全上 五臺山と號し、俗に嵯峨の釋迦堂といふ。本尊釋迦佛は立像五尺二分、釋尊在世
の日、赤梅樹を以て毘首羯摩の作りし尊像にして、後支那に渡り、一條天皇の時僧裔然宋國よ
り將來せしものにして稀世の名像なり。本堂の外多寶塔、阿彌陀堂、薬師堂、經藏等あり。境
内廣潤にして、櫻樹松樹多く、風景頗るよし。三月十日より五月十
日まで寶物展觀あり

小楠公首塚嵯峨村 清凉寺の西二町許の竹林中にあり、高さ八尺許の石卵塔なり。傍に寶篋院

塔あり、足利義隆の墓とす。これ義隆が小楠公の忠誠を感じ、遺言して其傍らに葬むらしめしなりと。

二尊院全上 小倉山と號し、天台、律、法相、淨土四宗兼學なり。本尊は發遣釋迦、來迎彌陀の二尊、各立像二尺五寸なるを以て二尊院と稱す。境内に龍女池、嵯峨、土御門、後奈良三天皇の御塔、湛空上人廟等あり。當寺は古來紅葉の名所にして和歌多し。半腹に定家の時雨亭と稱するあり、また貴人名士の墳墓多し。寶物屋

貫之

夕月夜小倉の山に啼鹿の聲の内にや秋はくるらん

西行

小くら山ふもとの里に木の葉あれば梢にはるく月を見る哉

清瀧全上 愛宕山の麓にあり、危岩突兀、水勢激騰、頗る奇觀なり。一橋あり、渡猿橋といふ。橋の兩岸は酒樓多く、深山清幽にして夏日避暑に尤もよろし。芭蕉翁の「清瀧や波にちりこむ青松葉」とは此處なり。

愛宕山全上 上嵯峨の西北にありて京都を距る四里六町許とし、山嶺の眺望壯大にして、城丹

二州を瞰下す。頂上に愛宕神社あり、防火の神と稱し、遠近より參詣者多し。別に太郎坊社、飯綱社、子守勝手社、八天狗社等あり、幽邃凄寒、夏日も暑氣を覺へずといふ。また全山に月輪寺あり、是また有名の寺にして、本堂、祖師堂、龍女祠あり。又本堂の前なる時雨櫻は、親鸞上人北國へ配流の際、當寺にありし藤原兼實卿に別を惜み、紀念の爲め植おさしにて、晴天にても葉末より點々雪をたらすといふ。

野の宮全上 清涼寺の西南、民家の後、竹林中に悠記、主基の両小祠あり、祠前に黒木の鳥居、

小柴垣あり、即ち齋宮の内親王三年の間ここに住して齋齋し玉ひし處なりといふ。

天龍寺全上 禪宗五山の一とし、足利尊氏の後醍醐天皇御追福の爲め建立せし處にして、開基

は悲窓國師なり。佛殿は元治の兵燹にかかりて灰燼となりしが、去る三十三年に再建落成し、法堂天井の龍は鈴木松年の筆なり。境内廣大にして、老松古柏相錯はり幽靜なり。方丈の林泉は夢窓國師の作にして、風色絶佳なり。四月一日より五月十九日まで寶物展觀あり

俊成

又たくひららしの山のふもと寺杉の庵に有明の月

嵐山 葛野郡上田村にあり 此山の櫻樹は龜山上皇嵯峨の仙洞に在ませし時、大和吉野より移し栽へ玉ひし

○西北部

なりと、蒲山櫻楓樹多く、翠松其間に交錯りて、春秋の眺め云ふべからず。また初夏の新樹によく、益によく、河鹿によく、三冬の雪景によく、四時一として佳ならざるなく、京都第一の勝地なり。山下の流を大堰川といひ、これに架するを渡月橋といふ。其他戸難瀬瀧、渡月橋の四の段に千鳥淵北にあり、等の勝あり。

大悲閣は渡月橋より嵐山の麓、大堰川に沿ひて七町ばかり西にあり。本尊千手観音の立像は恵心僧都の作にして、脇壇に此川の上流を疏せし角倉了意の座像あり、閣上の眺望絶佳なり。四月一日より五月三十日まで、山下に温泉嵐峽館あり、亭榭清潔にして、酒茶に魚鮮なり、温泉は諸病に本尊開扉食物屋敷あり、効あり。又北岸渡月橋の上方に三軒屋温泉あり、之また古來有名にして樓上の眺望よし。

嵐山

後宇多院

嵐山是もよしのやうつすらん櫻にかゝる瀧の白糸

大堰川

貫之

大堰川邊の松にこととはんかゝる御幸やありし昔も

戸難瀬瀧

定家

うく紅葉玉散瀧の色そめて戸難瀬瀧に秋もとまらず

法輪寺渡月橋の南 智福山と號す、天平六年の建立にして、貞觀十六年僧道昌弘法大師の法弟之を中興

し眞言宗となる。本尊虚空藏菩薩は二尺五六寸、道昌の作にして、日本三虚空藏の隨一にして靈驗最も著るしく、工人の參籠する者多し。又陰曆三月十二、十三の兩日は俗に十三參りと稱へ、京都は更なり近國よりも年齢十三歳の男女兒、智慧を貰はんとて此寺に參詣する者いと多し、境内櫻楓樹あり。

松尾神社葛野郡上山田村 官幣大社にして、祭神大山咋命、市杵島姫命を祀る。聖武天皇天

平中初て大社に列せられ、延曆中京都守護神となし玉ふ、洛西第一の大社なり。又世に酒造家の神と稱し、釀酒家は尤も尊信す。境内は老松古杉鬱々とし、神殿も燈々として神寂たる靈境なり。社頭は櫻楓樹多し。

梅宮神社葛野郡梅津 官幣中社にして、酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神を祭る。ひか

し嵯峨天皇の後椋林皇后御子なきを憂へ、此社に祈りて姪身し玉ふ、仁明天皇これなり。今も婦人の産月に臨むもの、當社の土砂を佩びてその平産を祈る。境内櫻樹多く、また水邊に燕子花を植へ世に名高し。

西南部

向日町（向日町の中） 西國街道の一驛にして、近年官線鐵道の停車場（京都へ四哩山崎へ五哩大坂へ廿二哩）を置れしより、旅客貨物の出入多し。

向神社向日町 養老二年の鎮坐にして、本殿國寶に神武天皇を祭る。社地を勝山と稱するは、豊太閤征韓出陣の途次、本社に參詣し、社司を召て山名を問ひしに、社司故らに勝山と答へ、太閤大に喜びしにより、爾後以て其名となす。境内櫻樹多し。

長岡都向日町字雞冠井 桓武天皇延暦三年、初て都を此國に奠め玉ひし宮城の遺趾にして、古來地の字を大極殿と云ひ、土中より往々古瓦を掘出すとあり。明治二十八年故跡を考定して、大極殿の趾を求め、一大石碑を立て、花木を移植せり。題字は山階宮の御染筆なり。

大原野神社野村 官幣中社なり、祭神は奈良春日神社と全体にして、武甕槌命、齋主命、天兒屋根命、比賣神を祀る。文德天皇仁壽元年、春日神社の皇城に遠きを以て、皇太皇后勅して此に鎮座し玉ひたりと云ふ。境内には罌澤といふ小池ありて、其四邊は櫻楓樹多く、いと神寂たり。

左大臣

おほ原（小鹽の山）のほとくす我に神代の事かたらなん

花の寺上 勝持寺と稱す、境内櫻樹多きを以て世に花の寺といふ。天武天皇の朝、役小角の開基なり。本堂、護摩堂、不動堂、西行庵、長爾塚等あり。此邊は小鹽山と云ひ、古來櫻花の名所にして、別に牙野沼、瀬和井清水等の名勝ありといふ。

瀬和井清水

匡房

夜を寒みせか井の水は氷とも庭火は春のこしちこそすれ

金藏寺（訓郡大原野村字長峰坂本の上） 西岩倉山と號す、養老二年の草創にして、元正天皇の勅願所なり。二王門、本堂、五大堂、開山堂等あり。本堂の東なる山中にある經塚は、往古法華經を納めし處にして、本堂の坤谷二丁餘に岩瀧瀑あり、三段に流る。境内は高爽にして眺望よく、また櫻樹多し。

三（金藏寺より山路） 源算上人の開祖にして、善惠上人の中興なり。本堂中央なる佛眼畫幅は、觀性法橋の自ら織り自ら齋く處にして世に名高し。

又方丈に慈覺大師作抱止阿彌陀如來あり。宇都宮蓮生常に生身の阿彌陀を拜せんとを願ひ、一日佛前に念誦して覺へず閉目せしに、忽ち紫雲中に三尊二十五菩薩の示現を見やがて空に歸らんとし玉ふにぞ、名殘惜く抱止め見れば、年來信仰する本尊なり、依て世に抱止如來と稱す。境内は西山の半腹にあり、松杉森々として極めて静閑なり。

善峰寺乙訓郡小堀村 源算上人の開基にかゝり、西國三十三所の一なり。本堂、經堂、多寶塔、開山堂、阿彌陀堂、藥師堂、釋迦堂等あり、堂宇輪奐たり。小堀村より常山に登る坂路俗に七曲に坐禪石あり、開山上人初て此山に上り、石上に坐禪すると七晝夜、異人に逢て蘭若を開くべき示現を蒙りし處なりと。境内は多くの櫻楓樹を栽え、堂前に紅白躑躅あり、西山の一勝區なり。 實物あり

粟生光明寺乙訓郡乙訓村 淨土宗西山派の總本山にして、建久九年熊谷蓮生坊の草創にかゝり、其師法然上人を開山となす。本堂、阿彌陀堂、祖廟、深心院、講堂等あり。伽藍宏壯にして、正親町天皇より法然上人遺廟の鑿地、淨土根元の地といふべしとの繪旨を賜はる、以て其名刹たるを知るべし。境内は幽雅静寂にして金山巒蒼とし、近年櫻楓樹を雜植して風致一層を加ふ。四月十一日より全月廿五日まで寶物展あり

楊谷寺乙訓郡海印寺村 柳岩山と號し、世に柳谷觀音と稱す。白河天皇の御宇、水願上人の開基なり。境内に楊柳水、獨鈷水等の名蹟あり、古來此觀音は眼病に靈驗著るしとて、遠近よりの參詣者多し。

長岡天満宮乙訓郡乙訓村 菅公を祭る、昌泰四年菅公筑紫に左遷の途次、この地を過る時、寛平法皇の侍臣祐房といへる者別を惜みしに、公自ら影像を寫して之に授けしが、遂に祭りて神となすといふ。境内に池あり、池畔に梅楓躑躅多く、四時の風光絶佳なり。五月一日より三十日まで祭典執行

天王山乙訓郡大山崎村 山城の西南端に屹立し、山勢雄偉なり。天正十年豊臣秀吉、明智光秀と山崎に戦ひ、兩軍此天王山を争ひしは人の知る處なり。山上に酒解神社あり、一に山崎神社と稱し、素戔鳴尊、並に八王子を祭る。また酒解神社の東面山腹に觀音寺あり、眞言宗にして聖徳太子作の觀世音を安んじ、殊に當寺の鎮守なる聖天祠は靈驗尤も著るしとて、京坂其他遠近の參詣者多し、眺望頗るよし。

寶寺天王山 觀音寺の西南三丁許の山腹にあり、聖武天皇の勅願により行基菩薩の開基なり。本尊十一面觀音は聖武天皇、行基菩薩と共に彫刻し玉ひしものなりと。堂前九層の石塔婆は全天皇の御塔にして、門内の三重塔は大日如來を安んず。又本堂にある鬘頭留像は行基の作にし

て、全園無類なりといふ。
離宮八幡宮乙訓郡大山 貞觀二年の創建にして、應神天皇を祭る。舊殿は皇臣秀吉の再營なりしが、元治の兵燹にかしり、現在祠宇は明治十二年の建築なり。官道の傍にある石鳥居の額は、藤原行成卿の筆蹟なりといふ。

男山八幡宮男山の上 官幣大社にして、清和天皇貞觀元年、南都大安寺の僧行教字佐八幡の神告を蒙り之を奏聞し、勅許を得て勸請せし處なり。祭神は應神天皇、神功皇后、比咩大神の三座を祀る。神殿四壁を内外二字に分ち、其前に幣殿、舞殿相連り、左右には廻廊あり、神殿は瑞籬を繞らし甚だ壯麗にして、花鳥を彫り、五色を彩り、金銀を鏤め、結搦云はん方なし。又神殿の雨樹は秀吉の寄附にして、世に黄金の樹と稱し有名なり。境内名勝故蹟多く、石清水、景清塚、如法經塚、放生川等あり。毎年九月十五日朝廷より男山祭を執行し、莊嚴神廳いはん方なし。又一月十五日より十九日まで五日間辰神齋と稱し、災厄解除祈願の爲め京坂各地よりの參詣多く、雜遝すると殆んど男山祭の時の如し。

石清水さよき 流の絶せねは
能 通
やとる月さへくまなかりける

やはた山さか行神のめぐみとて

攝政大政大臣

千代ともさしと峯の松かえ

南部

白河久保郡宇治町大 平等院の東南凡そ二十町許にあり、南方より流れて宇治川に入る。水底すべて白砂にして宛然布を曳くが如し、白河の名はこれより起る。山城に白河二あり、此川は京の南方にあるを以て南白河と云ひ、愛宕郡にあるを北白河といふ。村内左方の山腹に白山神社あり、朱塗の大門は永承年中の建築にして、額は道風の筆なりといふ。

金胎寺相模郡東和東村 寶峰山と號し、山頂まで坂路三十町あり。天武天皇の白鳳年間、役小角初て此山に上り、巖頭に坐して修法するを五七日、自後屢々往來せしと、之を常山の開基とす。次で白山の行者泰澄法師ここに登りて幾多の伽藍を造營し、其後行基、鑑真、弘法、傳教等の諸師いづれも來つて鍊心修業の地となす、即ち密宗の大道場なり、本堂、開山堂、多寶塔等あり。東方の山腹は小角、泰澄二師が密法修業の聖地にして、登山の徒必ずこゝを巡拜す、俗に呼で行場といふ、名跡多し。

南部

大智寺相模郡和東村 即ち鷲峰山の東、湯舟の奥に當り、原山より東一里にあり、百丈山と號し
 禪宗なり、開基は大觀禪師とす。境内方丈の東十町餘に坐禪石あり、高さ三十間、幅二十間に
 して、頂上は截取し如く八間許の平面あり、頗る偉觀なり、こは開山大觀禪師が一百日間坐禪
 の處となす。又和東川を隔て、文珠岩あり、屹然として之に對す、禪師坐禪の時此岩兩分して
 文珠大士出現せしと傳ふ。別に布引石、大鼓岩等あり、此處風光絶佳なり。
 青谷相模郡長池郡より 近時梅花を以て顯はる、奈良鐵道長池驛より十八丁許にして、地は山に倚
 り谷に跨がり、川に臨み林に接し、瀾望一白、香氣馥郁、人をして仙境に入るの思ひあらしむ。
 柏か平、天の山、一目千本、白坂等の勝あり。白坂は青谷第一の古梅林にして、風光最もよし。
 開花の頃は遊人絡繹として頗る多し。
 井手玉川相模郡井手村にあり 我國名所六玉川の一にして、昔は兩岸に山吹多く、一望たゞ黄金色なり
 しとのなるが、現今は昔時の盛に比ぶべくはあらざれど、また秋をひくに足る。路傍に大なる
 岩あり、中に一丈許の洞ありて、之を風穴といふ。玉川には古歌いと多し。
 駒とめて猶水かはんやまふきの
 花の露そふ井手の玉川
 俊成

玉川のきしの山吹影見へて

俊鳥羽院

蟹満寺相模郡鶴岡村 普門山と號す、本尊釋迦佛は百濟傳來にして、稀有の尊像なりと。寺傳に
 云ふ、昔し此郷に住める某慈悲の心深く佛に仕へ、其女七歳にして能く普門品を誦しけるが、
 一日野に遊びて村人の蟹を殺さんとするを憐れみ、請ふて放ちやりぬ。其後父田を耕やしける
 に、一蛇の蛙を追ふて含めるを見、思はず汝蛙を捨てば我婿にせんといひしに、其蛇蛙を吐
 て去りしが後三日の夜衣冠の人あり女を訪ひしに、女の堅く室を鎖し出ざるを見、怒て大蛇と
 なり其室を纏ふ。折しも數百の蟹何處よりか出來り、大蛇を夾み之を殺して去りしが、翌日女
 と父母は之を見て大に喜び、塚を造りて之を埋め、其地に寺を營みて蟹満寺と名く、縁起奇に
 して古へより有名なり。
 神童寺相模郡高麗村大 北吉野山と號す、本尊藏王權現は金精明神、神童と化現し、役行者と共
 に作りし像なりと。本堂の外、開山堂、子守、勝手、勝手の兩社、並に金精明神社等あり。境内櫻樹
 多く、風景佳なるより、吉野山に擬して北吉野といふ。
 妙勝禪寺相模郡田舎村 翻恩庵と號す、木津川の西に在り、禪宗にして開基は大應國師、中興は

一休和尚なり。方丈には一休和尚の像あり、長三尺五六寸、椅子に坐し竹籠を持す、こは和尚生存の目工人に命じて作らしめ、自己の鬚髮を植しめしものとす。又方丈の南庭に一休塔あり、其遺骸を藏む。當寺の庭は佐川田喜六の作なりといふ。

笠置寺 相樂郡笠置 鹿野山と號す、木津川の南岸、笠置の山上にあり。寺傳に云ふ。天武天皇末、皇子たりし時此山に獵し、一頭の鹿を追ひかけて思はず馬を懸崖に掛け玉ひ、御生命もいと危ふくなりしかば、皇子誓を發し、山神若し我命を助けば此山に伽藍を創建せんと、やゝあつて馬逆さに退きて危難を免がれ玉ひしかば、乃ち着せし處の簡笠を脱で巖上に置き、再び尋ぬるの徴として歸り玉ひぬ、笠置山の稱之より起る。其後皇子帝位に上り、白鳳十二年始めて伽藍を建造し、堂塔山谷に充滿せしが、爾來年久しくして頽廢せしを、解脫上人之中興せり。元弘元年後醍醐天皇北條氏の兵を避け、當山に行幸して行在所となし玉ひしが、遂に賊軍の爲に陥られ、一山兵火に罹り、堂宇大半滅却し、現今はいと寂寥となれり。笠置寺は山頂にあり、もと福壽院と稱せしを、現今全寺の稱號とす。山上巨石多く、藥師石、文珠石、彌勒石、金剛界石、胎藏界石、虚空藏石、平等石、笠置石、貝吹石等いづれも高さ五十二尺より、四十尺餘のもの多く、又名跡には後醍醐天皇行宮の趾、毘沙門堂、本堂、解脫上人墓、千手深等あり。

り。山勢峻偉にして櫻楓樹多く、頗る人目を發かさしむるに足る。山下に笠置温泉あり、諸病に効驗ありといふ。

笠置名石

月 洞

誰將二笠置巖頭。實地創開歲月悠。水繞山圍兜率境。何殊荊縣石城丘。

官公署 京都府上京下立 主殿察出張所御所 警察本部府廳 中立警察署中京區 上長者町警察署 上長者町 川端警察署川端丸 五條警察署木置町 同鹽小路警察分署三軒通 松原警察署七寺町東

堀川警察署四堀川通 盛獄署千本通 京都地方裁判所丸太町西 同區裁判所竹屋町西 同下京出張所四ノ町五 京都稅務監督局川端丸 上京稅務署同上 下京稅務署寺町通 京都郵便電信局三條通東

角 同 今山川 支局 今山川通 大宮東入 同 郵便電信支局 島田 同 郵便電信支局 河原町角 同 七條電信支局 車場内

○京都電話交換局三條通東 三條通東 〇京都市役所御池通 〇上京區役所中立賣小 〇下京區役所問之町 〇水利事務所上京區粟 〇小林區署二條南

官公立學校 京都帝國大學上京區 第三高等學校 同上 〇京都高等工藝學校同上 〇師範學校受寄郡上

〇第一中學校上京區 第二中學校相伊郡上 第三中學校天田郡 高等女學校寺町通 療病院醫學學校御

道通廣 〇農學校桂野郡 〇美術工藝學校丸太町 〇染織學校釜屋通橋 〇盲啞院釜屋通橋 〇商業學校堀川通御

小路 〇小田原町 〇小田原町

○京都府圖書館上京區
 ○私立學校 成章義塾五辻通淨 ○同志社女學校烏丸中立 ○京都看護婦學校烏丸下長 ○京都數學校竹屋町
 ○京都簿記學校衣通丸 ○明進學館富小路 ○真宗京都中學今熊 ○平安女學院室町東 ○京都淑女學校明門通下
 ○國民學校三條東 ○京都法政學校寺町東
 病院 醫科大學醫院聖護 ○療病院御車通廣 ○八阪病院下京區 ○日吉病院今熊 ○聚樂病院葛野郡朱
 ○同志社病院烏丸通上 ○田中病院室町通 ○木村病院新町通 ○京都癲狂院南區 ○豐田癲癩病院新町通中
 ○鄉眼科病院中區 ○東山醫院南區 ○山田病院東區 ○吉田內科病院大宮通 ○京都耳鼻咽喉科醫院幸町通
 ○森眼科病院御車通 ○大矢醫院東區 ○施護院新橋通大 ○佐伯病院柳馬場通 ○日下病院古町通
 銀行 三十四銀行京都支店烏丸 ○京都商工銀行東區 ○四十九銀行三條通 ○京都銀行烏丸通 ○平安銀行室町三 ○京都貿易銀行寺町通 ○中京銀行烏丸通 ○起業銀行油小路 ○京都農商銀行六角通 ○日本產業銀行六角通 ○京都農業銀行二條河原 ○京都府農工銀行室町二 ○京都貯藏銀行烏丸通 ○商工貯金銀行東區 ○川東貯金銀行南區 ○起業貯蓄銀行油小路 ○明治貯金銀行河原町 ○四十九貯金銀行三條通 ○西陣貯蓄銀行今出川 ○伊弉太財金銀行烏丸通 ○中立貯金銀行今出川 ○第一銀行支店烏丸通

○第百卅銀行支店柳馬場 ○日本銀行出張所東區 ○三井銀行支店新町通 ○日本貯金銀行支店東區
 ○近江銀行支店烏丸 ○大阪貯蓄銀行支店東區 ○鴻池銀行支店四條 ○伏見銀行支店東區 ○北濱銀行支店烏丸 ○名古屋銀行支店室町六 ○加島銀行支店東區 ○住友銀行支店東區
 商工業會社 疎水倉庫株式會社東區 ○疏水運送株式會社同上 ○京都株式取引所東區 ○京都倉庫株式會社東區 ○內國通運株式會社支店烏丸 ○絹糸紡績會社上京區 ○紫野織物會社柳川 ○京都織物會社柳川 ○西陣織糸會社柳川 ○鴨川晒合名會社柳川 ○平安紡績會社柳川 ○京都印刷會社柳川 ○合資報會社三條東 ○村井兄弟商會馬場町 ○西陣織物會社元祿町 ○川島織物會社三條東 ○陶磁器會社川三 ○中西印刷會社小島 ○圖書出版會社油小路 ○京都染物會社一條油小 ○京都製絲會社吉田 ○京都製銅會社同前 ○西陣製織會社山川上 ○漆器會社高辻下 ○日出新聞社三條東 ○京都新聞社三條上 ○京都生命保險會社三條東 ○真宗信徒生命保險會社油小路七 ○佛教生命保險會社柳馬場 ○六條生命保險會社烏丸 ○日本生命保險會社東區 ○明治生命保險會社三條 ○有隣生命保險會社東區 ○共濟生命保險會社東區 ○帝國生命保險會社柳馬場 ○大同生命保險會社東區 ○愛國生命保險會社東區 ○維新生命保險會社東區 ○日宗生命保險會社東區 ○大阪生命保險會社支店三條 ○仁壽生命保險會社東區

險會社池上○東京火災保險會社京都支店三條○日本火災保險會社京都支店馬場○日本信造火災保險會社京都支店三條○橫濱火災保險會社京都支店馬場○明治火災保險會社京都支店三條

西洋旅館 京都ホテル河原町○都ホテル三條○也阿彌樓園山公

旅館 依屋三條○柘屋同上○澤文三條○松吉御幸町○川六中珠數屋○萬屋三條○日光屋三條○若彦御池北○吉田樓三條○きし田西中○海老屋丸太○花外樓三條○柏亭木屋○大津屋木屋○西村屋三條○玉川樓同上○大可樓同上○富貴樓同上○藤屋魚掛○あこや御幸町○富田屋丸太○平新館三條○米定三條○千切屋三條○木徳三條○近又三條○吉岡屋三條○大津屋同上○山城屋同上○備前屋同上○近太同上○松華樓同上○八百傳同上○龜吉同上○八勘同上○八尾宗同上○菊岡屋同上○樹吉同上○月の家同上○増清同上○澤文支店同上○風峽館同上○三軒屋同上○三友樓同上○菊屋同上○萬屋同上○玄鶴樓同上

料理及飲食店 中村樓八坂○平野家山○左阿彌同上○梅尾八坂同上○瓢亭同上○わらんじや同上○八新亭同上○共樂館同上○みの吉同上○相摸屋同上○木の枝同上○大市同上○阪井屋同上○雞魚生洲同上○万龜樓同上○大寅同上○美濃庄同上○森樹樓同上

西洋料理 東洋亭河原町○松榮亭同上○大成館同上○あづまや同上○發祥軒同上

鶏肉店 菊水先斗町○松葉亭三條○鳥庄七條○末廣御幸町○五徳菴三條○鳥新三條○喜樂同上

牛肉店 御幸軒御幸町○竹亭新町○翁亭同上○松本同上○三島屋同上

蕎麥屋 河道屋小橋○昆張屋二條○小田卷屋新町○井筒屋同上○丁子屋同上○狸庵同上

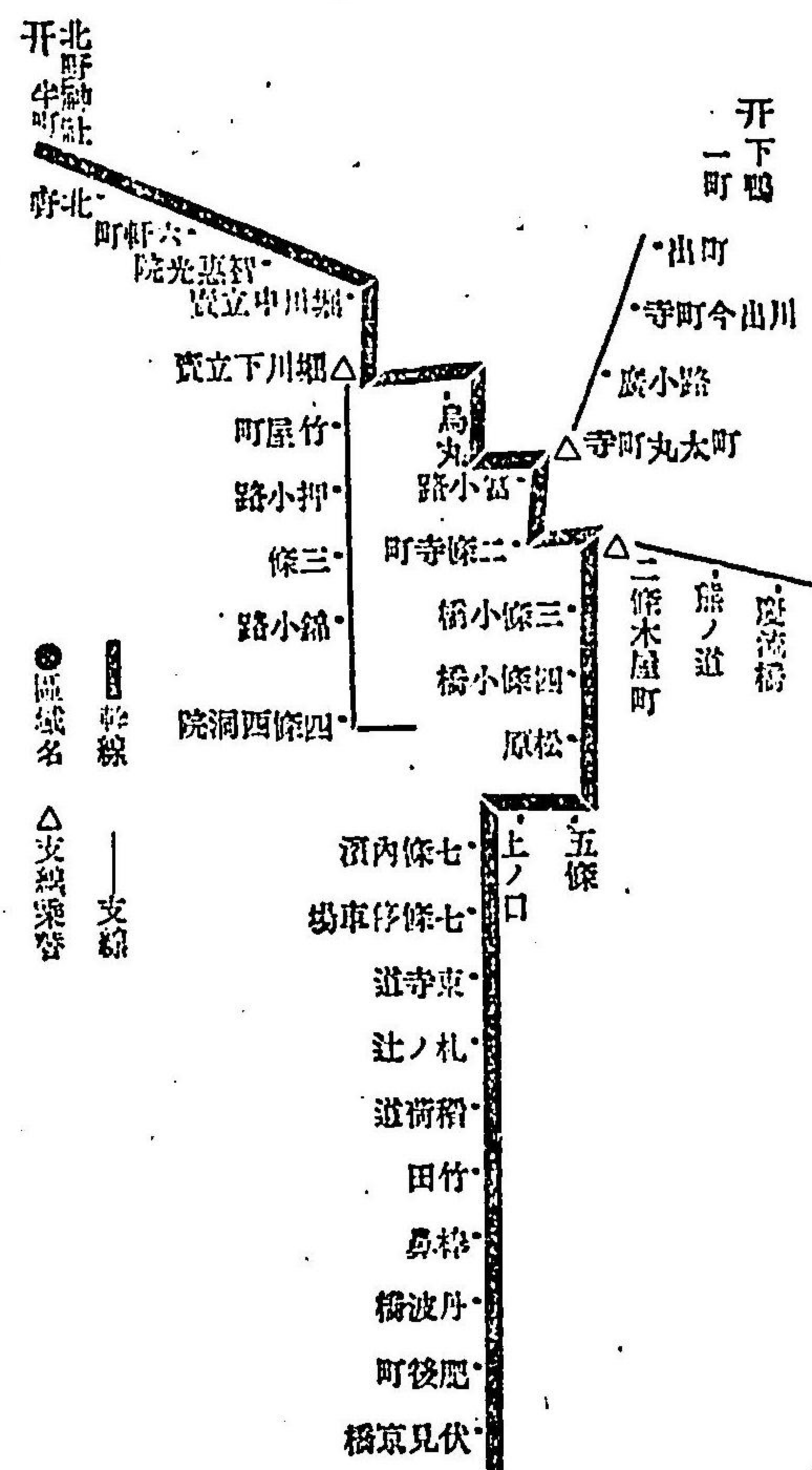
善哉餅 ○錦魚亭新町○丹金同上

菓子商 良則齋同上○末廣同上○若狹屋同上○權路軒同上○笹屋同上○柏屋同上○虎屋同上○道喜同上○吉茂同上○新長同上○桂月堂同上○甘泉堂同上○龜陸奥同上○小川同上

人力車賃錢 三條大橋元○御苑内南門十丁○二條離宮廿二丁○京都府廳廿二丁○圓山噴水同上○八阪神社石段下○知恩院山門前同上○清水寺樓門前同上○大佛方廣寺同上○東福寺北門同上○伏見稻荷神社同上○七條停車場同上○南禪寺山門前同上○紀念殿鳥居前同上○黒谷山門前同上○銀閣寺同上○三宅八幡宮同上○鞍馬寺同上○上加茂神社同上○下加茂神社同上○北野神社同上○大徳寺同上○金閣寺同上

電氣鐵道線路略圖

(詳細は京都市地圖に就て見る)



二十町廿 ○御室山門前 廿四町以内 ○嵐山 九里八町廿 ○上嵯峨 二鳥居 廿五里廿九町 ○高雄紅葉屋前 三里廿七
 三錢以内 ○梅宮神社 廿三錢以内 ○松尾神社 廿九錢以内 ○東寺北ノ門 廿四町十 ○西本願寺表門 廿九町十 ○西大谷 八
 町九錢 ○東本願寺表門 廿三町十 ○東大谷 十五町七 ○樫原 三十三錢以内 ○向日町 三十三町廿 ○伏見京橋 三十三町八
 以内 ○澁大橋 三十三町八以内 ○男山八幡宮 五里十五町 ○宇治橋 三十三町七 ○長岡天満宮 三十三町七
 三條線上
 廣徳橋
 藤ノ道
 二條木屋町
 三條上
 寺町今出川
 廣小路
 △寺町丸太町
 鳥丸
 路小路
 町寺條三
 橋小路四
 原松
 上ノ口
 五條
 酒内條七
 場車停條七
 道寺東
 辻ノ札
 道衛稻
 田竹
 島椿
 橋波丹
 町後肥
 橋京見伏

京都發着汽車時間表

神戸大阪京都間(官線) 明治卅六年一月廿日改正

神戸	大阪	京都	神戸	大阪	京都
着	發	發	着	發	着
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00
10:30	10:00	10:00	10:30	10:00	10:00
11:30	11:00	11:00	11:30	11:00	11:00
12:30	12:00	12:00	12:30	12:00	12:00
1:30	1:00	1:00	1:30	1:00	1:00
2:30	2:00	2:00	2:30	2:00	2:00
3:30	3:00	3:00	3:30	3:00	3:00
4:30	4:00	4:00	4:30	4:00	4:00
5:30	5:00	5:00	5:30	5:00	5:00
6:30	6:00	6:00	6:30	6:00	6:00
7:30	7:00	7:00	7:30	7:00	7:00
8:30	8:00	8:00	8:30	8:00	8:00
9:30	9:00	9:00	9:30	9:00	9:00

社社殿宏壯梅樹多し毎月廿五日參詣頗る多し○平野神社北四官幣大社境内櫻の名種をあつひ四月夜櫻の頃最も雜沓す○金關寺北四足利義滿建造の金關庭園古雅、衣笠山は西に登ゆ○大極殿遺跡北五桓武天皇内裏の趾にして時々古瓦を發掘す○西陣北へ有名の織物産地なり
花園驛 妙心寺一丁花園離宮の趾にて寺内廣潤堂殿完備す神宗臨濟派花園本山なり○御室仁和寺北七眞言宗巨剎櫻花の名所なり○高尾北（人車通す）紅葉の名所、神護寺、和氣清原公の墓、横尾、柳尾、秋霜の頃千萬の楓樹紅を布き觀客群集す○太秦廣隆寺西四聖德太子創建一千餘年の古建造、毎年十月十二日夜半祭頗る奇なり○等持院十町○氣好舊蹟三丁其他名所多し
嵯峨驛 愛宕山北山頂西火除けの神として毎日賽者多し例祭清瀧は避暑の好地、清瀧より八町空也瀧あり高五丈飛龍奔騰萬山皆な震ふ○大覺寺北三嵯峨御所趾にて殿舎壯觀大澤池あり池畔忠女村岡の碑建つ○清涼寺北三國傳來の釋尊參詣者常に多し新田左中將墓、小楠公首塚、仁藤仁齋、東涯の墓近傍にあり○二尊院北四宗兼奉本尊彌陀、釋迦貳尊尊日宅摩法眼作法然上人足引の御影は此寺に傳はる、櫻樹紅葉多し山上に時雨亭あり○常寂光寺北七定家の色紙にて名高し○天龍寺西四臨濟派五山の一洛西の巨刹なり○小督局舊址西四○虚空藏尊六智恵の神にて毎年三月十三日參詣人群集す○嵐山西四大堰川の清流に望み月雪花はいふも更なり四季風光絶佳の名區

とす、川に沿ふて六町大悲閣あり、温泉あり、○松尾神社、梅の宮、西芳寺、桂離宮り二十町○嵐山燒、保津石、櫻木、竹細工を産す
龜岡驛 龜岡舊城三丁明智光秀の築く所○鍛山神社三丁二十天岡山の麓に鎮す○保津十勝園驛より保津の地東北に山を負ひ土地高燥にして空氣清良彼丹波霧の海と稱する朝霧の景最も奇絶の十勝あり應譽寺西へ二穴太寺里中へ一出雲神社北へ一櫻天神里中へ一尊氏旗樹の柳東へ○保津川舟下龜岡驛より東二町保津濱より輕舟に乗れば（八艘十五人乗舟夫四）奇岩重疊怪石羅布、古杉老松急流奔激に映し峡中の奇勝偉觀は筆紙のよく盡す所に非ず
八木驛 園部と龜岡の中間にあり名産桑酒、石材、木材は鐵道開通以來大に販路を廣めたり、○大堰川遊舟、驛より河に近きは第一とす長橋は虹の如く山青く水清くして螢火、鮎漁、舟遊によし
園部驛 園部公園十丁菅原道真公の邸地趾にて中世小出吉親城廓を築く○園部天満宮九丁此地は菅家代々領地にして町の産生神とす○木、石材、大江山酒、桑酒、唐板、松茸、柿、栗、煙草、香魚等名産多し

名勝之部終

第一部 (農業及園藝)

第三類 (製造食品)

菓子	二	一、〇〇〇	京都市七條通大宮南	澤田重太郎	同	三	四、五〇〇	同 黒門通一	久保山幸七
菓子	五	六、〇〇〇	同 松原通壱町東入	山口竹次郎	同	六	六、〇〇〇	同 姉小路通東洞院四入	吉田吉次郎
菓子	三	四、〇〇〇	同 押小路通衣堀四	粟津彦造	同	五	六、〇〇〇	同 寺町通三條四入	樋口由藏
菓子	三	二、五〇〇	同 東入 御池畔町	下邑用三郎	粉	二	二、〇〇〇	同 大和大路通三條南	久川友三郎
菓子	七	七、七〇〇	同 倉東入 四條通高	林常治郎	ハ	一	四、〇〇〇	同 間ノ町通魚ノ堀上ル	二宮泰
菓子	二	一、〇〇〇	同 松原通壱町四入	辻井重之助	鹽豚肉	一	二、〇〇〇	同	同
菓子	四	三、〇〇〇	同 三條通大橋東五丁目	高野和助	煎	五	三、〇〇〇	同 四條通大和路東入	岩吉
菓子	三	三、五〇〇	同 本町通五條下ル	鈴木千太郎	乾餛飩	三	一、〇〇〇	同 新氣橋通三條下ル	車戸嘉三郎
菓子	三	二、九〇〇	同 新町通四條上ル	瀧川駒次郎	煮豆	三	一、八〇〇	同 京極通三條下ル	四戶金藏
菓子	五	一〇、〇〇〇	同 竹屋町通烏丸東入	可直安之助	湯	一	二〇〇	同 四山町	北村象藏
菓子	五	六、〇〇〇	同 四條通油小路四入	吉村良長	葉	六	二、〇〇〇	同 堺町通錦小路西入	越智市治郎
菓子	五	三、九〇〇	同 四中筋七條上ル	大塚彦太郎	物	八	三、五〇〇	同 錦小路通御幸町西入	越智喜三郎
菓子	五	二、五〇〇	同 高介東入 新町通	今井清次郎	白米	一	一、五〇〇	同 東入 七條通本	西岡吉之助

菓子	一	四、〇〇〇	京都市下小路	木村九七	同	三	一、七〇〇	同 寺町通丸太町南入	山川久兵衛
菓子	一	二、五〇〇	同 黒門通四條南入	木村九三郎	同	三	八〇〇	同 聖護院町	西尾爲治
菓子	五	一、八〇〇	同 寺町通竹屋町南入	山崎信吉	同	五	一、八〇〇	同 新町通錦小路上ル	伊藤新次良
菓子	五	三、二〇〇	同 新氣橋通三條上ル	大藤傳次郎	同	三	三、〇〇〇	同 寺町通二條上ル	辻喜之助
菓子	八	八、〇〇〇	同 三條大橋東入三丁目	藤田政次郎	同	七	九、〇〇〇	同 三條通四洞院西入	後藤清助
菓子	八	三、〇〇〇	同 三條通柳馬場東入	伊藤重之助	同	二	三、七〇〇	同 烏丸通七條下ル	岡本仙三郎
菓子	一	四、〇〇〇	同 新町通五條南入	喜多見長兵衛	同	六	三、八〇〇	同 四條通小橋四入	玉水新太郎
菓子	五	五、〇〇〇	同 間屋町通五條下ル	樋口佐七	同	五	三、一〇〇	同 丸太町通烏丸西入	植村常治郎
菓子	八	五、〇〇〇	同 若宮町通魚ノ堀下ル	眞田久吉	同	四	一、五〇〇	同 今出川通寺町東入	野村徳次郎
菓子	五	三、〇〇〇	同 猪熊通四條上ル	加藤福治郎	同	七	七、五〇〇	同 新町通丸太町下ル	岡田與吉
菓子	五	五、五〇〇	同 橋木町通小川東入	三浦伊藏	同	五	五、〇〇〇	同 寺町通錦小路北入	大谷彦平
菓子	八	三、三〇〇	同 四條通大和路東入	青木太兵衛	同	五	三、五〇〇	同 大和路通四條上ル	今西喜次郎
菓子	五	二、七〇〇	同 錦小路通御幸町西入	上田彌三次郎	同	五	三、三〇〇	同 今出川通大宮東入	谷口平兵衛
菓子	五	八、〇〇〇	同 間屋町通五條下ル	玉置虎次郎	同	一〇	三、三〇〇	同	谷口平三郎
菓子	八	四、四〇〇	同 東洞院通高辻上ル	北村清助	同	二	四、〇〇〇	同 寺町通七條北入	久保田儀助

菓	子	一〇	八、七〇〇	同 京都市新町通 綾小路南入	原田 與市	同	四	一、六〇〇	同 油小路通 花屋町下	羽田 益吉	
同	同	五	二、〇〇〇	同 七條通新 町四ノ入	中野源三郎	同	五	二、六〇〇	同 八坂新地 大和路東入	山口九兵衛	
同	同	一	三、〇〇〇	同 川原町二 條上	福田藤三郎	同	五	六、五〇〇	同 旗本寺通 御馬場東入	齋藤 嘉七	
同	同	二	四、五〇〇	同 今山川通 堀川西入	清水三郎兵衛	同	六	一、五〇〇	同 清水三丁 日	杉足吉太郎	
同	同	三	五、〇〇〇	同 烏丸通二 條下	福井新太郎	餓	三	五、五〇〇	同 二條通烏 丸西入	今井 元吉	
同	同	二	六、〇〇〇	同 川端通二 條下	高橋 晋吉	同	五	一、八〇〇	同 三條通東 洞院西入	角替 り代	
同	同	三	七、〇〇〇	同 河原町通 夷川上	加藤 源藏	菓	子	七	四、五〇〇	同 千木通今 出川北入	高田 米吉
同	同	五	二、六〇〇	同 榎手通宮 永町	山本取三郎	餓	頭	三	一、一〇〇	同 三條通東 洞院東入	辻 清助
同	同	五	二、五〇〇	同 三條通大 橋東入	林 猶次郎	菓	子	五	八〇〇	同 寺町通二 條下	白波瀬季次郎
同	同	四	二、五〇〇	同 今山川通 川橋ノ上町	藤井長治郎	同	四	一、五〇〇	同 西堀川通 出水上	今井 安長	
同	同	三	三、一〇〇	同 四條通河 原町西入	安井 正造	同	三	一、三〇〇	同 四條通大 和路西入	林 房次郎	
同	同	一八	五、〇〇〇	同 東洞院通 藥師上	高濱平兵衛	餓	頭	三	一、五〇〇	同 五條通 屋町西入	高橋庄兵衛
同	同	二	四、〇〇〇	同 寺ノ内通 大宮東入	岡本與三郎	同	二	四、〇〇〇	同 西堀川通 下立上	林 駒次郎	
同	同	六	一、八〇〇	同 四條通大 和路西入	奥村小次郎	菓	子	三	一、五〇〇	同	同
同	同	五	四、六〇〇	同 寺町通二 條上	小川 辰造	同	一	二、非賣品	同 新町通 木町南入	松仙菓商會	

菓	子	一三	三、〇〇〇	同 高島町通 高丸西入	横山 長助	同	三	一、五〇〇	同 上町通千木通 上町上	秋岡松之助	
同	同	五	四、六〇〇	同 元十五組 末吉町	下里助次郎	同	四	二、五〇〇	同 河原町通 竹屋町上	林 安三郎	
同	同	三	三、九〇〇	同 三條通白 川橋東	寺田米三郎	同	五	三、九〇〇	同 押小路通 柳馬場西入	谷口勇太郎	
同	同	九	四、〇〇〇	同 寺町通姉 小路南入	石野和三郎	同	三	三、三〇〇	同 七條通東 洞院西入	西野 岩松	
同	同	三	九、〇〇〇	同 東洞院通 四條下	田中 平吉	同	三	二、五〇〇	同 本町通五 條下	寺尾彦三郎	
同	同	三	三、六〇〇	同 御馬場通 高辻上	川端松次郎	同	五	三、三〇〇	同 四風町五 條下	野村治郎助	
同	同	五	一、八〇〇	同 三條通堀 川東入	堀 儀平	同	四	一、〇〇〇	同 荒崎口河 原町西入	木村徳次郎	
同	同	六	五、〇〇〇	同 高倉通四 條南入	茨木庄太郎	同	五	四、二五〇	同 今山川通 寺町西入	北口 庄助	
餓	子	三	五、〇〇〇	同 夷川通宮 町西入	森 藤次郎	煎	茶	一	二、七〇〇	同 川原町通 四條上	野田久次郎
菓	物	八	八、六〇〇	同 小島通 宮小路西入	井ノ口 萬助	煎	茶	一	三、〇〇〇	同 寺町通押 小路下	加藤敬次郎
同	同	四	二、六〇〇	同 三條通大 橋東入	藤田政治郎	同	一	一、五〇〇	同 寺ノ内通 大宮東入	長澤治兵衛	
同	同	四	三、〇〇〇	同 千木通中 立賣下	山上幾次郎	同	二	七、八〇〇	同 川端通夷 川上	中川定次郎	
同	同	五	三、四〇〇	同 魚棚通佛 具屋町	近藤半四郎	同	一	二、四〇〇	同 三條通堀 川東入	溝口清太郎	
同	同	三	一、六〇〇	同 東木屋町 松原上	赤井 萬助	同	一	二、四〇〇	同 同ノ町通 二條上	江口 滿藏	

同	煎	茶	一	六、六〇〇	同 京都市大宮通 八條下	小澤清八	同	一	二、一〇〇	同 下長者町 淨福寺東入	吉雄留吉		
薄	煎	茶	一	四、五〇〇	同	同	同	二	七、九〇〇	同 姉小路通 烏丸東入	川島正四郎		
煎	茶	一	二、四〇〇	同 千本通寺 内下	小西晋吉	薄	煎	茶	一	八、〇〇〇	同	同	
同	同	同	一	二、四〇〇	同 本町十六 丁目	上野辨次郎	煎	茶	二	九、六〇〇	同 綾小路四 洞院東入	杉本新左衛門	
同	同	同	一	二、一〇〇	同 下立賣通 堀川西入	川瀬善七	薄	煎	茶	一	五、四〇〇	同	同
同	同	同	二	六、六〇〇	同 松原通寺 町東入	山田種次郎	同	同	一	一、九〇〇	同 七條通油 小路東入	小西新三郎	
同	同	同	一	二、一〇〇	同 四堀川出 水上	加納ウノ	同	同	一	一、九〇〇	同 烏丸通二 條下	松岡市兵衛	
同	同	同	一	一、七〇〇	同 寺町英川 上	石刺英次	同	同	一	二、五〇〇	同 四條通油 小路西入	土田乙三郎	
同	同	同	一	二、四〇〇	同 千本通中 立賣下	田中繁三郎	煎	茶	一	二、五〇〇	同 三條通大 橋東四丁目	岡本龜次郎	
同	同	同	一	二、四〇〇	同 衣通通三 條上	高田定次郎	同	同	一	二、七〇〇	同 大馬通 七條上	橋本要松	
同	同	同	一	二、三〇〇	同 下長者町 黒門西入	山川親之助	同	同	一	二、七〇〇	同 大宮通寺 内下	森金治郎	
同	同	同	一	二、一〇〇	同 大宮通一 條北入	藤原庄太郎	同	同	二	〇、八〇〇	同 富小路通 御池上	倉田傳兵衛	
同	同	同	一	三、〇〇〇	同 三條通四 洞院西入	佐々木喜市	同	同	一	一、八〇〇	同 新町五條 北入	芦田利七	
同	同	同	一	一、八〇〇	同 四堀川下 長者町上	森幸次郎	煎	茶	一	一、三〇〇	同	同	
同	同	同	一	二、四〇〇	同 姉小路通 堀川西入	中藤源助	煎	茶	二	九、五〇〇	同 柳馬場通 綾小路南入	美濃部春三	

煎	茶	一	二、七〇〇	同 寺町通 堀原南入	池内佐七郎	紅	煎	茶	一	一、八〇〇	同 五條通 堀原南入	藤川清太郎
同	同	二	六、九〇〇	同 建仁寺五 條南入	西内彌太郎	同	同	一	三、〇〇〇	同 寺町通二 條北入	渡邊辰三郎	
同	同	一	二、四〇〇	同 上珠敷屋 町東洞院西入	雄谷善四郎	煎	茶	一	三、〇〇〇	同	同	
同	同	一	二、五〇〇	同 新町通魚 柳下	澁谷甚三郎	同	同	二	六、九〇〇	同 東洞院松 原上	早藤ツネ	
同	同	二	六、九〇〇	同 油小路御 前通上	橋本庄之助	同	同	一	三、〇〇〇	同 四堀川下 立賣上	山川彦太郎	
薄	煎	茶	一	七、五〇〇	同 上珠敷屋 町東洞院角	奥村庄兵衛	同	同	一	二、七〇〇	同 三條通新 町東入	秋山覺治郎
煎	茶	二	二、四〇〇	同	同	紅	煎	茶	一	二、四〇〇	同	同
同	同	一	二、七〇〇	同 上ノ口通 高瀬西入	清水甲子太郎	同	同	一	三、〇〇〇	同 久世郡宇治町 宇白川	服部鐵之助	
同	同	二	八、〇〇〇	同 堀川通松 原北入	野田彌兵衛	同	煎	茶	一	二、七〇〇	同 久世郡宇治町 宇白川	藤川市左衛門
同	同	一	二、七〇〇	同 五條通 堀原南入	福山吉三郎	煎	茶	一	二、七〇〇	同 宇治町 宇白川	服部瀧三郎	
同	同	一	二、四〇〇	同 柳馬場通 綾小路上	美濃部光之助	同	同	一	三、〇〇〇	同 宇治町 宇白川	山本甚三郎	
同	同	二	三、九〇〇	同 花屋町通 四洞院東入	北川松治郎	同	同	二	二、一〇〇	同	松阪嘉八	
紅	煎	茶	一	一、八〇〇	同	同	同	二	三、九〇〇	同	高井兵六	
煎	茶	二	七、三〇〇	同 大和大路 通五條北入	堤嘉七	同	同	二	四、二〇〇	同 宇治郡 通圓甚左衛門	藤井傳次郎	
同	同	二	五、一〇〇	同 五條通 堀原南入	藤川清太郎	同	同	一	三、〇〇〇	同	藤井傳次郎	

同	煎	茶	二五,000	久世郡字治	辻利兵衛	薄	茶	一七,500	同字治町字	阪部卯之助
同	薄	茶	一七,500	同	寺川秀三郎	煎	茶	二四,000	同字治	上林春松
煎	茶	一八,000	同	同	同	薄	茶	一九,000	同	同
同	煎	茶	一三,000	同	森幸太郎	煎	茶	二一,000	同字治町	増井佐兵衛
同	同	一八,000	同字治町	二村福次郎	同	同	一七,500	同	同	上林道之丞
薄	茶	一三,000	同	中村藤吉	煎	茶	二四,000	同	同	同
煎	茶	二二,900	同	上林三入	同	薄	茶	一三,000	同	井上政吉
薄	茶	一三,000	同	同	煎	茶	一七,500	同	同	寺川太三郎
煎	茶	二二,500	同	山田庄三郎	薄	茶	二九,000	同	同	大川米吉
同	同	二八,000	同	辻利助	煎	茶	一三,000	同	同	堀田喜三郎
同	同	二二,000	同	森五兵衛	同	同	二二,000	同	同	入江宗太郎
同	同	二二,600	同	岩井勘造	同	同	二一,000	同	同	田畑龜次郎
同	同	一,500	同	田原徳次郎	同	同	二,000	同	同	田畑久吉
同	同	二,100	同字治町字	阪部卯之助	同	同	二,100	同	同	池垣政之助

煎	茶	一三,500	久世郡寺田村	太田文次郎	煎	茶	一四,000	同	久世郡小倉村	北川彌三郎
同	同	二,250	同	木村由松	同	同	二一,000	同	同	天野庄次郎
同	同	一三,500	同	齋藤磯次郎	同	同	一,900	同	同	角田光之助
同	同	二,500	同	道本直三郎	同	同	二九,700	同	同	角田安治郎
同	同	二,500	同	柴田卯之助	同	同	二,100	同	同	北川長左衛門
同	同	三,250	同	山本定吉	同	同	二,400	同	同	小林助次郎
同	同	一,800	同	北村茂平治	同	同	二九,600	同	同	上田源兵衛
同	同	二,400	同	黒川傳治郎	同	同	二九,500	同	同	内川伊太郎
同	同	二,400	同	土井安吉	同	同	二八,000	同	同	能勢孫市
同	同	二,700	同	今西源之助	同	同	二,250	同	同	角田定次郎
同	同	二,400	同	青田宗三郎	同	同	二九,300	同	同	笠井重吉
同	同	二,550	同	里村善治郎	同	同	二二,500	同	同	北川半兵衛
同	同	三,000	同	西川熊次郎	同	同	二九,300	同	同	辻庄太郎
同	同	二,700	同	上野千吉	同	同	二二,400	同	同	木下喜兵衛
同	同	二,400	同	濱田甚三郎	同	同	二九,300	同	同	久保田源七

煎茶	二	九,三〇〇	久世郡小倉村 宇伊勢田	小山久兵衛
同	二	九,三〇〇	同	池本甚次郎
同	二	三,四〇〇	同	森本安之助
同	二	九,六〇〇	同	木下忠太夫
同	二	九,六〇〇	同	木下治兵衛
同	二	九,二〇〇	同	小山政次郎
薄茶	一	四,八〇〇	同	同
煎茶	二	二,七〇〇	同	小山久次郎
同	一	八,四〇〇	同久津川村 宇平川	北村八右衛門
同	一	九,〇〇〇	同	北尾吉左衛門
同	二	三,〇〇〇	同	北村繁次郎
同	一	非賣品	同	村井房次郎
同	一	非賣品	同	斯波紋次郎
同	一	七,五〇〇	同久世	三村清助
同	一	九,〇〇〇	同宇津屋	菊岡光太郎
煎茶	一	三,〇〇〇	同久世郡久津川村	北口辨治
薄茶	一	三,〇〇〇	同	北尾仙吉
同	一	六,〇〇〇	同	信貴半十郎
同	一	三,五〇〇	同	西村作太郎
同	一	三,五〇〇	同	平馬兵左衛門
煎茶	二	二〇,八〇〇	同富野莊村 宇宮野	中川喜二三
同	二	六,八〇〇	同	林清兵衛
薄茶	一	四,八〇〇	同	同
煎茶	一	九,〇〇〇	同宇野堂	上田新太郎
同	一	九,〇〇〇	同宇宮野	中川幾太郎
同	二	九,九〇〇	同御牧村宇 御牧	曾東馬次郎
薄茶	一	三,五〇〇	同	中木松右衛門
珈琲糖	二	七,五〇〇	同	宮本千之助

第一部(農業及園藝)

第六類(農業及農産製造器具)

桑切庵丁

桑切鎌

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

養蠶器

第一部(農業及園藝) 第七類(園藝)

石燈籠

大石

水盤

松

加茂川石

同

同

同

同

同

同

同

第二部(林業) 第九類(林産物)

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

●第三部(水産) 第十三類(水産製造) 第十五類(養殖) ●第四部(探礦及冶金) 第十七類(礦物及土石)

竹	一	一〇〇〇	京都市柳馬場 山内政吉	横山 榮
北山丸太	一四	五、〇〇〇	同 四洞院 西山彌太郎	
北山杉完木	三	三、〇〇〇	同 大宮通寺ノ 山本治兵衛	
生 漆	七	七、〇〇〇	同 鳥丸通錦 加藤小兵衛	
懷爐灰	貳	五、〇〇〇	同 四三本木 辻久米祐	
炭 粉	一	三、〇〇〇	同 三條通柳 伊藤重之助	
第二部 (林業)				
第十類 (林業ノ方法)				
臺杉株木	三	三、〇〇〇	京都市西洞院 西山彌三郎	
第二部 (林業)				
第十一類 (林業器具)				
鋸	二	四、五〇〇	京都市小川通 三木七右衛門	
同	三	五、三〇〇	同 寺町通松 小阪益次郎	
同	一	一、〇〇〇	同 松原通堺 吉田長兵衛	
同	三	七、七〇〇	同 松原通新 山内政吉	
第三部 (水産)				
第十二類 (漁業)				
投 網	一	三、五〇〇	京都市二條通 岡島常五郎	
擬餌釣	三	四、〇〇〇	同 八條通大 山内重助	
漁業用釣糸	三	四、〇〇〇	同 松原通新 山中嘉兵衛	
釣 糸	七	一、二〇〇	同 金邊通下 同業組合	
打 網	一	三、八〇〇	同 松原通木 山本己之助	
柿 澁	一	三、〇〇〇	同 河原町通 水谷新助	
釣 竿	二〇	三、〇〇〇	同 大宮通寺 西村伊之助	
釣 針	五	九、〇〇〇	同 油小路通 加藤重吉	
同	一	八、〇〇〇	同 大宮通松 芝原市兵衛	
第十三類 (水産製造)				
魚切庖丁	一	四、八〇〇	京都市五條通 湯淺七左衛門	
蒲 鉾	五	三、四〇〇	同 大和路 淺田嘉助	

銚 蒲	二	三、〇〇〇	京都市五條大 淺田和三郎	昆 布	二	八、五〇〇	京都市出水通 山岡寅次郎
同	四	六、〇〇〇	同 松原通鉄 高田菊五郎	同	二	八、〇〇〇	同 今出川通 竹下勇吉
同	二	六、〇〇〇	同 松原通蜜 丹羽常七	同	四	一、三〇〇	同 丸太町通 田村藤吉
同	四	八、〇〇〇	同 小堀通延 嘉田萬吉	同	三	一、五〇〇	同 松原通鉄 藤田市松
同	三	五、〇〇〇	同 五條通大 吉田元市	同	一	一、〇〇〇	同 四堀川通 木村半次郎
同	三	五、〇〇〇	同 錦小路通 松井新太郎	同	四	一、三〇〇	同 五條通四 橋詰彌助
同	五	一、三〇〇	同 錦小路通 加藤福太郎	同	二	八、〇〇〇	同 出町通柳 伊藤佐助
同	三	八、〇〇〇	同 柳馬場角 池田常次郎	同	五	一、三〇〇	同 大和路 西村幸七
棒鱈松魚煮	一	三、〇〇〇	同 四山町 北村象藏	蒲 鉾	四	一、四〇〇	同 寺町通二 三浦新三郎
鮎 蚌	一	一、〇〇〇	同 錦小路高 西田清兵衛	第三部 (水産)			
青海苔粉	一	六、〇〇〇	同 三條通柳 伊藤重之助	第十五類 (養殖)			
鯛味噌	一	一、八〇〇	同 寺町通竹 山崎信吉	加茂川産	一	一、五〇〇	京都市大和路 淺田嘉助
鯛田麩	二	二、〇〇〇	同	第四部 (探礦及冶金)			
鯨 箱詰	四	三、三〇〇	同 新京極通 大藤傳次郎	第十七類 (礦物及土石)			
昆 布	五	二、〇〇〇	同 高倉通錦 石井彌三郎	布紙製赤	三	四、〇〇〇	京都市三條大 俣野彌三郎
			同 小路北入	黒磨研紙	三	四、〇〇〇	同 橋東入三丁目

●第三部(水産) 第十三類(水産製造) 第十五類(養殖) ●第四部(探礦及冶金) 第十七類(礦物及土石) 一三

黒田人造金	三、五、五〇	京都市同ノ町	黒田金剛砂	及全	一八、五〇	京都市堀川	小寺久兵衛
砥石	五、一四〇	同 東洞院通	並川彌助	同	三〇、七〇	同 松原通	福田重助
金剛砂砥石	三、一五〇	同 寺町通五	龜谷龜次郎	同	五〇、四七〇	同 松原通	岩坪五兵衛
大工用合砥	二、六〇〇	同 三條通寺	服部伊兵衛	同	五三、八八〇	同 御幸町通	堀新太郎
合砥石丸形	一、三、五〇	同 兩替町通	殿堀芳兵衛	同	七、代價不明	同 同町八	俵政太郎
第四部 (探礦及冶金)							
第十八類 (冶金製品)							
金銀箔	七、五	京都市松原通	河本喜兵衛	銅	四、非賣	同 同町五	小野佐七
白銅伸板	七、七、四〇	同 孫崎通	岡田庄太郎	同	六、三〇	同 堺町通	富江八十平
銅線及鉛銅	二、一、三、四〇	同 松原通	三谷卯三郎	同	五、五、七〇	同 京都市岩上通	北村岩太郎
黃銅線	二、六、八、五〇	同 楊梅通	村上儀兵衛	同	二、七〇	同 三條通	橋本定次郎
洋白及真	六、八、〇〇〇	同 小川通	坂本菊次郎	同	二、八、五〇	同 堺町通	山下半兵衛
特許	二、二、五〇	同 新町通	原拾三郎	同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎
炭製	二、四、五、五〇	同 同町通	可兒彦次郎	同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎
金銀箔	二、四、五、五〇	同 同町通	可兒彦次郎	同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎
及全	二、四、五、五〇	同 同町通	可兒彦次郎	同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎
同	四、五、三、八、七〇	同 高倉通	鈴村金治郎	同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎
第五部 (化學工業)							
第二十類 (化學製品)							
香水、齒磨	五、二、七〇	京都市岩上通	北村岩太郎	無鉛製法	二、四、二、〇〇	同 大和通	岩田幸七
千代椿香油	三、二、七〇	同 三條通	橋本定次郎	各種ニ	一、一、四、〇〇	同 本町通	勝見新助
白粉茶井晒	四、二、八、五〇	同 堺町通	山下半兵衛	白紋及種油	二、三、〇	同 同町疏水	山城製油
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	單寧酸	二、五、一〇〇	同 本町二丁	川道佐一郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	特許靈液	一、六〇〇	同 東竹屋	中村嘉吉郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	日ノ出ニス	二、六〇〇	同 河原町通	福住清兵衛
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	胡粉	四、二、〇〇〇	同 東洞院通	上羽ヒデ
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	人造給具	二〇、三、五〇	同 油小路通	福井治三郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	蠟燭	三、五、五〇	同 木屋町三	吉田傳次郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	製漆各種	四、六〇〇	同 新町通	木村吉三郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	同	七、九、六〇	同 佛光寺通	鹿田彦藏
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	同	七、七、七〇	同 二條通	葛川助次郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	同	七、二、〇〇	同 松原通	内田佐太郎
同	四、二、八、五〇	同 同町上	藤本喜三郎	同	七、一〇、〇〇	同 同町上	井上助七郎

千代の粉	三、二、〇〇	同 同町上	木田万右衛門	香油花	三、九、六〇	同 同町上	福井庄次郎
若松白粉	四、三、〇〇	同 同町上	藤本茂兵衛	無鉛製法	二、四、二、〇〇	同 大和通	岩田幸七
小町白粉	四、三、〇〇	同 同町上	織田香吉	各種ニ	一、一、四、〇〇	同 本町通	勝見新助
名芳油	三、一、七〇	同 同町上	西川幸太郎	白紋及種油	二、三、〇	同 同町疏水	山城製油
香油玉椿	三、三、〇	同 同町上	三上竹藏	單寧酸	二、五、一〇〇	同 本町二丁	川道佐一郎
小町紅白粉	二、非賣	同 同町上	木村平兵衛	特許靈液	一、六〇〇	同 東竹屋	中村嘉吉郎
龍印齒磨	三、三、五〇	同 同町上	長岡清助	日ノ出ニス	二、六〇〇	同 河原町通	福住清兵衛
京にしき	二、二、五〇	同 同町上	林傳兵衛	胡粉	四、二、〇〇〇	同 東洞院通	上羽ヒデ
石鹼	一、一、八〇	同 同町上	山本龜松	人造給具	二〇、三、五〇	同 油小路通	福井治三郎
サンライズ	一、三、〇〇	同 同町上	倉橋芳太郎	蠟燭	三、五、五〇	同 木屋町三	吉田傳次郎
發付油	三、三、〇〇	同 同町上	中井文助	製漆各種	四、六〇〇	同 新町通	木村吉三郎
洗粉、齒磨	五、一、八〇	同 同町上	中西真吉	同	七、九、六〇	同 佛光寺通	鹿田彦藏
都紅、白粉	四、二、五〇	同 同町上	西田清右衛門	同	七、七、七〇	同 二條通	葛川助次郎
軍人齒磨	四、二、七〇	同 同町上	清水秀太郎	同	七、二、〇〇	同 松原通	内田佐太郎
薰香	二、二、三、〇〇	同 同町上	負野小左衛門	同	七、一〇、〇〇	同 同町上	井上助七郎

製造各種	七	一〇〇	同 京都市御幸町	岡本 專助	清酒都酒	全	六〇	同 京都市三條通	安田貞一郎
里没那埜	二	五〇	同 二條通馬	中村乙治郎	清酒都酒	全	六〇	同 白川橋東入	野村爲次郎
扇印ラムネ	一	六〇	同 大和路	田中 豊吉	清酒都酒	全	六〇	同 三條通大	大橋 彌七
里没那埜	二	三〇	同 御馬場通	上田彌兵衛	清酒同菊	一	二〇	同 三條通大	森口長七
笠置炭酸	一	一五〇	同 寺町通二	登美兄弟商會	清酒長壽菊	全	五〇	同 御馬場通	杉井 時藏
リモナーデ	一	一五〇	同 二條通馬	掛見 繁松	清酒正宗	二	五〇	同 小川路四入	秋山太兵衛
工業用藥品	五	一五〇	同 西洞院通	車戸 亦吉	清酒程よし	二	五〇	同 古門前通	安田善五郎
化學用磁器	三	七〇	同 五條通橋	入江 道仙	清酒玉風	一	二〇	同 黒門通一	松井 治助
硝酸蒸餾器	八	一八〇	同	高山順太郎	清酒千代の松	二	五〇	同 河原町通	大八木徳三郎
硝酸冷却器	三五	一三〇	同 五條通橋	辨山愛太郎	清酒銘調	二	五〇	同 小川路通	村井彌市郎
蜜柑水其他	三	五〇	同 松原通寺	伊吹長三郎	清酒銘調	二	五〇	同 小川路通	大八木徳三郎
リモナーデ	二	三〇	同 御馬場通	柳本平兵衛	清酒正宗	一	二〇	同 三條通白川橋	堀野 久造
第五部 (化學工業)					清酒金鷲正宗	二	五〇	同 堺町二條	堀野 久造
第二十一類 (釀造品)					清酒出世長	二	五〇	同 上長寺町	堂本伍兵衛
					清酒賞菊	二	五〇	同 小川路入	渡邊安次郎
					清酒商戰	二	五〇	同 下立賢通	岡本忠兵衛
					清酒銘真豊	二	五〇	同 耳塚通七	岡本忠兵衛

種苗販賣

農用種子園藝用種苗果樹苗
草花園用材種苗百合其他他
來植物球根類改良其具各種
肥料製備用切花盛花頭調造

目録定價表は御申越し次第進呈仕候

園藝新誌 毎月一回 五日發行

京都府 京都市 衣櫛丸を町

種苗商 京都農園

園自茶

東院洞西路小綾市都京

鋪茶園丘三本杉

番五十八百八話電

(郡是式) 警忠種

長巢又昔 一名 (白綾)

此種ハ郡是製糸會社ヲ始メ各製糸家ノ尤モ歡迎スル處ノ良種ナリ

丹波國綾部町

開進會蠶種部

主事 西村源之助

各國 煙草製造

各地 刻卷煙草大販賣

京都市三條大橋東詰

◎ 芝野本店

電話 五八五番

全 市千本今出川上ル

◎ 同分店

電話 架設中



銅牌受領

海陸空 警忠種 製造所 山崎本店

京都市寺町通竹屋町

山崎本店

全 大宮通り寺ノ内南

山崎分店



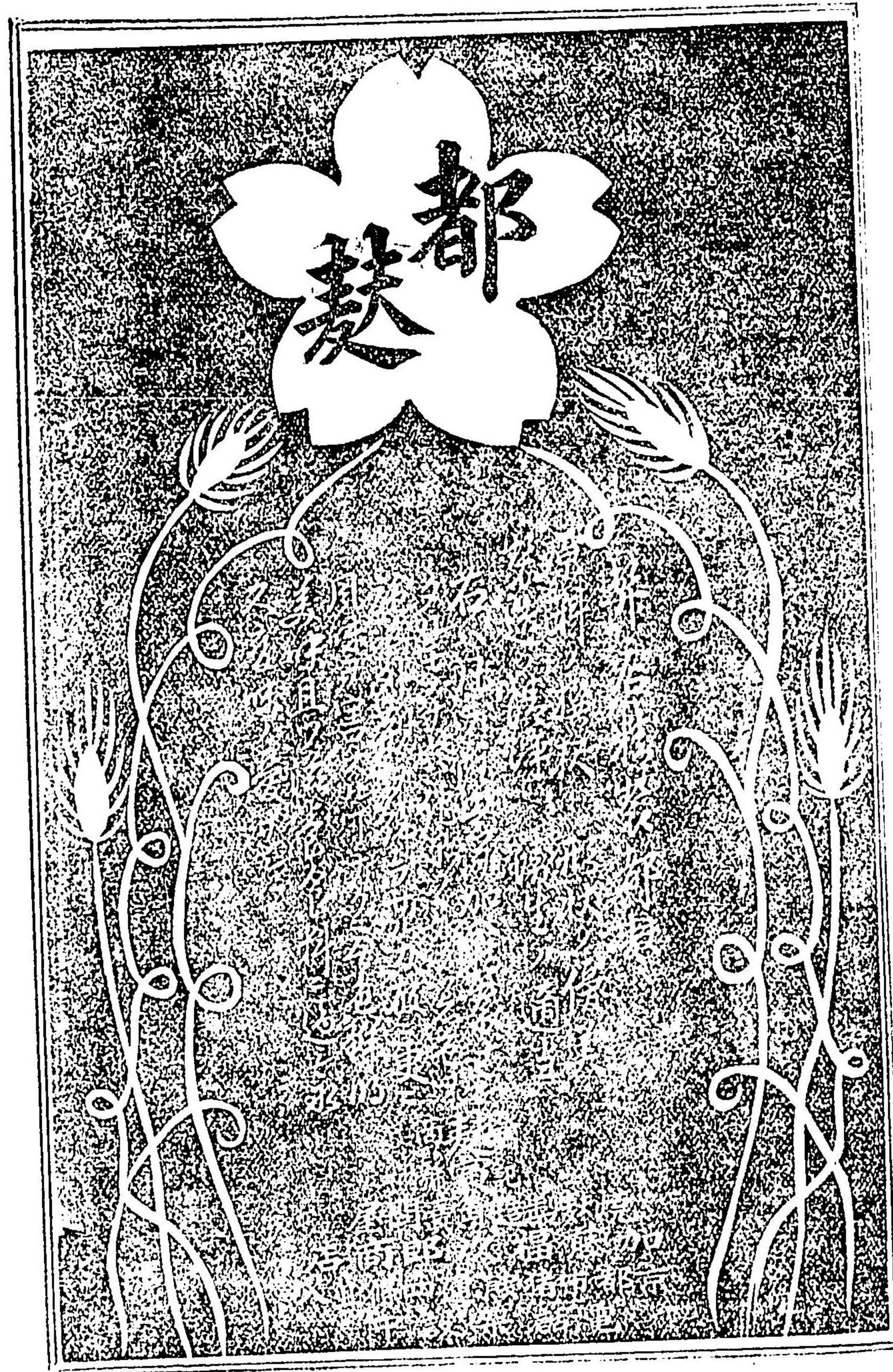
第四回国内勸業博覽會有功賞牌

京都名産 かぶら千枚漬
 加茂川名産 鷺しらず
 鮮製 鯛み
 内料外品 罐詰燻詰各種
 キリンビール特約販賣

ル上錦極京新市都京

店商藤大

番零九四壹話電



第 四 回 内 國 勸 業 博 覽 會 有 功 賞 牌

京 都 名 産 か ぶ ら 干 枚 漬

加 茂 川 名 産 鱈 し ら ず

鮮 製 鯛 み ろ

内 外 國 食 料 品 鐘 詰 罎 詰 各 種

キ リ ン ビ ー ル 特 約 販 賣

京 都 市 新 京 極 錦 上

大 藤 商 店

電 話 四 九 九 番



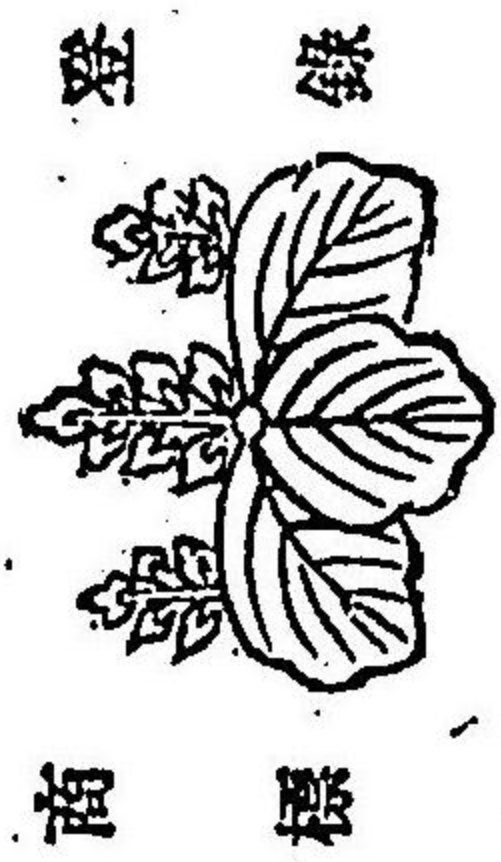
八ッ橋ノ由來

昔シ三河國野路驛ニ羽田玄喜ト云フ醫者アリ初老ニモ満タズシテ死去セシガ家財豊ナラザリシカハ妻ハ山ニ入テハ薪ヲ採リ海ニ出テハ藻ヲ刈ル等辛苦ヲ嘗メツ、遺兒ヲ養育シアリシガ兄ハ歳弟五歳ノ時母ハ例ノ如ク向岸ニ海苔ヲ採リテ出テ行キシニ子ハ母ノ跡ヲ慕ヒ河流ニ入リシニ水急ニシテ兩兒トモ溺レ失セタリ母ハ斯クト見ルヨリ狂ニ計リ嘆キ悲シメトモ其詮ナク遂ニ同地無量寺ニ入り髮ヲ剃リ名ヲ師孝尼ト號シ朝夕其子ノ冥福ヲ祈レリ又嘆キ余リ若シ此河ニシテ橋アリシナラバ我子モ今ニ無事ナリシナランニ橋ナキ爲メ此悲哀ヲ致セシナレバ亡兒追善ノ爲メ且ツハ世人往來安全ノ爲メニセントテ此架橋ノ念ヲ起シ一心本尊所願ノ効空カラズ成夜ノ夢想ノ告ニ依テ入江ノ浦ニ流レ漂フ木材ヲ見出シ村人等ノ架シケラ借テ之ヲ拾ヒ取リ蜘蛛ノ手ノ如キ流リニ橋ト稱セリ時ハ人皇第五十四代 仁明天皇ノ御代承和九年壬戌五月ナリキ

我祖此逸話ヲ聞キ師孝尼ノ志ヲ憫ミ弘ク且ツ永ク此美事ヲ世ニ傳ント欲シ八ッ橋ニ模シテ菓子ヲ製シ之ヲ八ッ橋ト名ケタリ是レ八ッ橋起因ノ概要ニシテ爾來幾百年幾十代ノ久キ連綿トシテ業務相襲キ内地ハ勿論廣ク海外迄モ販路日増ニ擴張ヲ得ルニ到レルハ一ニ江湖諸君ノ愛顧ニ依ルハ論ナキモ抑モ亦八ッ橋由來ノ縁ナキニシモアラサルベキカ謹テ誌ス

- | | |
|---------|-----------|
| 太白片栗粉 | 菓子種粉 |
| 薯蕷粉餅粉 | 米利堅粉各種 |
| 浮粉わらび粉 | 白赤晒あん |
| 道明寺糯落雁粉 | カルカン粉玉あられ |
| 角寒天ケシ種 | 青海苔青粉 |
| 薄板厚板 | 食料繪具各種 |
| 菓子用萬粉類 | 其他附屬品 |

右從來營業罷在候處華主各位ノ御愛顧ニ依リ日増ニ繁榮仕候段奉感謝候旨一層奮勉可仕候ニ付備ニ御引立之程奉希上候



京都三條通柳馬場東入
製菓原料販賣業
伊藤重之助
(電話番七十七番)

宮内省御用品

内國最初

他國無類



京都名産

白豌豆

御進物用 罐詰箱詰各種

并 諸煎豆種々

京都市今出川通船橋側

總本家 清水三郎兵衛



清水 乃 清

花まんぢう

餅一式

并 御菓子

京都市 三條通東洞院西

清水乃清本店

特電九五四番

品用御省內宮

內國最初

他國魚類



京都名產 白蠟豆

御進物用 罐詰箱詰各種

并ニ諸煎豆種々

京都市今出川通船橋北側

總本家 清水三郎兵衛



乃

餅二式
御菓子
京都市
三條通東洞院西
乃乃乃乃

格電九五四番

御菓菓子司

京都市蛸薬師通境町角

力加ゆしり



KAMEYA YOSHINORI.
CONFECTIONER.
TAKOYAKUSHI-SAKAMACHI.
KYOTO.

電話二三七番

御倉屋

豊田時計舗

京都市烏丸三條南

電話七百七十九番

TRADE MARK

歐米流形洋販賣
確實正價

京都市寺町通二條北入

内藤鶴壽堂



TRADE MARK

喰



特電話八十五番

京都市寺町通二條北入

小川堂

歐風洋菓子



京都名産
加好種
元祖 淀屋漬
内外國産食料品
罐詰諸漬物商
京都新京極通六角南入
濱口珍品堂

第四回内國勸業博覽會褒狀
第一回全國菓子品評會金牌
第二回全國菓子品評會金牌
内國製産品共進會金牌
五二會全國品評會有功銀牌
全國製産品博覽會銅牌
創設廿五年紀念博覽會進步銅牌
全國貿易品博覽會銅牌
五二會物産品評會銅牌



京都名産
新町角
柏光堂

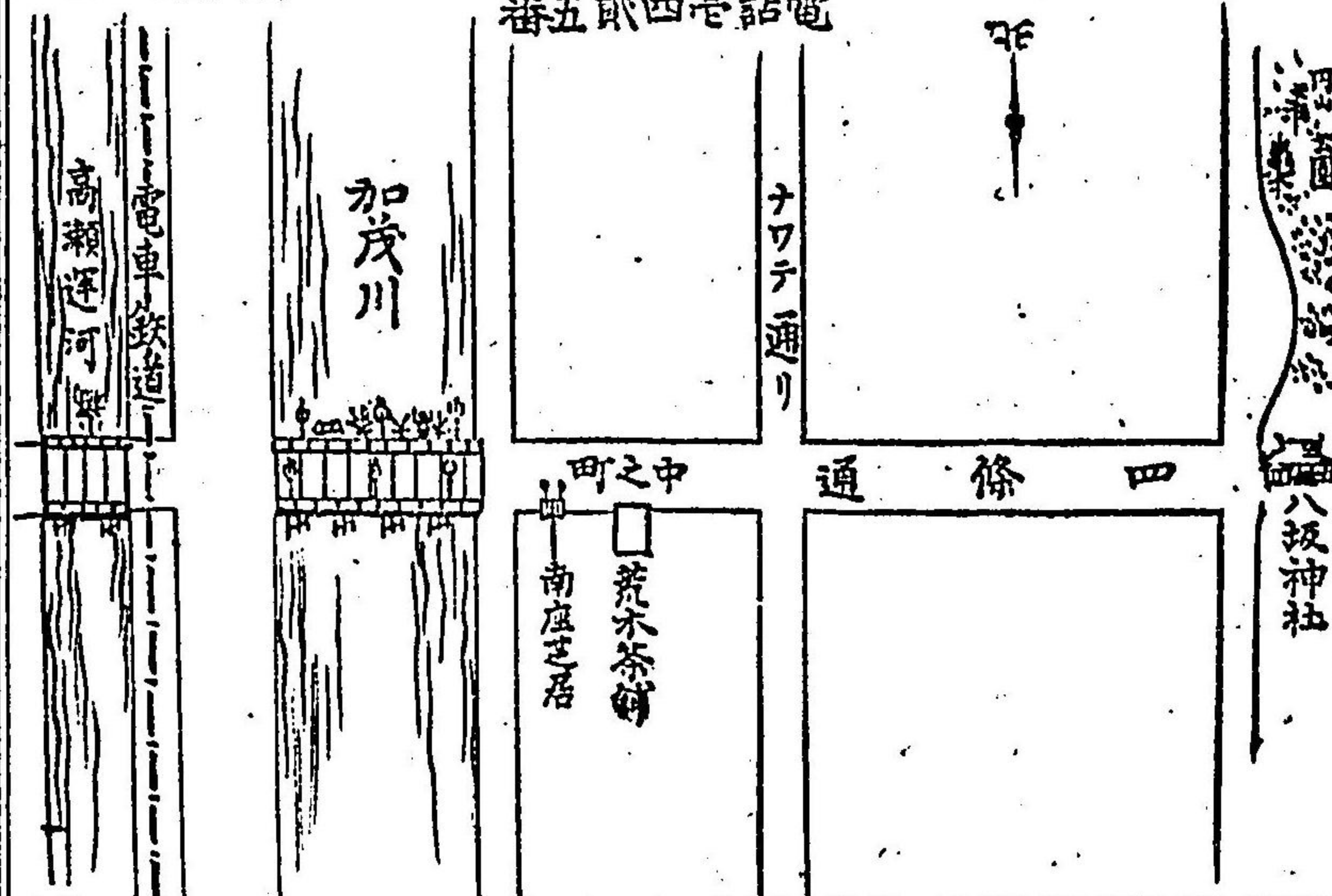
文房具製茶舖

御注文に從ひ各種御利便に取扱申候

三工堂荒木商店

京都四條通西入電話四零五番

京都四條通 山城屋荒木茶舖 大橋東江入
電話四零五番



STATIONER, TEADEALER.

(SANKODO).

T. Araki.

Shijo Nawate,

KYOTO, JAPAN.



1,30



刻卷煙草製造販賣

國分煙草

中川彦次郎

京都市油小路七條上米屋町

電話六零七番

1,10

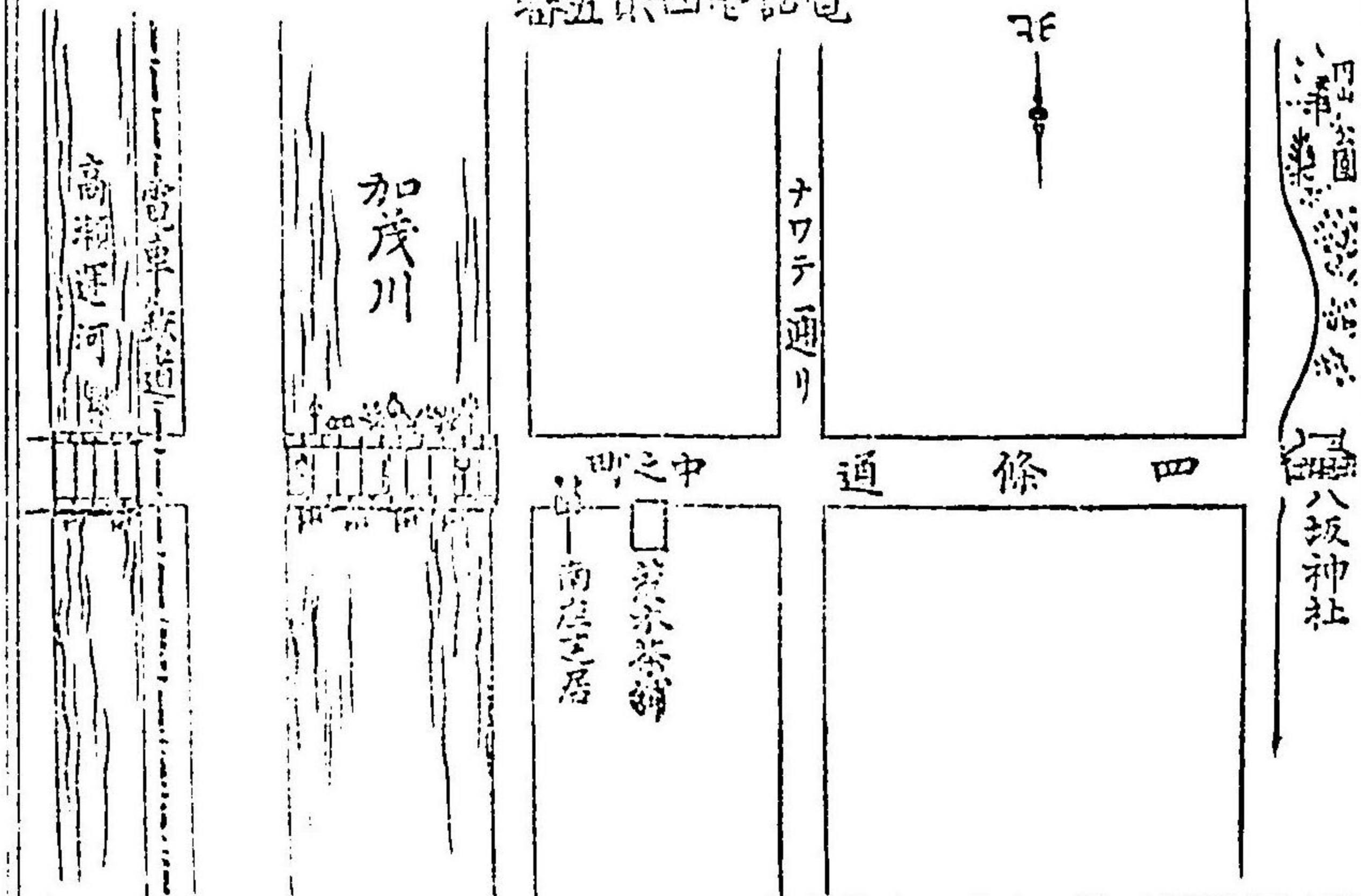
文房器具茶舖

御法文に從ひ各種御利便に取申候

三工堂荒木商店

京都四條通西入電話四零五番

京都四條通 山崎屋茶舖 大橋東江入



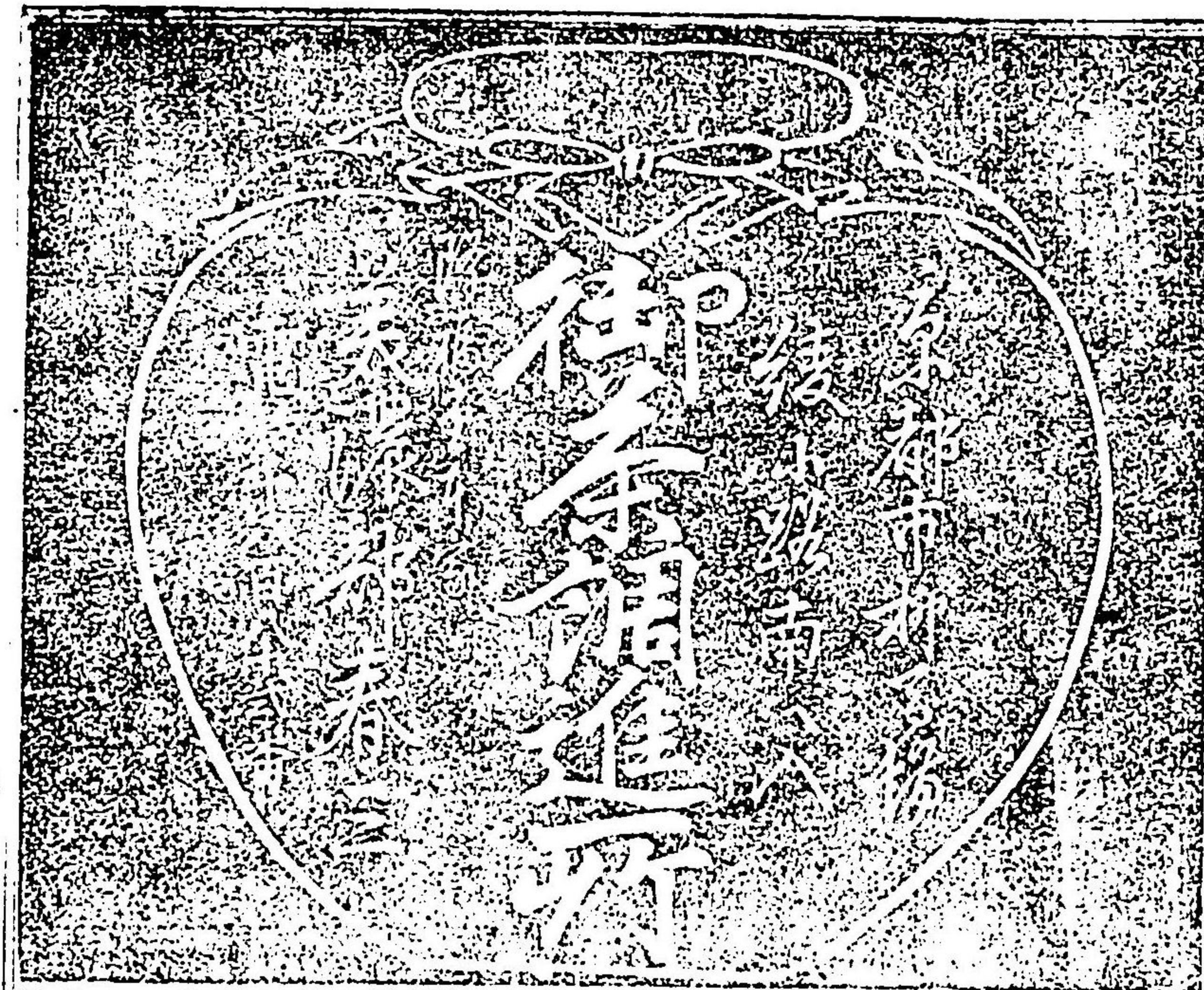
STATIONER, TEA DEALER.

(SANKODO).

T. Araki.

Shijo Nawate,

KYOTO, JAPAN.



松

刻卷煙草製造販賣

國分煙草

中川彦次郎

京都市小通七條上米屋町

電話六零七番

宇治旅館

今回は特に
 勉強し充分
 注意の上精
 撰調理可仕
 候間賑々敷
 御來樓を祈
 る

宇治停車場前
 鳥居樓
 宇治川岸
 菊屋萬碧樓
 全
 萬屋萬年樓
 全
 宇治温泉龜石樓
 宇治橋西詰
 佐々木亭
 全
 酒市亭

山城國宇治町 小卸賣 (順はろい)

煎玉 煎玉 煎玉 煎玉 煎玉 煎玉 煎玉
 茶露 茶露 茶露 茶露 茶露 茶露 茶露
 製製 製製 製製 製製 製製 製製 製製
 上 上 上 大 岩 井 勘 造
 林 林 林 川 米 井 勘 造
 道 三 春 米 井 勘 造
 之 入 松 吉
 亟 入 松 吉

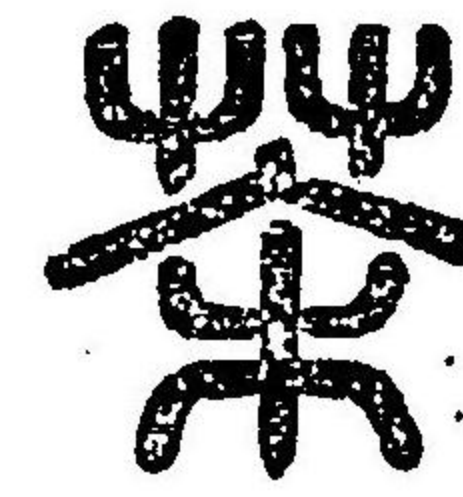
煎玉 煎玉 煎玉 煎玉 煎玉 煎玉
 茶露 茶露 茶露 茶露 茶露 茶露
 製製 製製 製製 製製 製製 製製
 山 坂 増 中 御 辻
 田 部 井 村 茶 利
 庄 卯 茶 藤 屋 兵
 三 之 茶 藤 屋 通 衛
 郎 助 舖 吉 園

宇治旅館

今回は特に
 勉強し充分
 注意の上精
 撰調理可仕
 候間賑々敷
 御來樓を祈
 る

宇治停車場前
 鳥居樓
 宇治川岸
 菊屋萬碧樓
 全
 萬屋萬年樓
 全
 宇治温泉龜石樓
 宇治橋西詰
 佐々木亭
 全
 酒市亭

(順はろい)賣小卸 町治宇國城山



△ 上 林	玉碾 茶露 製製	●●● 上 林	煎玉碾 茶露 製製製	煎碾 茶茶 製製	◎ 大 川	煎玉碾 茶露 製製	◎ 入 江	煎玉碾 茶露 製製
上 林	銘銘 巖極	林	銘銘 花殘幾 代の白 橘月	上 林	銘銘 宇極 治山	◎ 大 川	◎ 入 江	銘銘 壽雪 月花
道 之 亟	茗昔	三 入		松	米 吉	岩 井 勘 造	太 郎	

△ 山 田 庄 三 郎	煎玉碾 茶露 製製	◎ 坂 部 卯 之 助	煎玉碾 茶露 製製	◎ 增 井 茶 舖	◎ 中 村 藤 吉	◎ 御 茶 屋 通 園	◎ 辻 利 兵 衛	煎玉碾 茶露 製製
銘銘 花妙 樂橋	◎ 商 會	銘銘 寺一 卯雲 園花	銘銘 若藏 綠	銘銘 若藏 綠	銘銘 初寶 綠園	銘銘 初寶 綠園	銘銘 大駒 陵門	

金屬器類鍍止メ液

(ルメナエニボアサ)

英國ケニカハ會社製造日本一取扱賣

金銀箔紛製造販賣

并ニ金屏風類種々

内外博覽會ニ於テ各種ノ賞牌受領ス

京都市松原通富小路角

河本喜兵衛

電話(四百三十三番)

電話(千四百五十二番)工場京都市蹴水通川端東

電話(浪千五百十七番)分店京都市大傳馬町三丁目

電話(東千二百九十五番)分店大阪市北久宝寺町三丁目

本液ハ鍍ヲ防ギ永久保存スルモ浸色セズ光澤ヲ

水ノ不純物ヲ除去スルニ宜シク用テ之ヲ洗フ

京都市麩屋町姉小路

旅館 俵屋

特電話(八番)

金銀箔劔

并金屏風類

製造販賣

京都市

南条五通町之間

可児彦治郎

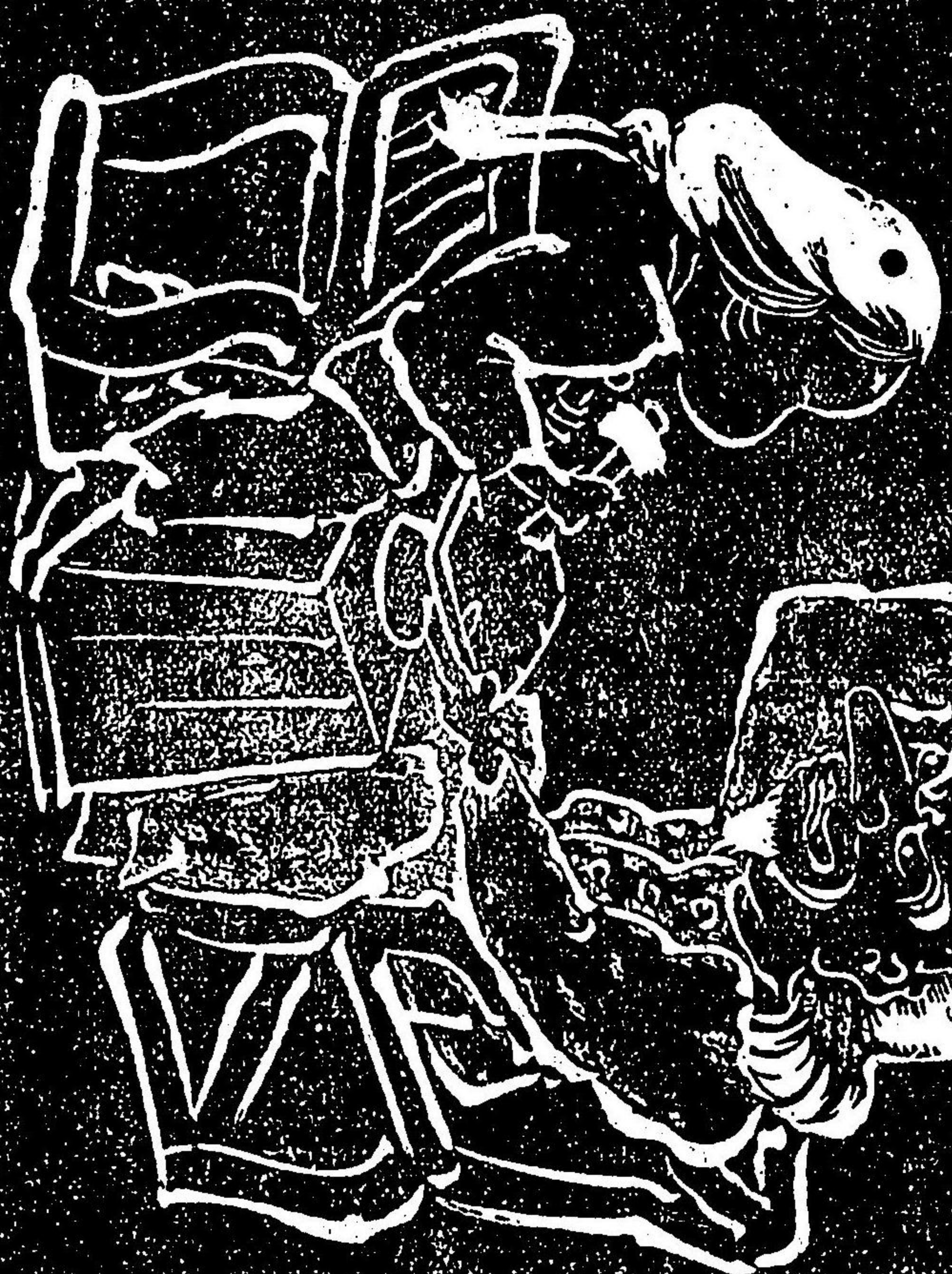
商號 美濃利

特電話 千七百七番

418

張 達 用 御 寺 願 本 兩 五

京都市高倉五條上
鈴村商店
特電話 千七百四十番



齒科用金箔并押紙屏風類

金銀箔劔製造販賣

箔

商標

金銀箔諸類



重

京都

入西町室通原松

店商重田福

番七拾三百九話電特

金銀箔粉消
梨子地金具

並三自家發明擬金箔類
金銀箔諸泥屏風類

製造販賣所

京都堀川通松原下

小寺商廊

電話四百九番

K. Kodera.

Horikawa Mitsubara Minami.

KYOTO, JAPAN.

Dealer and Manufacturer.

All kinds of metal leaves and powders.

and

Dealer in

All Kinds of Screens.

商標

金銀箔諸類

時

都京

入西町室通原松

店商重田福

番七拾三百九話電特

金銀箔粉消
梨子地金具

並=自家發明擬金箔類
金銀箔諸泥屏風類
製造販賣所

京都堀川通松原下

小寺商廊

電話四百九番

K. Kodera.

Horikawa Mitsubara Minami.

KYOTO, JAPAN.

Dealer and Manufacturer.

or

All kinds of metal leaves and powders.

and

Dealer in

All Kinds of Screens.

金銀諸酒類
製造販賣

商標

岩坪製酒所
岩坪商店

電話九百七十五番
 電話九百七十五番

清酒 代菊	一	〇	同 下 儀助	清酒 蓮茶	二	〇	同 末次郎
清酒 有福	二	〇	同 川本元三郎	清酒 山雪	二	〇	同 山下夕禾
清酒 永生	二	〇	同 大八木三太郎	清酒 山雪	二	〇	同 山下夕禾
清酒 黄金酒	二	〇	同 松本治平	清酒 白龍	二	〇	同 寺田淺吉
清酒 玉之露	一	〇	同 北川藤兵衛	清酒 小向山	一	〇	同 石川周治郎
清酒 若竹	一	〇	同 中井彌左衛門	清酒 稻の露	一	〇	同 上田彌兵衛
清酒 花同	二	〇	同 菅本彌一郎	清酒 正宗	一	〇	同 安村房之助
清酒 萬慶	二	〇	同 木村源助	清酒 友白	二	〇	同 元川忠次郎
清酒 鶴の露	一	〇	同 海老名文吉	清酒 伏七	二	〇	同 山田長左衛門
清酒 太正宗	一	〇	同 宮下儀兵衛	清酒 駒ヶ龍	二	〇	同 竹内爲次郎
清酒 一幾久	二	〇	同 倉田保之助	清酒 正宗	二	〇	同 山田常吉
清酒 翁艸	一	〇	同 松井新七	清酒 正宗	二	〇	同 山田常吉

第五部(化學工業) 第二十一類(醸造品)

金銀諸箔類 製造販賣



京都松原高倉西入

岩坪商店

電話六百四十番

京都市鴨東聖護院町

岩坪製箔所

電話九百四十七番

清酒千代鶴	一	〇七〇	京都府小川町	宮下 儀助	清酒遊園	二	〇六〇	京都市西橋邊	西村末次郎
清酒有福	二	〇五〇	同 佛光寺邊	川本元三郎	清酒蓬萊	二	〇六〇	同 本町一丁	三木宗兵衛
同 都刺		〇四〇	同 油小路四入	大八木正太郎	清酒鹿柳	二	〇六〇	同 烏丸邊魚	山下 夕木
清酒永生	二	〇四〇	同 同上	松本 治平	清酒山雪	二	〇六〇	同 堀場邊	山下 德藏
同 黃金櫻		〇三〇	同 本町五	北川藤兵衛	清酒しら菊	一	〇五〇	同 東入	東海院西入 兼務担当人 大橋彌七
清酒玉之露	一	〇三〇	同 七條邊	中井彌左衛門	清酒白龍	二	〇六〇	同 本町八	寺田 淺吉
清酒若竹	一	〇二〇	同 仰光町	菅本彌一郎	清酒小向山	一	〇四〇	同 船井部邊	石川周治郎
同 花司		〇一〇	同 同上	木村 源助	清酒丹頂	三	〇三〇	同 京都市大和	淺田 孝吉
同 萬葉		〇一〇	同 古門前	海老名 文吉	清酒稻の露	一	〇三〇	同 新町	上田彌兵衛
清酒鶴の露	一	〇一〇	同 竹屋町	宮下儀兵衛	清酒神正宗	一	〇三〇	同 魚掛上	安村房之助
同 枝葉正宗		〇一〇	同 本町	太田久次郎	清酒純正	二	〇三〇	同 立見下	元川忠次郎
清酒太正宗	一	〇一〇	同 寺町	倉田保之助	清酒友自	二	〇三〇	同 御池北入	山田長左衛門
同 一富士		〇一〇	同 新町	松井 新七	清酒伏七	二	〇三〇	同 御池	木村 多助
清酒一幾人	二	〇一〇	同 中長者町	中田儀三郎	同 五三	二	〇三〇	同 新町	竹内為次郎
同 赤十字		〇一〇	同 大宮邊	安田伊三郎	清酒美盛	二	〇三〇	同 同前	山田 常吉
清酒翁艸	一	〇一〇	同 同上		同 分桐正宗	二	〇三〇	同 堀川	
同 旭日正宗		〇一〇	同 大和						
同 井筒		〇一〇	同 同上						

第五部(化學工業) 第二十一項(釀造)

清酒純正宗	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒白鳩印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒松釀	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	梅花正宗	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒柳正宗	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒白龍	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒慶長印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒山吹	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒⊕二印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒飛梅印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒花園印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒芙蓉	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒富利袖	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒純正宗	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
富國盛印	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒橋正宗	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
鳳麟正宗	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒大丈夫	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
銘酒桃酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒正國	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒松正宗	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒(標)登録	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒島露	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒日吉丸	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒春菊	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒菱鶴	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ

清酒富士	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒流の川	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒豊年	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒富久正	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒(標)杯	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒玉富貴	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒日本櫻	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒福盛	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒泉川	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒玉椿	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒多加良	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒松翠	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒國光	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒しら陽	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒白露	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒長鶴	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒丸近正宗	二	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒松ノ春	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒松ノ鷹	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒紅葉	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒岩の關	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒政鶴	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒横綱	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒日本杉	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ
清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ	清酒	一	〇〇	京市都寺町風丸土田ソノ

清酒男山	一	四〇〇	加佐郡河守町	由里清右衛門	桑酒	一	四〇〇	船井郡八木村	水口俊助
清酒三風	一	四〇〇	與野郡宮津町	三上勘兵衛	桑酒	一	三〇〇	同	八木利助
清酒初川	二	三〇〇	同	石井與右衛門	味淋酒	二	三〇〇	京都市新高倉	山川庄太郎
銘酒尾尾清水	三	一、五〇〇	同	井上治兵衛	幾那酒	一	一、〇〇〇	久世郡湊町	中村庄六
銘酒白糸	一	二〇〇	同	宮崎佐平治	味淋酒	一	三〇〇	同	四方卯之助
銘酒憲寶	一	二五〇	同	九郎右衛門	燒酎	一	三、五〇〇	同	森本甚三郎
清酒竹の露	一	三〇〇	熊野郡川上村	飯室右之助	甘酒	一	四〇〇	京都市酒小路	久住利右衛門
旭山清酒	二	一、〇〇〇	船井郡世木村	井尻良造	酢	二	四〇〇	同	佐藤安治郎
清酒大江山	二	一、三〇〇	八木村	秋田彌三郎	酢砂川各種	三	一、〇〇〇	同	本郷平七
清酒左正宗	三	一、六〇〇	京都市三條小	村山忠二郎	清酒	一	二、五〇〇	同	飯下辰之助
清酒千島	二	一、〇〇〇	相樂郡相樂村	福田善九郎	生酒	一	二、〇〇〇	同	青山彦太郎
燒酎	二	六〇〇	同	木村捨二郎	酢	一	二、〇〇〇	同	大石嘉市郎
清酒九坂正宗	二	一、五〇〇	同	吉川吉次郎	酢	一	二、〇〇〇	同	幾松
味淋酒	二	一、〇〇〇	同	吉川吉次郎	酢	一	二、〇〇〇	同	幾松
清酒吉野川	二	一、三〇〇	同	吉川吉次郎	酢	一	二、〇〇〇	同	幾松
箱入種麹	二	一、八〇〇	同	吉川吉次郎	酢	一	二、〇〇〇	同	幾松
桑酒	一	四、八〇〇	同	吉川吉次郎	酢	一	二、〇〇〇	同	幾松

醬油酢	二	一、九〇〇	同	田中甚三郎	赤九醬油	一	一、五〇〇	同	中野政和
醬油醋	二	一、七〇〇	同	三上常藏	今印醬油	一	一、八〇〇	同	森本義夫
今印醬油	一	一、五〇〇	同	澤井儀助	衛生結醬油	一	三〇〇	同	小山兵造
醬油	一	一、六〇〇	同	葛西恒之助	醬油	一	二〇〇	同	城戸平左衛門
醬油	一	一、六〇〇	同	安本鶴之助	刻印醬油	二	二、〇〇〇	同	佐々木兵吉
醬油	一	一、七〇〇	同	岡村又次郎	多丸印醬油	二	三、〇〇〇	同	小野正兵衛
舍醬油	一	一、七〇〇	同	吉川太郎兵衛	分印醬油	一	一、五〇〇	同	木田佐十郎
醬油	一	一、七〇〇	同	山中小兵衛	今印醬油	一	一、五〇〇	同	安田又一
醬油	一	一、七〇〇	同	石野彌四郎	谷印醬油	二	三、〇〇〇	同	浮田會社
醬油	一	一、七〇〇	同	田中喜右衛門	谷印醬油	二	三、〇〇〇	同	谷口嘉平
醬油	一	一、七〇〇	同	奥田久五郎	松印醬油	一	一、五〇〇	同	森源太郎
今印醬油	一	一、八〇〇	同	安本源之助	松印醬油	一	一、五〇〇	同	中尾常次郎
九重別ノ印	一	一、二〇〇	同	奥田龍之助	醬油	一	一、七〇〇	同	井尻熊一郎
上印醬油	二	一、三〇〇	同	渡邊安次郎	醬油	一	一、七〇〇	同	井尻熊一郎

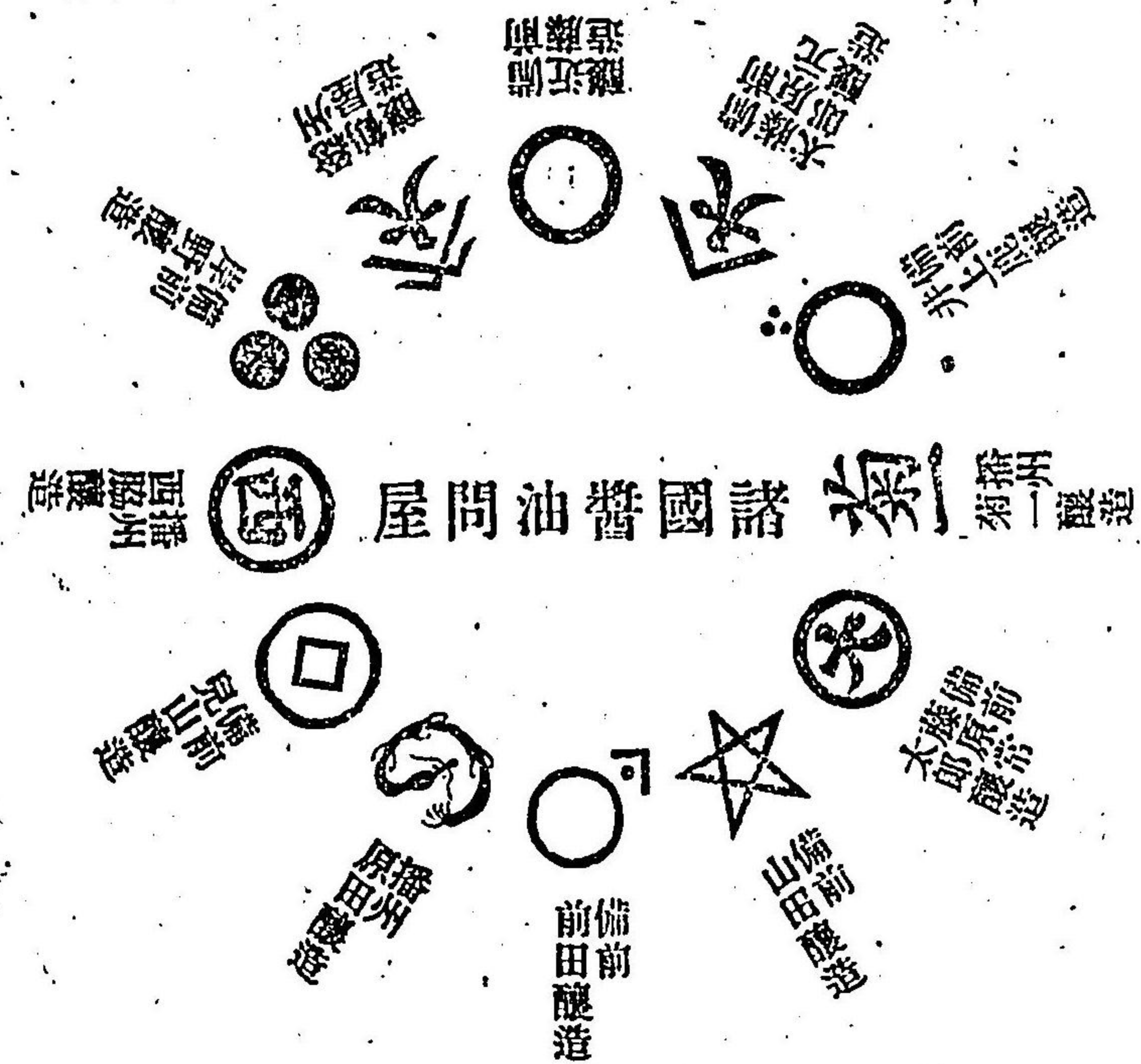
醬油	一	三〇	天田郡福知山町字東長	白味噌	二	六〇	京都市大宮區三條下ル	大田久兵衛
醬油	一	三〇	同字下新	白味噌	二	五〇	同七條通	西田幸助
醬油	一	一七	京都市東區津町字宮本	白味噌	二	六〇	同油小路通	石野庄一郎
醬油	一	二五	同岩瀬村字	赤味噌	一	三〇	同小通	上野太助
醬油	一	二〇	同宮津町字	赤味噌	一	二五	同室町通	木田茂一郎
醬油	一	三〇	同岩瀬村字	納豆	一	三〇	同室町通	田邊宗吾
醬油	一	二〇	同宮津町字	唐納豆	一	五〇	同室町通	河村源四郎
醬油	一	二〇	同宮津町字	須知味噌	一	七〇	同須知町	谷辰之助
醬油	一	二〇	同宮津町字	辨天納豆	一	三〇	同竹野郡間人村	鶴次
四辻醬油	一	一七	同市村字	白味噌	二	三〇	同室町通	村井ゐく
別製白味噌	二	五〇	京都市丸太町	白味噌	二	四〇	同油小路通	石井嘉藏
白味噌	二	六〇	同建仁寺町	白味噌	二	四〇	同油小路通	近藤吉左衛門
加茂川味噌	一	三〇	同馬町通大	白味噌	一	六〇	同御幸町五	太田伊三郎
金山寺味噌	二	七〇	同御幸町	白味噌	一	六〇	同大和路	田中豊吉
御前味噌	二	三〇	同新町通	白味噌	一	五〇	同大宮通	田中久右衛門

第五部(化學工業)

第二十二類(陶磁器)

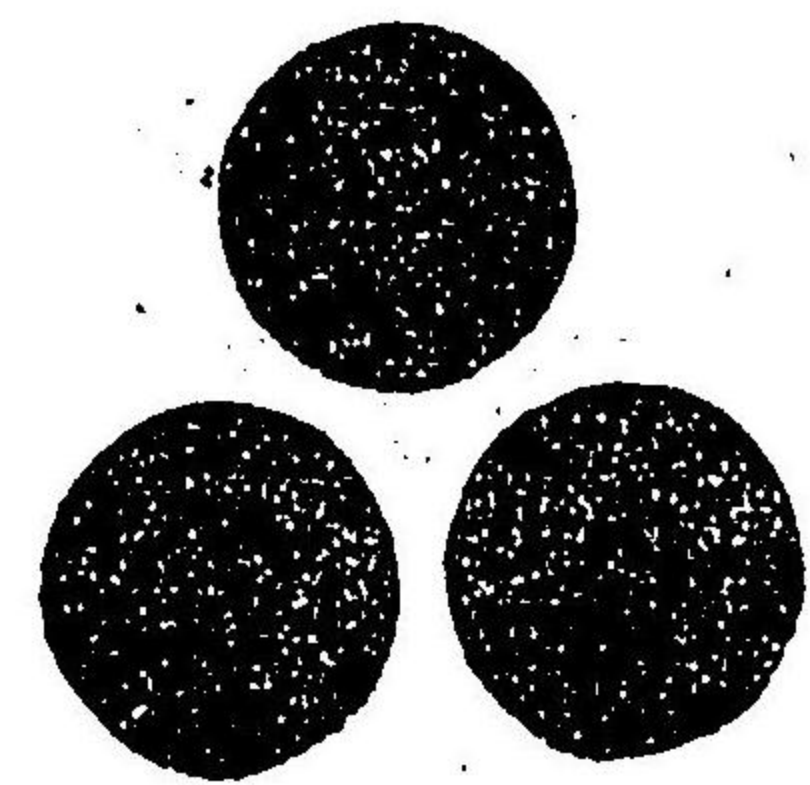
陶器鉢其他	六	八〇	京都市大和区大津	食器其他	一六	一七五	京都市五條區三條	酒見外治
花瓶各種	五	三〇	同清水四丁	茶器德利	三五	一八〇	同五條通	小島利兵衛
花瓶皿各種	一〇	三九	同三條通	蓋物鉢其他	四	一八〇	同七條通	橋本爲七
花瓶香爐	二	三五	同四條通	茶器鉢其他	四	一八〇	同七條通	橋本爲七
奈良茶酒器	六	七〇	同四條通	茶具水指	六	五〇	同衣通	宮本てい
花瓶其他	一九	三三	同清水一丁	水香德利	五	四〇	同五條通	寺林香治郎
花瓶皿其他	一三	三二	同白川三	花瓶各種	六	三〇	同白川三	楠部千之助
花瓶香爐	一九	三三	同清水一丁	彫刻鉢洗面	九	二〇	同五條通	小川卯之助
陶器水指茶	一四	三三	同大野町	其他各種	三	二五	同五條通	淺見五郎助
菓子鉢茶碗	一〇	一四	同清水三	花瓶風爐	三	二五	同五條通	淺見五郎助
香爐花瓶	三	二〇	同寺町五	茶器鉢花瓶	三	二五	同五條通	河村卯三郎
其他各種	三	二〇	同寺町五	花生各種	七	二〇	同三條通	丹山磁郎
				其他各種	一	二〇	同馬町通	田村宇兵衛
				其他各種	四	三〇	同馬町通	吉岡吉之助
				其他各種	一	一五	同油小路	岡本富之助
				其他各種	一	一〇	同五條通	平岡利兵衛

店賣販約特油醬國諸



中野支店 山城綴喜郡大住

南原松町屋木市都京



屋丸赤號商
店商和政野中

中野支店 丹波龜岡北町

宗正稻等優最



惠比壽下八特約店
銘酒純正宗發賣元
中野支店

用畫繪明發新最

商賣販造製具繪岩

付 = 候之有來出品數物自物岩品製右
候下被車來御へ店弊ハ君諸ノ用入御
中可上差書價定レ入 = 覽御品現バ得
候上願奉程之文注御共少多間候

入へ北條四通路小油都京

堂 花 萬

郎三治井福

送金總テ無手数料
銀行一般ノ業務ハ
精々御便利ニ取扱
可申候

京都市大宮通笹屋町南入

西陣支店

電話(七三〇番)

京都市三條通柳馬場西入

株式 第四十九銀行

會社

電話(壹貳壹番)
(壹五〇參番)

同市東洞院五條南入

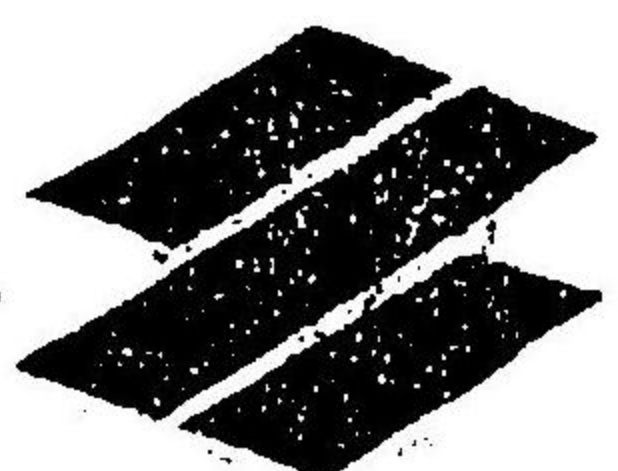
南支店

電話(六五七番)

資本金壹百萬圓

三條通東洞院東入

酒造



火

保險

災

電話六九一

京都支店

A brief Summary of

Artistic Kioto Porcelain and
china wares.

京都 京磁器美術

錦光山製陶所

京都栗田

AWKATA, YOTO.

ESTABLISHED 1945

KINKOZAN POTTERY

5,222

陶磁器製造業

販賣業

京都市五条阪西大谷前

小川文齋

5,222



MANUFACTURER OF

ALL KINDS OF CURIO,

— COMPRISING OF —

Koto-Kiyomizu and Satsuma Porcelain Wares.

KIOMIZU-ZAKA,
Kyoto, Japan.



京都清水一丁目
福藏
陶器商

5,222

SHIRAKAWABASHI Sanjo-sagaru, KYOTO JAPAN.

Telephone No. 535

ETC, ETC, ETC.

Cloisonne Wares,

Artistic of Satsuma Porcelain &

MANUFACTURERS & DEALERS IN

GOSHIKAIISHA.

YASUDA OTOYA YASUYA

TRADE MARK

商標

京都陶磁器合資會社

電話五百零八番

京都市白川橋筋三條下ル町

商標

京燒陶磁器商

京都部 御
京都市五條阪三日

全賣部 小
清水阪三日
酒見支店

TOZAN ITO,

Manufacturer & Dealer in

ARTISTIC FAIENCE

—AND—

CHINA, & PORCELAIN
WARES.

山 伊東 陶磁器師
京都部 祇園石壇南
Opposite Gion Temple,
KYOTO, JAPAN.



日朝井淺

側南目丁一水清都京

陶磁器製
業賣販
造

累陶
世磁
器竈
元製
造
京都市五條阪
高橋道八



SHOZAN MATSUNO.

MANUFACTURER OF

ARTISTIG PORCEAINLS.

Awata, Kyoto, Japan.

賣販造製器磁陶
田栗都京

山祥野俣元竈

The Manafactory of
 Scientific & Industrial
 por-celain.

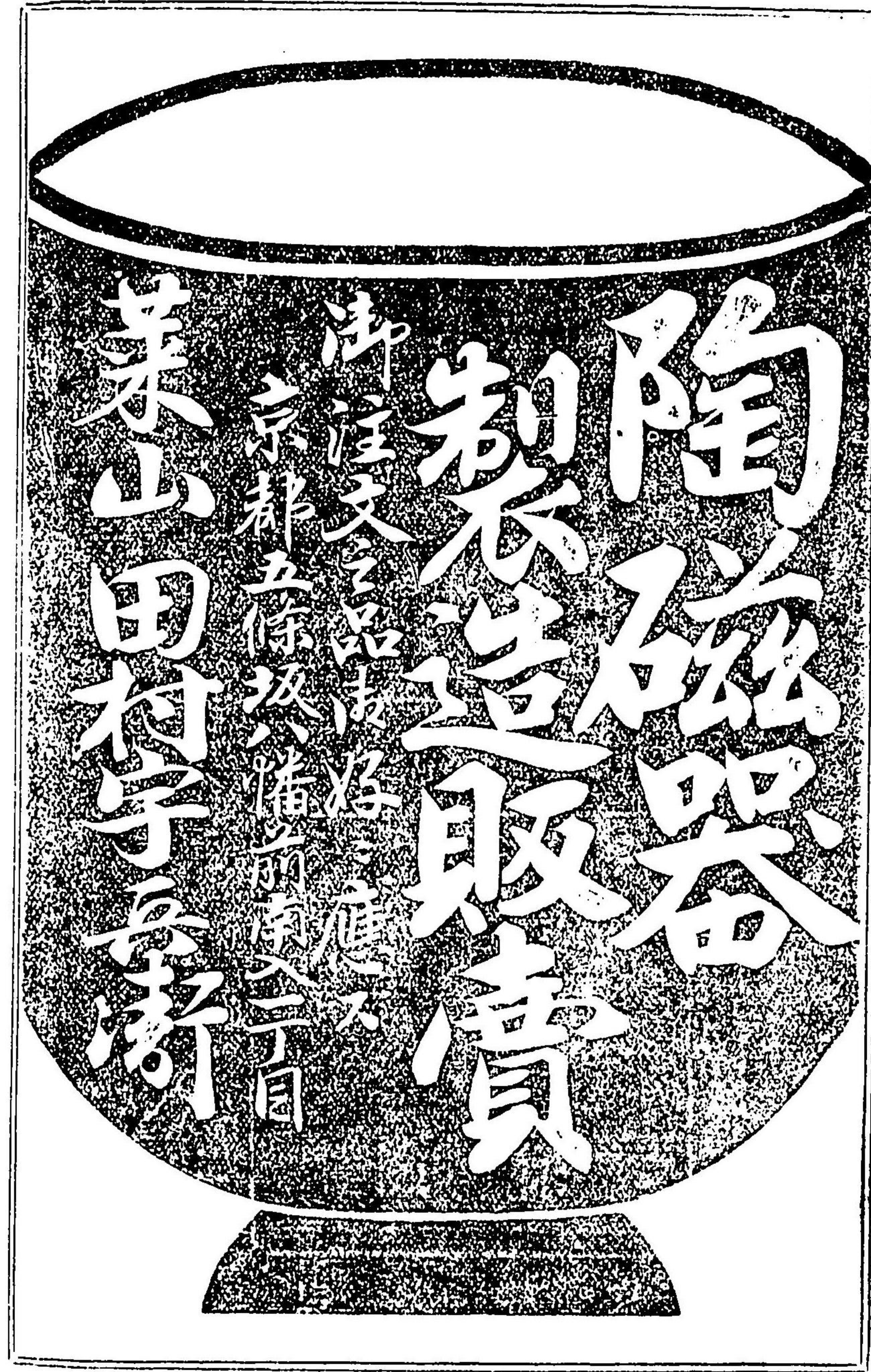
學術及工業用
 陶器製造家也

耕山製陶所

京都市下谷區西町目黒六武倉戸

耕山愛太郎

電話千六百七十番



5.20

The Manafactory of
 Scientific & Industrial
 por-celain.

學術及工業用
 陶器製造家也

耕山製陶所

京都市五條橋東四丁目第拾貳番戶

耕山愛太郎

電話千六百七十番

5.92



5.90

風月壺中

精選海陸珍味
 價廉調適
 割烹德貴意

京都市鞍馬區池坊

新亭

特電二十三番

N. UNO,

Artistic Porcelain and

China Wares,

Flower vase, Lamp Stand

ETC.,

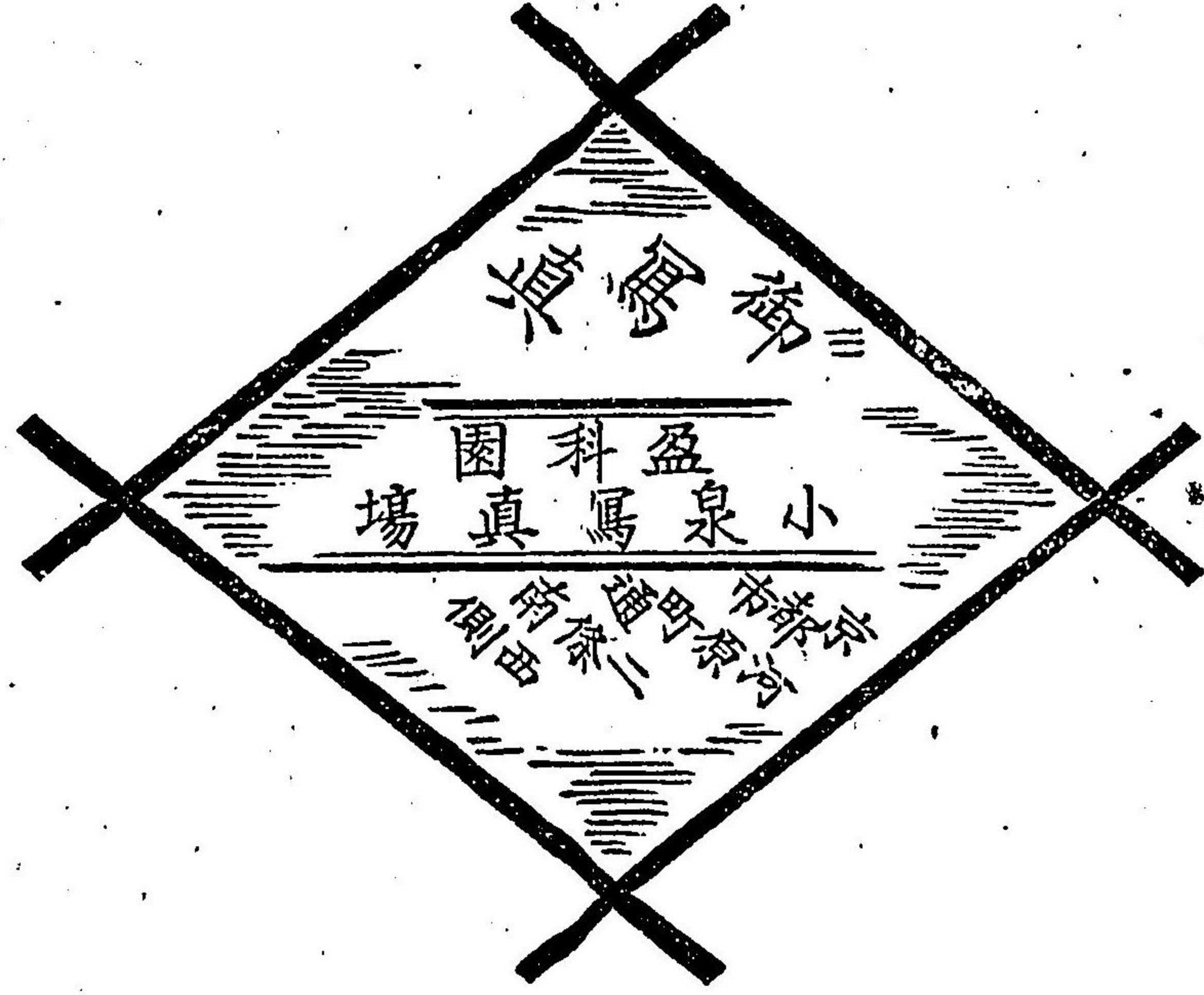
Gojosaka Gochiome

KYOTO, JAPAN.

目丁五坂條五都京

松仁野宇

5,22



反物大物用文庫紙	五	一、五〇〇	京都市東區町	神谷伊兵衛
反物小物用文庫紙	六	一、〇〇〇	京都市東區町	川島由之助
本札紙其他	四	三、〇〇〇	堺市東區二	野崎捨三郎
五色地本金箔紙引	三	四、〇〇〇	同 寺町通	山本彦兵衛
老松形大色紙其他	三	四、〇〇〇	池上	平松九兵衛
其 他	四	三、〇〇〇	同 柳馬場	吉田友次郎
其 他	五	四、〇〇〇	同 島丸通	伊東 忠吉
其 他	五	四、〇〇〇	同 六角通	太田平兵衛
其 他	九	七、〇〇〇	同 鶴屋通	和 田 良雄
其 他	一	八、〇〇〇	同 柳馬場	津久間新助
其 他	一	八、〇〇〇	同 寺町通	八代三次郎
其 他	一	八、〇〇〇	同 寺町通	櫻井安三郎
其 他	一	八、〇〇〇	同 寺町通	三上庄治郎
其 他	一	八、〇〇〇	同 寺町通	信氏平兵衛
其 他	一	八、〇〇〇	同 寺町通	高野伊兵衛

而取模倣付其他	一	一、〇〇〇	京都市東區町	川島由之助
其 他	二	九、〇〇〇	同 新嘉橋	吉川 愿厚
其 他	一	一、三〇〇	同 中立賣	原田善右衛門
其 他	八	二、八〇〇	同 寺町通	長岡 清助
其 他	三	二、七〇〇	同 二條通	植南清次郎
其 他	三	二、七〇〇	同 柳馬場	水守新太郎
其 他	三	二、七〇〇	同 柳馬場	小北幸次郎
其 他	三	二、七〇〇	同 東區通	小林 淺藏
其 他	三	二、七〇〇	同 東區通	多治瓜慶明
其 他	三	二、七〇〇	同 東區通	藤 田 猪吉
其 他	三	二、七〇〇	同 寺町通	西村彌兵衛

第五部(化學工業)

第二十七類(皮革類)

帶革各種	五	一、〇〇〇	京都市東區町	京都革製造所
------	---	-------	--------	--------

第二十八類(塗物類)

手提及花生	二	五、〇〇〇	同 市川橋	荒川 善吉
大鉢及火鉢	二	二、〇〇〇	同 下長者町	福井豊次郎
吸物膳及	八	三、〇〇〇	同 夷川通	岡村與三吉
盃洗外	三	三、〇〇〇	同 高辻通	三上幸三郎
會席家具及	二	六、〇〇〇	同 高辻通	三上忠七
衣服盆外	六	七、〇〇〇	同 高辻通	三上治三郎
料紙硯箱及	六	七、〇〇〇	同 高辻通	三上治三郎
家具及會席	六	七、〇〇〇	同 高辻通	三上治三郎
書席付廣蓋	一	九、五〇〇	同 小島通	吉田平三郎
及重箱外	一	四、二〇〇	同 高辻通	川上 ヲイ
廣蓋及卷	三	三、〇〇〇	同 高辻通	俣野 利助
重箱及廣蓋	四	二、〇〇〇	同 高辻通	島津 平吉
御厨子黒棚	二	〇、〇〇〇	同 高辻通	田中彌兵衛
及廣蓋	二	〇、〇〇〇	同 高辻通	田中彌兵衛
短冊箱及	九	九、〇〇〇	同 高辻通	岩村源之助
折敷膳及	一	二、〇〇〇	同 高辻通	並河猪之助
菓子椀及	三	四、〇〇〇	同 高辻通	田中善次郎
吸物椀及	三	四、〇〇〇	同 高辻通	田中善次郎
黒溜塗家具	三	四、〇〇〇	同 高辻通	田中善次郎
及二楷卓	三	四、〇〇〇	同 高辻通	田中善次郎